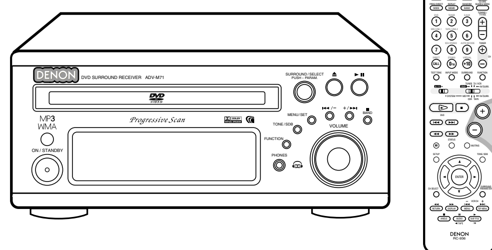
DENON

取扱説明書

ADV-M71

DVD SURROUND RECEIVER

DVD サラウンドレシーバー



安全にお使いいただくためにー必ずお守りください。

- お買い上げいただき、ありがとうございます。
- ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- お読みになった後は、後日お役に立つこともありますので、必ず保管してください。

目　次

はじめに

基本操作

接続のしかた

いろいろな操作

その他

1 安全上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずよくお読みください。

絵表示について　　この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。



注意　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

[絵表示の例]



△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。



⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



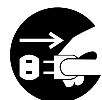
●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。



警告

■ 安全上お守りいただきたいこと

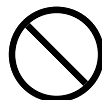
万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く



電源プラグをコンセントから抜け

煙が出ている、変なにおいがする、異常な音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、煙が出なくなるのを確認してから販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですので絶対におやめください。

内部に異物を入れない



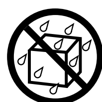
通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。万一内部に異物が入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

安全上のご注意（つづき）

⚠ 警告 つづき

■ 安全上お守りいただきたいこと

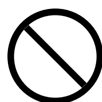
水が入ったり、濡らしたりしないように



雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。火災・感電の原因となります。

電源コードは大切に





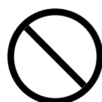
電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。

キャビネット（裏ぶた）を外したり、改造したりしない



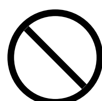
内部には電圧の高い部分がありますので、触ると感電の原因となります。内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。
この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

ご使用は正しい電源電圧で



表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。

ACアウトレットのご使用は表示供給電力内で



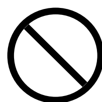
接続する装置の消費電力の合計が表示供給電力を超えないようにしてください。火災の原因となります。
また供給電力内であっても、電源を入れたときに大電流の流れる機器（電熱器具・ヘアードライヤー・電磁調理器など）は接続しないでください。

雷が鳴り出したら



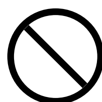
電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

乾電池は充電しない



電池の破裂・液漏れにより、火災・けがの原因となります。

落としたり、キャビネットを破損した場合は



まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

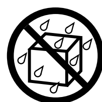
■ 取り扱いについて

風呂・シャワー室では使用しない


水場での
使用禁止

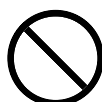
火災・感電の原因となります。

この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水などが入った容器を置かない



こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

この機器の上に小さな金属物を置かない

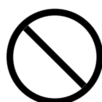


万一内部に異物が入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

⚠ 注 意

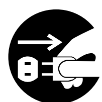
■ 安全上お守りいただきたいこと

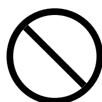
電源コードを熱器具に近付けない



コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜くときは





電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

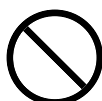
濡れた手で電源プラグを抜き差ししない



感電の原因となることがあります。

電池を交換する場合は





極性表示に注意し、表示通りに正しく入れてください。間違えますと電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。指定以外の電池は使用しないでください。また新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

電源を入れる前には音量を最小にする



突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

ヘッドホンを使用するときは、音量を上げすぎない



耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

機器の接続は説明書をよく読んでから接続する



テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器などの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

ディスク挿入口に手を入れない



指を挟まれないように注意

特に幼いお子様にご注意ください。けがの原因となることがあります。
万一手を挟まれた場合は、すぐに本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

■ 置き場所について

不安定な場所に置かない



ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

次のような場所には置かない



火災・感電の原因となることがあります。

- 調理台や加湿器のそばなど、油煙や湯気が当たるようなところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 直射日光の当たるところや暖房器具の近くなど、高温になるところ

安全上のご注意（つづき）

⚠ 注 意 つづき

■ 置き場所について

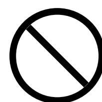
壁や他の機器から少し離して設置する



壁から少し離して据え付けてください。また放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

■ 取り扱いについて

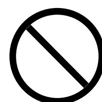
通風孔をふさがない



内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。次のような使いかたはしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

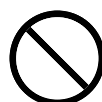
- 仰向けや横倒し、逆さまにする
- 押し入れ、専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い場所に押し込む
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたんや布団の上に置いて使用する

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない



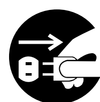
特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

重いものをのせない

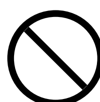


機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

移動させる場合は



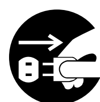
まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。



この機器の上にテレビなどを載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

■ 使わないときは

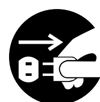
長時間の外出・旅行の場合は



安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

■ お手入れについて

お手入れの際は



安全のため電源プラグをコンセントから抜いておこなってください。感電の原因となることがあります。

5年に一度は内部の掃除を



販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうと、より効果的です。

なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。

2 取り扱い上のご注意

結露現象について

■結露とは

冬期に暖房をした部屋の窓ガラスに水滴がつくような現象をいいます。

■結露が起こる条件は

冬期などに本機を戸外から暖房中の室内に持ち込んだり、部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると本機内部の動作部に露がつき、正常に動作しなくなることがあります。
結露は、夏にエアコンの風が直接当たるところでも起こることがあります。その場合には本機の設置場所を変えてください。



■結露後の処置は

◎結露が起こった場合は、電源を入れてしばらく放置しておいてください。周囲の状況によって異なりますが、1〜2時間で使用できるようになります。

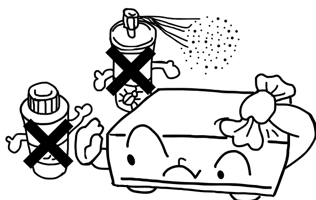
◎ディスクに露がついている場合がありますので、きれいに拭き取ってください。

お手入れについて

■ キャビネットや操作パネル部分の汚れを拭き取るときは、柔らかい布を使用して軽く拭き取ってください。

◎化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。

■ ベンジン・シンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると変質したり変色することがありますので使用しないでください。



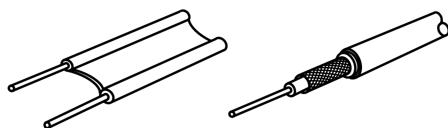
設置の際のご注意

■ 本機やマイクロコンピューターを搭載した電子機器をテレビと同時に使用する場合、テレビの音声や映像に雑音や画面の乱れが生じることがあります。このような場合は次の点に注意してください。

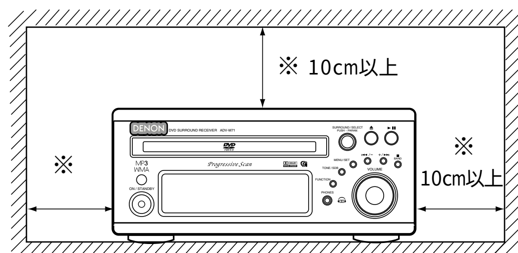
◎ 本機をテレビからできるだけ離してください。

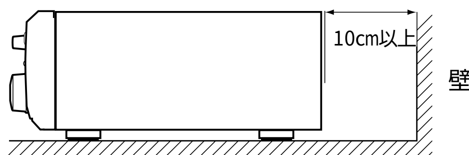
◎ テレビのアンテナ線を電源コードおよび接続コード類から離して設置してください。

◎ 特に室内アンテナや300Ωフィーダー線をご使用の場合に起こりやすいので、屋外アンテナおよび75Ω同軸ケーブルのご使用をおすすめします。



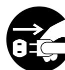
■ 放熱のため、本機の上に他のAV機器や置き物などを直接重ねないで10cm以上離して設置してください。（下図参照）





使わないときは

■ふだん使わないとき



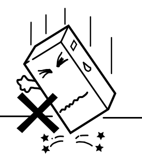
◎電源を切ってください。

◎外出やご旅行の場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

■移動させるとき

◎衝撃を与えないでください。

◎ディスクを取り出し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、他のオーディオ機器との接続コード類を取り外してから移動させてください。



その他のご注意

■ 入力端子に機器を接続していない状態で入力の切り替えをおこなうと、クリックノイズが発生することがあります。このような場合は、主音量調節つまみを絞るか、入力端子に機器を接続してください。

■ 電源ボタンを押してスタンバイ状態にしても、一部の回路は通電していますので、外出やご旅行の場合は必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

■ プリアウト端子およびスピーカー端子には、ミューティング回路が組み込まれています。このため、電源投入後数秒間は出力信号が大幅に減衰されます。この動作時に音量を調節しますと、ミューティング終了後非常に大きな出力となりますので、音量調節は必ずミューティング終了後におこなってください。

■ 取扱説明書を保存してください。
この取扱説明書をお読みになった後は、保証書とともに大切に保存してください。また、裏表紙の記入欄に必要事項を記入しておくと便利です。

著作権について

ディスクを無断で複製・放送・公開演奏・レンタルすることは禁じられています。

ご注意

本書に使用しているイラストは、取り扱い方法を説明するためのもので、実物とは異なる場合があります。

ステレオ音のエチケット



◎楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。
◎隣り近所への配慮（おもいやり）を十分にいたしましょう。
◎ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で小さくも大きくもなります。
◎特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。
◎窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
◎お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

3 付属品について

★ 本体とは別に下記の付属品が入っています。ご使用の前にご確認ください。

FM用屋内アンテナ　1本	AM用ループアンテナ　1個	保証書 （梱包箱に貼り付けられています）
		取扱説明書（本書）　1冊
ビデオコード　1本	リモコン（RC-936）　1個 単3乾電池　2本	製品のご相談と修理・ サービス窓口一覧表　1枚

ご注意

- 本書に使用しているイラストは、取り扱い方法を説明するためのもので、実物とは異なる場合があります。

4 本機の特長

★ホームシアターシステムの核になるAVアンプとDVDプレーヤーをコンパクト＆スタイリッシュなボディーに一体化しました。スペースをとらず設置できるうえ、アルミフロントパネル、ディスプレイ部にハーフミラーを採用し、洗練されたデザインがインテリアにすっきりと調和します。

1．2チャンネルパワーアンプを搭載し、ドルビーバーチャルスピーカー再生に対応

35W+35W（6Ω EIAJ）のパワーアンプを搭載し、2チャンネル構成でありながら5.1チャンネルサラウンド仮想音場を再現する新技術ドルビーバーチャルスピーカーを採用しました。（ドルビーバーチャルスピーカーはドルビーラボラトリーズの専有技術です。）高性能DSPにより、ドルビーデジタル、DTS、AACのマルチチャンネルサラウンドをドルビーバーチャルスピーカーで再生できます。CDなどの2チャンネルソースに対してもドルビープロロジックIIデコーダーとの連携でドルビーバーチャルスピーカーによるサラウンド音場が再生できます。

2．3.1チャンネルプリアウトを装備し、5.1チャンネルサラウンドシステムへの発展が可能

別売のアンプ内蔵サブウーハー（DSW-3.1）とセンター/サラウンドスピーカーシステム（SYS-3.1）との組み合わせで、5.1チャンネルサラウンドシステムに発展できます。マルチチャンネルソースの正確な音場再現だけでなく、ドルビーバーチャルスピーカーでのワイドモード再生にも対応しています。

3．音場再生を拡大するドルビープロロジックIIデコーダー搭載

ドルビーサラウンドソースや音楽ステレオソースに対して音場再生を拡大するドルビープロロジックIIに対応しています。

4．DSPによるDENON独自の音場をシュミレート

2チャンネル構成時ロックアリーナ、ジャズクラブ、ビデオゲームのモードに対応。5.1チャンネル構成時は、加えて5チャンネルステレオ、モノムービー、マトリックスのモードに対応します。

5．高性能DVDドライブを内蔵し、プログレッシブ映像出力に対応

DVDソフトのマルチ音声機能（最大8ヶ国語）、マルチ字幕機能（最大32ヶ国語）、マルチアングル機能や視聴制限機能など多彩な機能対応しています。

6．クイックセットアップと日本語対応オンスクリーンディスプレイ機能に対応

使用するテレビとスピーカー構成を選択するだけでDVDを楽しむことができます。また5.1chのスピーカー構成でも使用される部屋の大きさと視聴位置を選択するだけで標準的なパラメーターを自動的に設定します。日本語に対応したオンスクリーンディスプレイ機能を使用してセットアップすることができます。

7．プリセットメモリー機能付きリモコン

D-M31シリーズのMDレコーダー、カセットデッキやDENONのリモコン対応コンポーネントをはじめ、主要メーカーのテレビ、ビデオデッキのリモコン操作コードをあらかじめ記憶しているプリセットメモリー機能付きリモコンを採用しています。

8．便利なシステム機能を装備

D-M31シリーズのMDレコーダー、カセットデッキとシステム接続すると、オートファンクション、シンクロ録音、タイマー録音/再生などの操作が簡単にできるシステム機能を装備しています。

5 保証とサービスについて

1 この商品には保証書が添付されております。
保証書は所定事項をお買い上げの販売店で記入してお渡し致しますので、記載内容をご確認のうえ大切に保存してください。

2 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。
万一故障した場合には、保証書の記載内容により、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口が修理を申し受けます。
但し、保証期間内でも保証書が添付されない場合は、有料修理となりますので、ご注意ください。
詳しくは、保証書をご覧ください。

※修理相談窓口については、付属品『製品のご相談と修理・サービス窓口一覧表』をご参照ください。

3 保証期間後の修理については、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口にご相談ください。
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。

4 本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後8年です。

5 保証および修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口にご相談ください。

※当社製品のお問い合わせについては、お客様相談窓口にご連絡ください。
詳しくは、付属品『製品のご相談と修理・サービス窓口一覧表』をご参照ください。

6 著作権についてのご注意

あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

■ 放送やCD、DVD、その他の録音物（ミュージックテープ、カラオケテープなど）の音楽作品は、音楽の歌詞、楽曲などと同じく、著作権法により保護されています。

■ 従って、それらから録音したテープを売ったり、配ったり、譲ったり、貸したりする場合、および営利（店のBGMなど）のために使用する場合には、著作権法上、権利者の許諾が必要です。

■ 使用条件は、場合によって異なりますので、詳しい内容や申請、その他の手続きについては、『日本音楽著作権協会』（JASRAC）の本部または最寄りの支部にお尋ねください。

■ ディスクを無断で複製、放送、上映、有線放送、公開演奏、レンタル（有償、無償を問わず）することは、法律により禁止されています。

■ ビデオデッキなどを接続してディスクの内容を複製しても、コピー防止機能の働きにより、複製した画像は乱れます。

■ 本機は、合衆国特許権と知的所有権上保障された著作権保護技術を搭載しています。この著作権保護技術の使用はマクロビジョンコーポレーションの認可が必要であり、マクロビジョンコーポレーションの許可なしでは、一般家庭用または他の限られた視聴用だけに使用されるようになっています。改造または分解は禁止されています。

（社）日本音楽著作権協会（JASRAC）

本　　部	TEL.03 (3481) 2121
北海道支部	TEL.011 (221) 5088
盛岡支部	TEL.019 (652) 3201
仙台支部	TEL.022 (264) 2266
長野支部	TEL.026 (225) 7111
大宮支部	TEL.048 (643) 5461
上野支部	TEL.03 (3832) 1033
東京支部	TEL.03 (3562) 4455
西東京支部	TEL.03 (5321) 9530
東京ｲﾍﾞﾝﾄ・ｺﾝｻｰﾄ支部	TEL.03 (5321) 9881
立川支部	TEL.042 (529) 1500
横浜支部	TEL.045 (662) 6551
静岡支部	TEL.054 (254) 2621
中部支部	TEL.052 (583) 7590
北陸支部	TEL.076 (221) 3602
京都支部	TEL.075 (251) 0134
大阪支部	TEL.06 (6244) 0351
神戸支部	TEL.078 (322) 0561
中国支部	TEL.082 (249) 6362
四国支部	TEL.087 (821) 9191
九州支部	TEL.092 (441) 2285
鹿児島支部	TEL.099 (224) 6211
那覇支部	TEL.098 (863) 1228

あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
なお、この商品の価格には著作権法の定めにより、私的録音補償金が含まれております。

お問い合わせ先
（社）私的録音補償金管理協会
☎ 03（5353）0336

7 ディスクについて

★本機で再生できるディスクは下記の種類です。
　ディスクのマークはディスクのレーベル、またはジャケットについています。

再生できるディスク	マーク（ロゴ）	記録されているもの	ディスクの大きさ
DVDビデオ	DVD VIDEO	デジタル音声＋デジタル映像（MPEG2方式）	12cm
DVDオーディオ＜注1＞	DVD VIDEO		8cm
ビデオCD	COMPACT disc DIGITAL VIDEO	デジタル音声＋デジタル映像（MPEG1方式）	12cm
			8cm
CD	COMPACT disc DIGITAL AUDIO	デジタル音声	12cm
CD-R＜注2＞	COMPACT disc DIGITAL AUDIO Recordable	MP3 WMA	
CD-RW＜注2＞	COMPACT disc DIGITAL AUDIO ReWritable	デジタル画像（JPEG方式）	8cm
ピクチャーCD	Kodak Picture CD COMPATIBLE	デジタル画像（JPEG方式）	12cm
FUJICOLOR CD		デジタル画像（JPEG方式）	12cm

■**下記のディスクは再生できません。**
- リージョン番号が『2』または『ALL』以外のDVD
- DVDオーディオ＜注1＞
- DVD＋R/＋RW
- DVD-ROM/RAM
- Super Audio CD
- CD-ROM（MP3/WMA/JPEGファイルは再生可能）
- VSD/CVD/SVCD
- CDV（**オーディオパートのみ再生できます。**）
- CD-G
  （**音声は出力されますが、画像は出力されません。**）
- フォトCD（**絶対に再生しないでください。**）
  など

＜注1＞：DVDオーディオディスクは、DVDビデオ規格のビデオパートのみ再生できます。
＜注2＞：CD-R/RWは、記録状態によっては再生できない場合があります。セッションクローズまたはファイナライズをおこなってください。

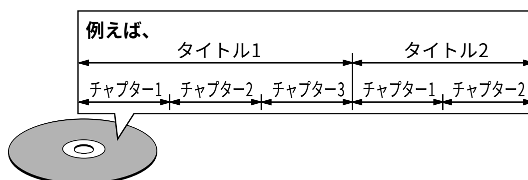
ご注意
- 本機は、国ごとに割り当てられた番号（リージョン番号）がDVDディスクに表示されている場合には、DVDディスクと本機のリージョン番号が一致しないと再生できません。



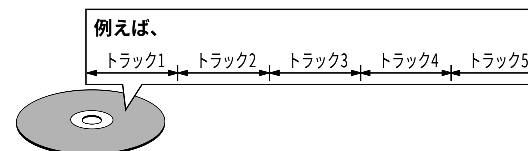
本機のリージョン番号は 2 です。

■**ディスクに関する用語について**

- **タイトル、チャプター**（DVDビデオ）
  DVDビデオは、いくつかの大きな区切り（タイトル）と小さな区切り（チャプター）に分けられています。それぞれの区切りには番号が割り当てられ、これらの番号をタイトル番号、チャプター番号と呼びます。



- **トラック**（ビデオCD/音楽CD）
  ビデオCDや音楽CDは、いくつかの区切り（トラック）に分けられています。この区切りには番号が割り当てられ、この番号をトラック番号と呼びます。

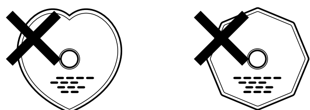


- **プレイバックコントロール**（ビデオCD）
  『プレイバックコントロール付き』などとディスクやジャケットに書かれているビデオCDは、テレビに表示されるメニュー画面を見ながら見たい場面や情報を対話形式で楽しむことができます。
  本書では、メニュー画面を用いて再生することをビデオCDの『**メニュー再生**』と呼びます。
  本機はプレイバックコントロール付きビデオCDに対応しています。

8 ディスクの取り扱いとご注意

ディスクについて

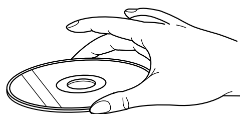
本機で再生できるディスクは、11ページにあるマークがついているものです。
但し、ハート形や八角形など特殊形状のディスクは再生できません。機器の故障の原因となりますのでご使用にならないでください。



ディスクの持ちかた

ディスクを装着したり取り出すときは、できるだけ表面を触らないようにしてください。

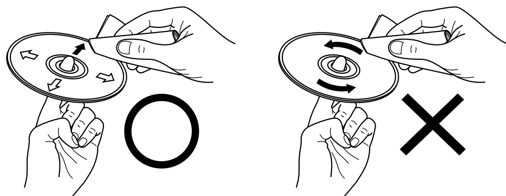
信号記録面（虹色に光っている面）には、指紋などをつけないようにしてください。



ディスクのお手入れのしかた

■ ディスクに指紋や汚れが付いた場合、音質や画質が低下したり、途切れることがありますので、拭きとってからご使用ください。

■ 拭き取りには、市販のディスククリーニングセットまたは柔らかい布などをご使用ください。



内周から外周方向へ軽く拭く。　円周に沿っては拭かない。

ご注意

レコードスプレー・帯電防止剤などは使用できません。ベンジン・シンナーなどの揮発性の薬品も使用しないでください。



取り扱いについてのご注意

- 指紋・油・ゴミなどをつけないでください。
- 表面に傷をつけないよう、特にケースからの出し入れにはご注意ください。
- 曲げたりしないでください。
- 熱を加えないでください。
- 中心の穴を大きくしないでください。
- レーベル面（印刷面）にボールペンや鉛筆などで文字を書かないでください。
- 屋外など寒いところから急に暖かいところへ移すと表面に水滴がつくことがありますが、ヘアードライヤーなどで乾かさないでください。

保存についてのご注意

- 再生後は必ずディスクを取り出してください。
- ほこり・傷・変形などを避けるため、必ずケースに入れてください。
- 次のような場所には置かないでください。
  1．直射日光が長時間当たるところ。
  2．湿気・ほこりなどが多いところ。
  3．暖房器具などの熱が当たるところ。

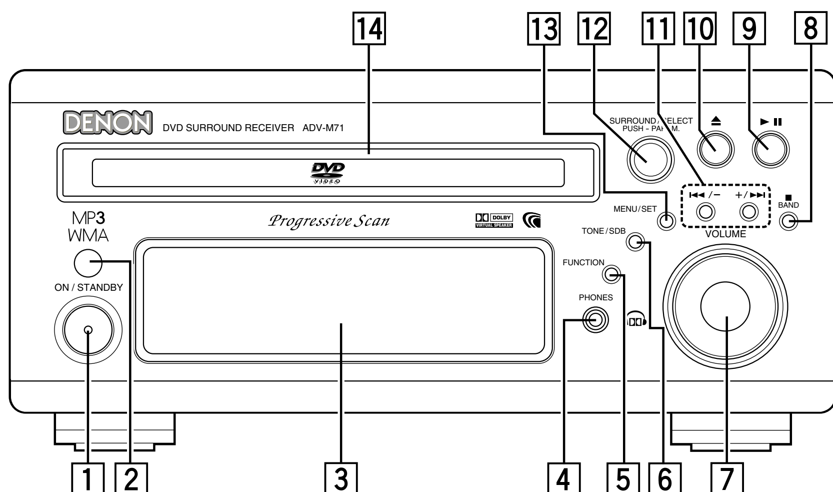
ディスクを装着する際のご注意

- ディスクは1枚だけ装着してください。2枚以上重ねて装着すると故障の原因となり、ディスクを傷つけることにもなります。
- 8cmディスクは、アダプターを使用せずに確実にディスクガイド（凹部）に合わせて装着してください。正しく装着しないとディスクが脱落しディスクトレイが開かなくなることがあります。
- ディスクトレイが引き込まれるときに指を挟まないようにご注意ください。
- ディスク以外のものをディスクトレイに載せないでください。
- ひび割れや変形、または接着剤などで補修したディスクは使用しないでください。
- ディスクにセロハンテープやレンタルCDのラベルなどの糊がはみ出したり、剥がした痕があるものはお使いにならないでください。そのままDVDプレーヤーにかけると、ディスクが取り出せなくなったり、故障する原因となることがあります。

9 各部の名前とはたらき

(1) フロントパネル

★各部のはたらきなど、詳しい説明については（　）内のページを参照してください。



1 **電源ボタン（ON/STANDBY）　(25)**
- 押すと電源が入り、もう一度押すと電源がスタンバイ状態になります。
- システムコード接続時、システム全体の電源をON/スタンバイ（OFF）します。
- インジケーターの色は、状態によって次のように変わります。
  - ・電源ON時：緑色
  - ・スタンバイ時：赤色
  - ・タイマースタンバイ時：オレンジ色

2 **リモコン受光部　(19)**

3 **ディスプレイ**

4 **ヘッドホンジャック（PHONES）　(53)**
- 市販のヘッドホンでお楽しみいただくときに使用します。

5 **ファンクション切り替えボタン（FUNCTION）　(34)**
- 再生するファンクションを切り替えるときに押します。

6 **トーン/スーパーダイナミックバスボタン（TONE/SDB）　(58)**
- トーンコントロール（BASS、TREBLE）やSDBで好みの音質を楽しむときに押します。

7 **主音量調節つまみ（VOLUME）　(31)**
- 音量を調節するときに使用します。

8 **ストップ/バンドボタン（■ BAND）(34)**
- ディスク再生時に再生を停止します。（ストップボタン）
- ファンクションがTUNERのときに、『FM』と『AM』を切り替えます。（バンドボタン）

9 **プレイ/ポーズボタン（▶/❚❚）　(30)**
- ディスクの再生をはじめるときに押します。
- ディスクを再生中にこのボタンを押すと、一時停止状態になります。一時停止中に押すと再生をはじめます。

10 **オープン/クローズボタン（⏏）　(28)**
- ディスクホルダーを開閉するときに押します。

11 **スキップ/−、＋ボタン（I◀◀/−、＋/▶▶I）　(32)**
- ファンクションがDVDのとき、聞きたい曲の頭出しをするときに使用します。（スキップボタン）
- ファンクションがTUNERのとき、FM/AM放送局を選局するときに使用します。（プリセット/チューニングー、＋ボタン）

12 **サラウンド/セレクトつまみ（SURROUND/SELECT）　(46)**
サラウンドパラメーターボタン（PARAMETAER）　(46)
- サラウンドモードやサラウンドパラメーター、各種設定を切り替えるときに使用します。

13 **メニュー/セットボタン（MENU/SET）　(36)**
- 本機の様々な機能の確認や変更をすることができます。
- ボタンを押すたびに、次のように切り替わります。

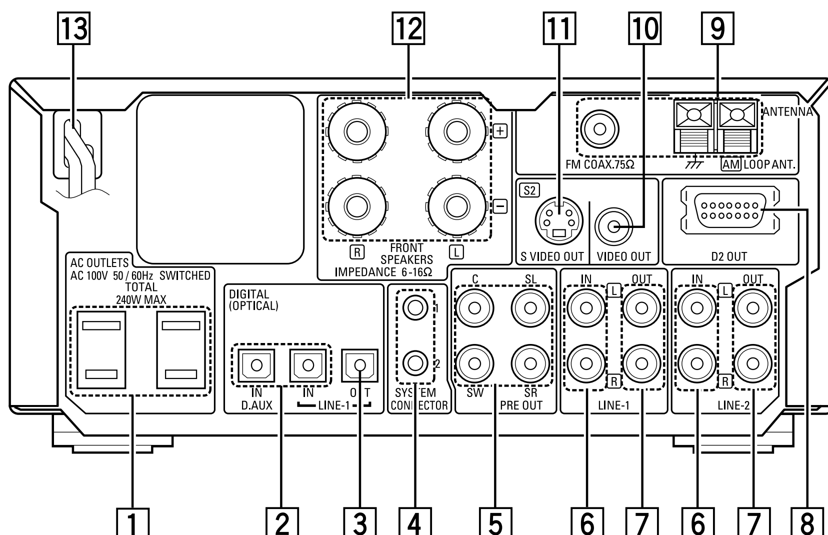
時計表示 → ステータスモード → タイマー設定モード → タイマースタンバイ設定モード → ファンクション表示（通常モード） → 時計表示

- 時計表示　：(82)
- ステータス（設定状態表示）モード　：(82)
- タイマー設定モード　：(83)
- タイマースタンバイ設定モード　：(84)

14 **ディスクホルダー　(28)**
- 開閉するときは、オープン/クローズボタン（⏏）を押してください。

(2) リアパネル

★各部のはたらきなど、詳しい説明については（　）内のページを参照してください。



1 ACアウトレット
（AC OUTLET）　（20）

2 デジタル入力端子
（DIGITAL OPTICAL IN）　（38）

3 デジタル出力端子
（DIGITAL OPTICAL OUT）　（38）

4 システム端子
（SYSTEM CONNECTOR 1,2）　（38）

5 プリアウト端子
（PRE OUT）　（20）

6 入力端子（IN）　（38）

- LINE1:出荷状態では『MD』に設定されています。別売りのMDレコーダー（DMD-M31）の出力端子（OUT）に接続します。
- LINE2:出荷状態では『TAPE』に設定されています。別売りのカセットデッキ（DRR-M31）の出力端子（OUT）に接続します。

7 出力端子（OUT）　（38）

- LINE1:出荷状態では『MD』に設定されています。別売りのMDレコーダー（DMD-M31）の入力端子（IN）に接続します。
- LINE2:出荷状態では『TAPE』に設定されています。別売りのカセットデッキ（DRR-M31）の入力端子（IN）に接続します。
- 本機では、購入機種に合わせて設定を変えることができます。設定変更の詳細は104ページをご覧ください。

8 D2端子　（20）

9 アンテナ端子
（ANTENNA）　（22）

10 ビデオ出力端子
（VIDEO OUT）　（20）

11 Sビデオ出力端子
（S VIDEO OUT）　（20）

12 スピーカー端子
（FRONT SPEAKERS）　（20）

13 電源コード　（20）

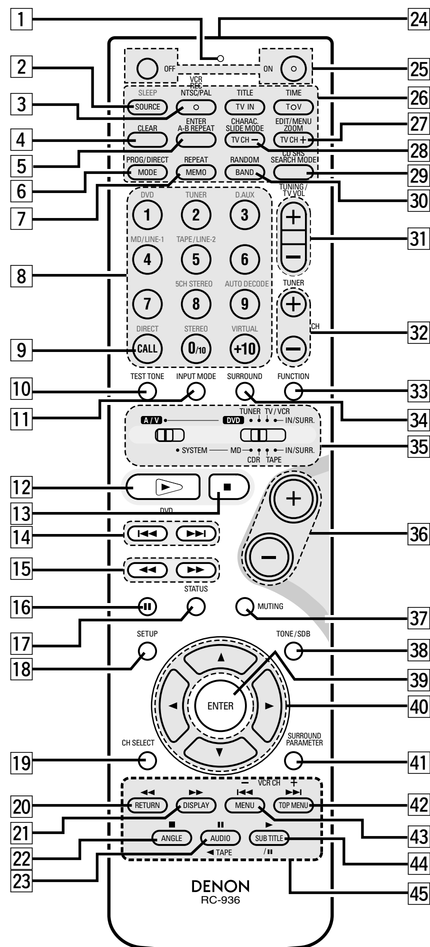
- 常時通電されている壁の電源コンセントなどに差し込んでください。

各部の名前とはたらき（つづき）

(3) リモコン

★各部のはたらきなど、詳しい説明については（　）内のページを参照してください。

- □のボタンはDVD操作ボタンで、リモコンモード切り替えスイッチを A/V 、 DVD モードにしたとき操作できます。
- ＊のシステムボタンはリモコンモード切り替えスイッチにより機能を切り替えて操作します。



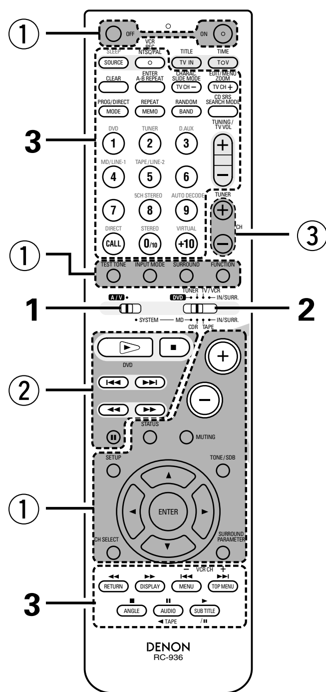
1	送信表示LED	
2	スリープタイマーボタン	(88)
3	NTSC/PALボタン	(21)
4	クリアーボタン	(66)
5	A-Bリピートボタン	(65)
6	プログラム/ダイレクト	(66)
7	リピートボタン	(65)
8	入力ソース/サラウンドモード切り替えボタン *システムボタン	(17,89,90)
9	コールボタン	(66)
10	テストトーンボタン	(43)
11	入力モード切り替えボタン	(44)
12	DVDプレイボタン	(30)
13	DVDストップボタン	(31)
14	DVDスキップボタン	(32)
15	DVDサーチボタン	(32,33)
16	DVDポーズボタン	(32,33)
17	ステータスボタン	(45)
18	セットアップボタン	(25)
19	チャンネルセレクトボタン	(43)
20	リターンボタン	(31)
21	ディスプレイボタン	(68)
22	アングルボタン	(72)
23	音声切り替えボタン	(70)
24	リモコン信号送信窓	(19)
25	電源ボタン	(25)
26	*システムボタン	(89,90)
27	ズームボタン	(75)
28	スライドモードボタン	(78)
29	サーチモードボタン	(32)
30	ランダムボタン	(67)
31	チューナーチューニング＋/－ボタン	(34)
32	チューナープリセット＋/－ボタン	(36)
33	ファンクション切り替えボタン	(44)
34	サラウンドモード切り替えボタン	(44)
35	モード切り替えスイッチ	(16,89)
36	主音量調節ボタン	(45)
37	ミューティングボタン	(58)
38	トーン/SDBボタン	(58)
39	エンターボタン	(24)
40	カーソルボタン	(24)
41	サラウンドパラメーターボタン	(46)
42	トップメニューボタン	(73)
43	メニューボタン	(74)
44	サブタイトルボタン	(71)
45	*システムボタン	(89,90)

各部の名前とはたらき（つづき）

本機でのリモコンボタンの名前とはたらき

★ ①〜③はモードスイッチ1、2の位置に関係なく操作できます。

★ A/V 、 DVD を標準ポジションとし、必要に応じて切り替えて操作してください。



1	**モードスイッチ1を『A/V』の位置にします。** A/V SYSTEM
2	**モードスイッチ2を操作したい機能（DVD、TUNER、IN/SURR）の位置にします。** TUNER TV/VCR DVD IN/SURR.
3	**本機の操作をします。**

①サラウンドアンプの操作ボタン

ON :本機の電源ON
OFF :本機の電源OFF
FUNCTION :ファンクション切り替え（順送り）
SURROUND :サラウンドモード切り替え
INPUT MODE :入力モード切り替え
TEST TONE :テストトーンのON/OFF
＋ :主音量のアップ
− :主音量のダウン
MUTING :ミューティング（消音）のON/OFF
STATUS :ステータス表示切り替え
TONE/SDB :トーン/SDBの切り替え、設定
SURROUND PARAMETER :サラウンドパラメーターの切り替え、設定
SET UP :セットアップのON/OFF
CH SELECT :各チャンネルレベルの切り替え、設定
▲,▼,◀,▶ :カーソル上、下、左、右
ENTER :設定の確定

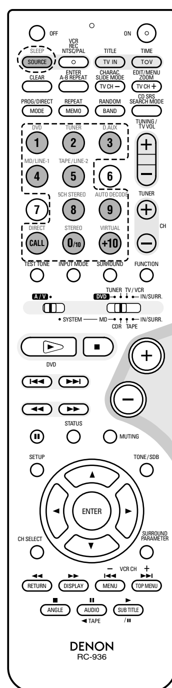
②DVDの操作ボタン

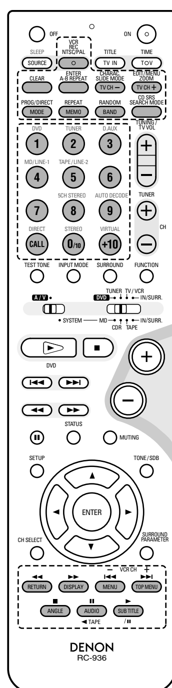
▶ :再生（オートパワーオン、オートファンクション機能）
■ :停止
I◀◀,▶▶I :スキップ（頭出し）
◀◀,▶▶ :サーチ（早戻し、早送り）
II :一時停止、コマ送り

③TUNERの操作ボタン

CH＋,− :プリセットチャンネルのアップダウン（オートパワーオン、オートファンクション機能）

各部の名前とはたらき（つづき）





3 つづき

1.サラウンドアンプのシステムボタン（モードスイッチ2を『IN/SURR.』で操作）

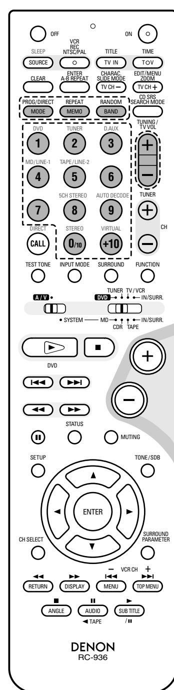
※ モードスイッチ1はどちらでも操作できます。
印刷文字グレーの操作ができます。

SLEEP :スリープのON/OFF
DVD :ファンクションDVD
TUNER :ファンクションTUNER
D.AUX :ファンクションD.AUX
MD/LINE-1 :ファンクションMD/LINE-1
TAPE/LINE-2 :ファンクションTAPE/LINE-2
5CH STEREO :サラウンド5CH STEREOモード（5.1CHセットアップ時）
AUTO DECODE :サラウンドAUTO DECODE、モード中は2CHモードの切り替え（5.1CHセットアップ時）
VIRTUAL :サラウンド DOLBY VIRTUAL SPEAKERモード,DOLBY VSモード中は2CHモードの切り替え
STEREO :STEREOモード
DIRECT :DIRECTモード

2.DVDのシステムボタン（モードスイッチ2を『DVD』で操作）

NTSC/PAL :NTSC/PALの切り替え
ZOOM :ズームON/OFF
SLIDE MODE :JPEG画像のスライドショーモードの切り替え
A-B REPEAT :A-Bリピート再生の設定
CLEAR :プログラムのクリア
SEARCH MODE :タイトル、チャプターサーチの切り替え
RANDOM :ランダム再生のON/OFF
REPEAT :リピート再生の設定
PROG/DIRECT :プログラム/ダイレクト再生の切り替え
CALL :プログラムのコール
0〜9,＋10 :テンキー
TOP MENU :トップメニューの呼び出し
MENU :メニューの呼び出し
DISPLAY :ディスプレイの呼び出し、切り替え
RETURN :メニューのリターン
SUBTITLE :字幕言語の切り替え
AUDIO :音声言語の切り替え
ANGLE :アングルの切り替え

各部の名前とはたらき（つづき）



3
つづき

3.チューナーのシステムボタン
（モードスイッチ2を『TUNER』で操作）

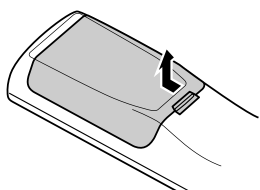
BAND	:FM/AMバンドの切り替え
MEMO	:プリセットメモリー
MODE	:FMのAUTO/MONOモード 切り替え
TUNING＋,−	:チューニングのアップダウン
1〜10,＋10	:プリセットチャンネルテンキー

10 リモコンについて

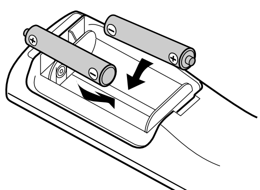
★付属のリモコン（RC-936）は本機の操作だけでなく、D-M31シリーズのMDレコーダー、カセットデッキなどをシステム接続しているときやDENON製リモコン対応のオーディオ機器を操作することができます。また、TV/VCRは他のメーカーのリモコンのコントロール信号をあらかじめ記憶していますので、これらリモコン対応のビデオ機器を操作することができます。

(1) 乾電池の入れかた

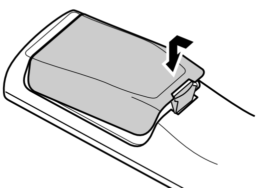
① 矢印のように押して裏ぶたを引き上げます。



② 単3形乾電池（2本）をそれぞれ乾電池収納部の表示通りに入れてください。



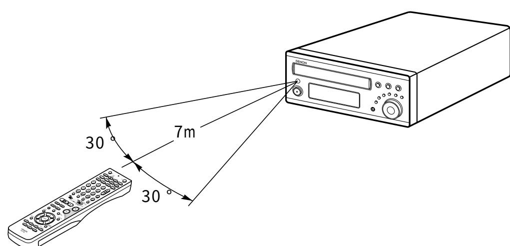
③ 裏ぶたを元通りにしてください。



ご注意

- リモコンには単3形乾電池をご使用ください。
- リモコンの使用回数にもよりますが、乾電池は約1年毎に新しいものと交換してください。
- 1年経っていなくてもリモコンを本機の近くで操作して本機が動作しないときは、新しい乾電池と交換してください。
- 付属の乾電池は動作確認用です。早めに新しい乾電池と交換してください。
- 乾電池を入れるときは、リモコンの乾電池収納部の表示通りに⊕側・⊖側を合わせて正しく入れてください。
- 破損、液漏れの恐れがありますので、
  - ･新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - ･違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - ･乾電池をショートさせたり、分解や加熱または火に投入したりしないでください。
- リモコンを長時間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- 乾電池を交換するときはあらかじめ交換用の乾電池を用意し、できるだけ速やかに交換してください。

(2) リモコンの使いかた



- リモコンは、図のようにリモコン受光部に向けて使用してください。
- 直線距離で約7m離れたところまで使用できますが障害物があったり、リモコン受光部に向いていないと受信距離は短くなります。
- リモコン受光部を基準にして左右30°までの範囲で操作できます。

ご注意

- リモコン受光部に直射日光や照明器具の強い光が当たっていたり、リモコン受光部との間に障害物があるとリモコンが動作しにくくなります。
- 本体とリモコンの操作ボタンを同時に押さないでください。誤動作の原因になります。

11 接続のしかた

(1) テレビとスピーカーシステムの接続

ご注意

- すべての接続が終わるまで電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 左右のチャンネルを確かめてから正しくLとL、RとRを接続してください。
- 電源プラグはしっかり差し込んでください。
不完全な差し込みは雑音発生の原因となります。
- 電源コードを接続コードと一緒に束ねたり、電源トランスなど他の電気製品の近くに接続コードを設置すると、ハムや雑音の原因となることがあります。

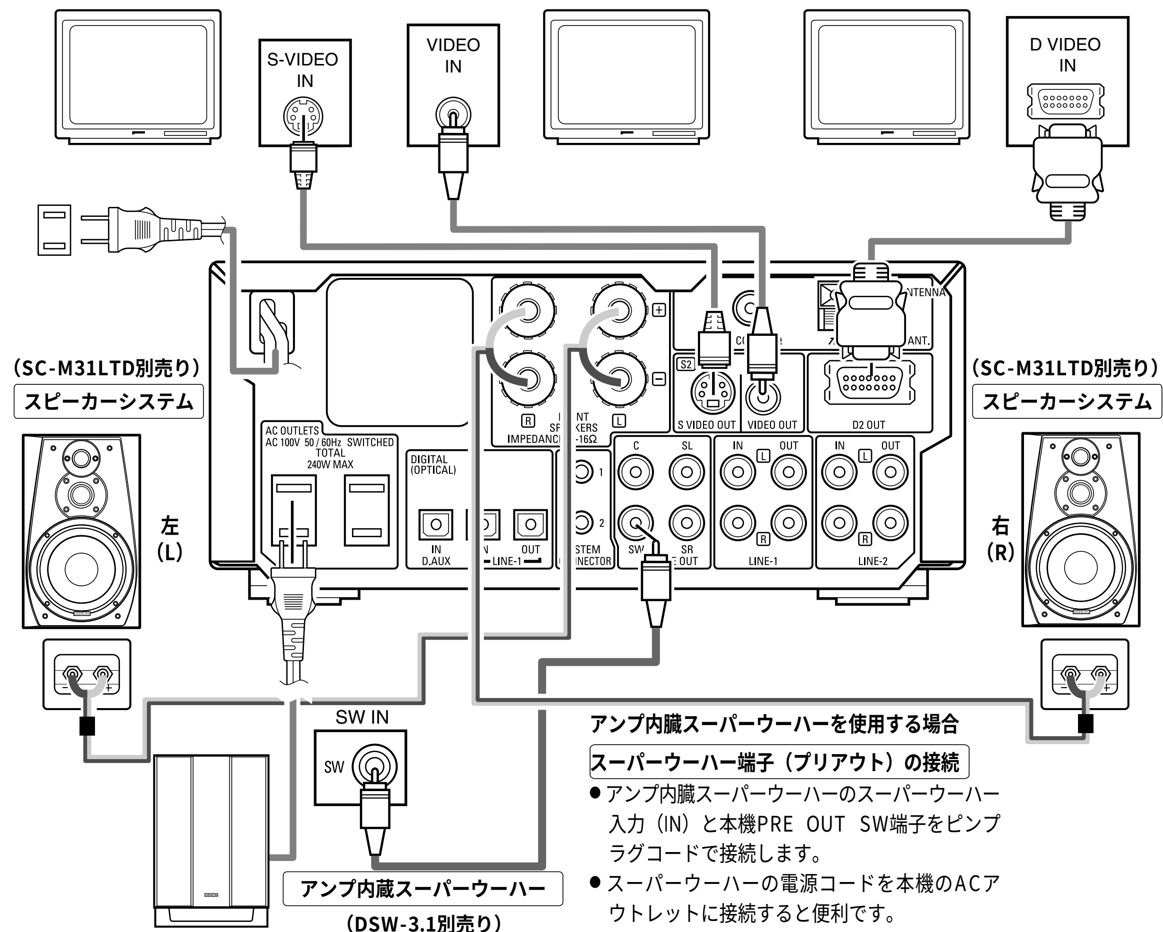
1 テレビとの接続のしかた

★ 接続の際は、テレビの取扱説明書もあわせてご覧ください。
★ 本機の映像出力は、内蔵DVD専用です。
★ 工場出荷時、本機でDVDディスクを再生した場合のD端子出力はD1（インターレース、525i）信号に設定されています。D2（プログレッシブ、525p）信号に設定変更することもできますので、D2信号入力に対応したTVと接続する場合はD2信号に設定変更してください。（33ページ参照）

S VIDEO OUT端子
- TVのS映像入力（S-VIDEO INPUT）端子と本機のS-VIDEO OUT端子をS端子用接続コードで接続します。

VIDEO OUT端子（黄色）
- TVの映像入力端子（VIDEO IN）端子と本機のVIDEO OUT端子を付属のビデオコードで接続します。

COMPONENT D2 OUT端子
- TVのD映像入力（D VIDEO IN）端子と本機のD2 OUT端子をD端子用接続ケーブルで接続します。



接続のしかた（つづき）

ご注意

- 本機の映像出力は直接テレビに接続してください。
  VTR（ビデオテープレコーダー）経由で接続しないでください。ディスクによってはコピー禁止信号が入っているものがあり、そのようなディスクをVTRを通して再生するとコピーガードシステムにより、画面が乱れることがあります。
- 国内で使われているテレビはNTSC方式です。セットアップで『DVD設定変更』-『映像設定』の『TVタイプ』を『NTSC』に設定してください。（なお、工場出荷時は『NTSC』に設定されています。）
  リモコンのNTSC/PALボタンでも、NTSC/PALの切り替えをおこなうことができます。

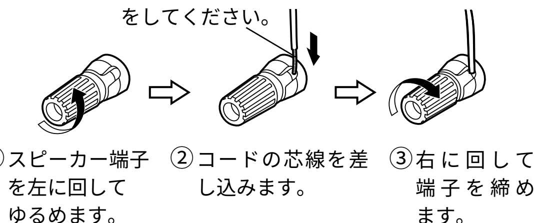
2 スピーカーシステムの接続

※ **すべての接続が終わるまで電源プラグをコンセントに差し込まないでください。**

■ スピーカーコードの接続

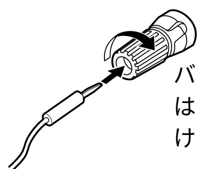
スピーカーシステム背面の入力端子（右図参照）と本機のスピーカー出力端子を付属の接続コードで接続します。

- 左チャンネルのスピーカーシステムは本機のＬ端子へ、右チャンネルのスピーカーシステムは本機のＲ端子へ、極性（＋、－）を確認して接続します。
- 極性を間違えると、位相が変わったり低音域のない不自然な再生音になってしまいます。また、スピーカー端子のねじが2個ともしっかり締まっていることを確認してください。



①スピーカー端子を左に回してゆるめます。　②コードの芯線を差し込みます。　③右に回して端子を締めます。

■ バナナプラグの接続



バナナプラグを使用する場合は、右に回して端子を締め付けてから挿入してください。

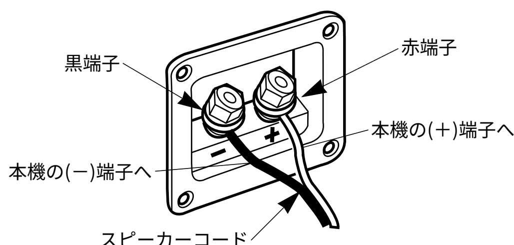
■ スピーカーのインピーダンスについて

- インピーダンスが6～16Ωのスピーカーを使用してください。
- 上記のインピーダンス以外のスピーカーを使用した場合に、保護回路が動作することがあります。

◎スピーカー端子とスピーカーシステムは、必ず同じ極性(⊕と⊕、⊖と⊖)をつないでください。

◎接続の際、スピーカーコードの芯線が端子からはみだして他の端子に接触しないようにしてください。またスピーカーコードの芯線どうし、および芯線がリアパネルに接触しないようにご注意ください。

- **スピーカーとコードのつなぎかた**（SC-M31の例）
  [赤端子が（＋）、黒端子が（－）です]
  スピーカー端子のねじをゆるめてコードの芯線を差し込み、ねじを締めます。



保護回路について

本機には高速プロテクター回路が内蔵されています。これはパワーアンプの出力が誤って短絡された際に大電流が流れたり、セットの周囲の温度が異常に高くなったり、あるいは長時間にわたり、本機を大出力で使用した際の極端な温度上昇などが発生した場合に、スピーカーを保護するためのものです。
保護回路が動作するとスタンバイ状態になり、電源表示インジケーターが点滅します。このような場合は、必ず本機の電源プラグをコンセントから抜き、スピーカーコードや入力コードの配線に異常がないか確認の上、本機の温度が極端に上がっている場合は、本機が冷えるのを待って周囲の通風状態を良くしてからもう一度電源を入れ直してください。配線や本機の周囲の通風に問題がないにも関わらず、保護回路が動作してしまう場合は、本機が故障していることもお考えられますので、本機の電源プラグをコンセントから抜いた上で弊社のお客様相談窓口または修理相談窓口にご連絡ください。

接続のしかた（つづき）

（2）アンテナの接続

■ 付属のアンテナの接続

1	**FM用屋内アンテナをFMアンテナ端子（FM COAX.75Ω）に接続します。**
2	**組み立てたAM用ループアンテナをAMアンテナ端子（AM LOOP ANT.）とアース端子（ ⏚ ）に接続します。**

■ FM用屋内アンテナの設置方法

FM放送を受信（34ページ参照）し、音を聞きながら歪みや雑音の最も少ない位置にアンテナの先端をテープなどで、壁やラックなどに固定してください。

■ AM用ループアンテナの接続

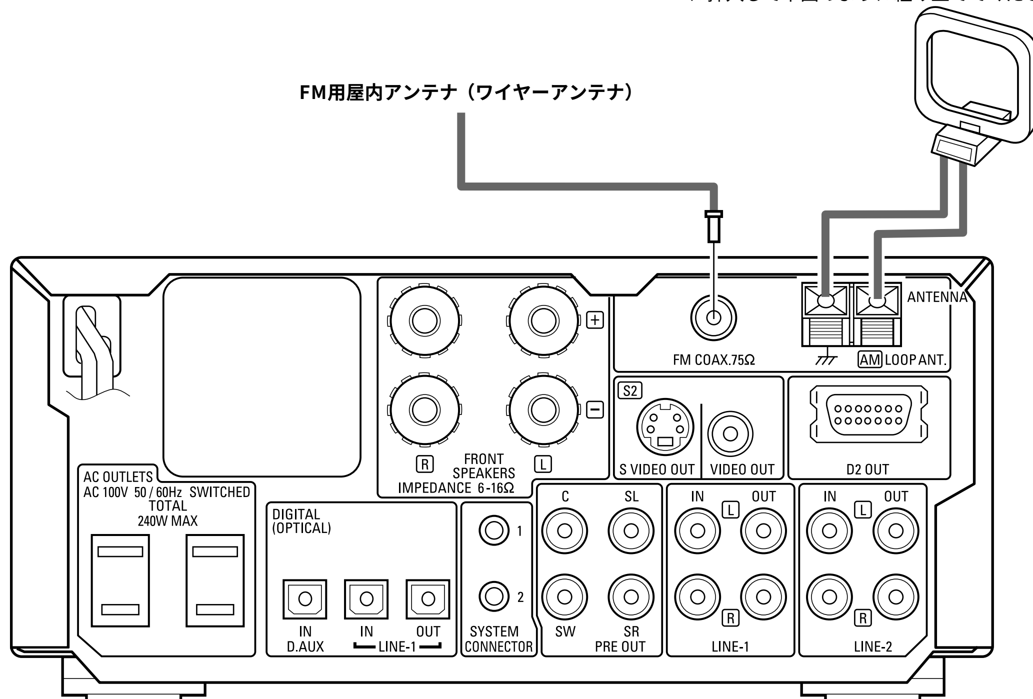
付属のAM用ループアンテナを下図のようにアンテナ端子に接続してください。

1	**ロックを押して外します。**
2	**アンテナ線を端子部に挿入します。**
3	**ロックを持ち上げて固定します。**

■ AM用ループアンテナの設置方法

AM放送を受信（34ページ参照）し、音を聞きながら本機からできるだけ離して歪みや雑音の最も少ない位置に設置してください。
接続の極性を逆にした方が良い場合もあります。AM用ループアンテナを接続しなかったり、また接続していても金属部分に接近しているとAM放送を良好に受信することができません。

AM用ループアンテナ
AM用ループアンテナをアンテナスタンド部に挿入して下図のように組み立ててください。



接続のしかた（つづき）

★付属のアンテナで放送がきれいに聞こえないときは、必要な放送用の屋外アンテナを使用してください。

■ 屋外アンテナを立てる場所について

- 放送局の送信アンテナがある方向に立てます。
- ビルや山のかげなどでは、最も良く受信できるところに立てて方向を変えてください。
- 送電線の下には立てないでください。送電線がアンテナに触れると大変危険です。
- 自動車や電車の雑音が入らないよう、道路や線路から離れたところへ立ててください。
- 落雷の恐れがありますので、あまり高いところには立てないでください。

ご注意

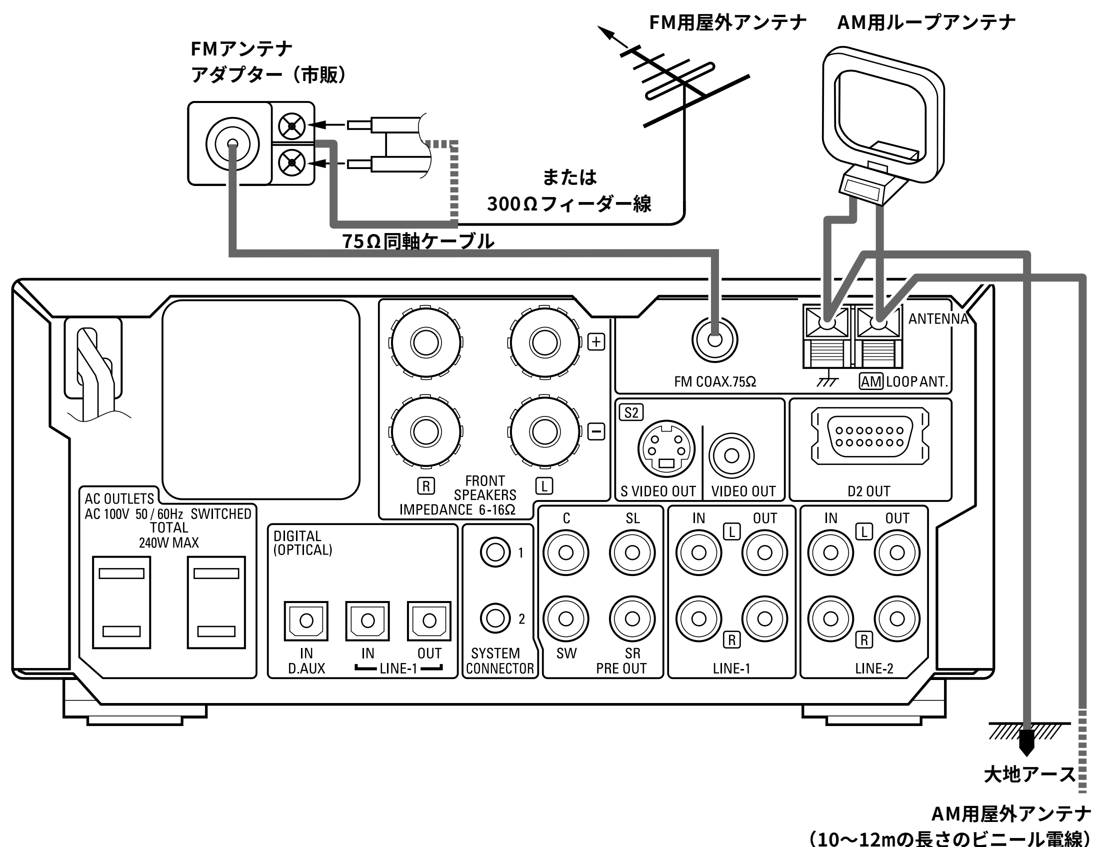
- 本機のアース端子（ ⏚ ）はAM用ループアンテナのアースで安全アースではありません。
- FM用アンテナアダプターは、本機のアンテナ端子に合った市販のものを使用してください。
- 75Ω同軸ケーブルおよび300Ωフィーダー線のFMアンテナアダプターへの接続は、FMアンテナアダプターの取扱説明書に従ってください。

■ FM用屋外アンテナの接続

1	**FM用屋外アンテナを75Ω同軸ケーブルまたは300Ωフィーダー線で市販のFMアンテナアダプターを使用して接続します。**
2	**FMアンテナ端子（FM COAX.75Ω）に接続します。** ● 75Ω同軸ケーブルまたは300Ωフィーダー線どちらか1本だけを接続してください。 ● 付属のFM用屋内アンテナは外してください。

■ AM用屋外アンテナの接続

1	**AM用屋外アンテナをAMアンテナ端子（AM）に接続します。** ● 付属のAM用ループアンテナは、必ず接続しておいてください。



12 クイックセットアップのしかた

(1) クイックシステム設定について

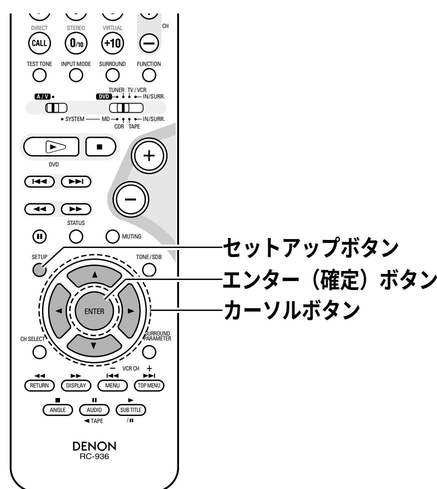
★ 本機はクイックシステム設定として、使用するテレビ画面サイズとスピーカー構成を選択するだけで簡単にDVDの再生を楽しむことができます。
★ 5.1chのスピーカー構成を選択した場合は、さらに使用する部屋の大きさと視聴位置を選択し、サラウンド再生に必要な標準的なパラメーターを設定することができます。

クイックシステム設定内容

セットアップ項目		設定内容		
テレビ画面	ご使用になるテレビの画面サイズとDVDワイドソフトの表示方法を選択します。	**4：3パン&スキャン**	4：3レターボックス	16：9ワイド
		4：3テレビ ソフト指定の表示	4：3テレビ 上下に黒帯の表示	16：9ワイドテレビ フル画面表示
スピーカー構成	ご使用になるスピーカーの構成を選択します。	2chバーチャル	2chバーチャル＆SW	5.1chサラウンド
		フロント2ch	フロント2ch ＋スーパーウーハー	小型スピーカー5本 ＋スーパーウーハー
ルーム設定 視聴位置	スピーカー構成5.1chサラウンドを選択時は、使用する部屋の大きさと視聴される位置を選択します。	ルーム設定		
		小	中	大
		8畳以下	9〜13畳	14畳〜
		視聴位置		
		中央	後	
		スピーカーのほぼ中央で試聴	中央より後方で視聴	

● 工場出荷時は、□の内容に初期設定されています。
● 初期設定値のまま使用する場合は、クイックシステム設定をおこなう必要はありません。そのままDVD再生を楽しむことができます。
● テレビ画面サイズやスピーカー構成が異なる場合は、クイックシステム設定をおこなってください。
● スピーカー構成や各スピーカーから視聴位置までの距離が大きく異なる場合（例えばセンタースピーカーを使用しない場合やスピーカーサイズが異なる場合、センターがフロントより遠い距離に設置されている場合など）は、『詳細なセットアップのしかた』（100ページ）で設定してください。

★ ディスク再生中は映像・音声ともに一時停止します。
★ どの入力ファンクションでもセットアップ操作できますが、テレビの映像信号は本機のDVD映像を接続した入力を選択してください。



セットアップはリモコンの下記のボタンでおこないます。

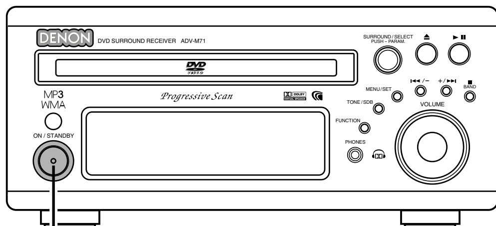
● **セットアップ（SETUP）ボタン**
セットアップのメニューを表示させるときに押します。

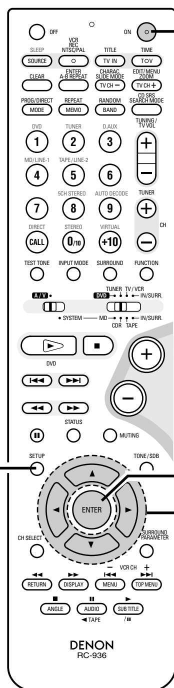
● **エンター（ENTER（確定））ボタン**
セットアップの画面を切り替えるときや設定を確定するときに押します。

● **カーソルボタン（◀,▶,▲,▼）**
ディスプレイの表示を切り替えるときに押します。

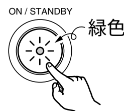
(2) クイックセットアップのしかた

★『接続のしかた』（20〜23ページ）を参照して、接続に間違いないことを確認します。

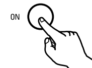




1 **電源を入れます。**
- 電源表示LEDが緑色に点灯して電源が入り、ディスプレイが点灯します。



（本体）

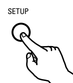


（リモコン）

※ 電源ボタンを押してから音声が出力されるまで数秒間かかります。これは、電源ON/OFF時の雑音を防止するミューティング回路が内蔵されているためです。ミューティング動作中は電源表示LEDが緑色に点滅します。

※ 電源ボタンを押してスタンバイ状態にしても、一部の回路は通電していますので、外出やご旅行の場合は必ず、電源プラグをコンセントから抜いてください。スタンバイ状態では、電源表示LEDが赤色になります。タイマー動作を設定している場合は橙色になります。

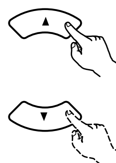
2 **SETUPボタンを押して、セットアップ画面を表示させます。**



（リモコン）



3 **カーソルボタン▲,▼で、『クイックシステム設定』を選択します。**
- 選択された項目は黄色で表示されます。


（リモコン）

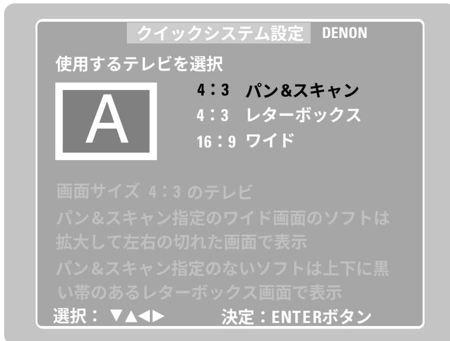
次ページへつづく

4 ENTERボタンを押してメニューの設定画面を表示させます。

※ 設定画面では、選択設定する項目が黄色で表示され、設定する項目以外の設定値は、緑色で表示されます。

（リモコン）

1 テレビ画面サイズの設定

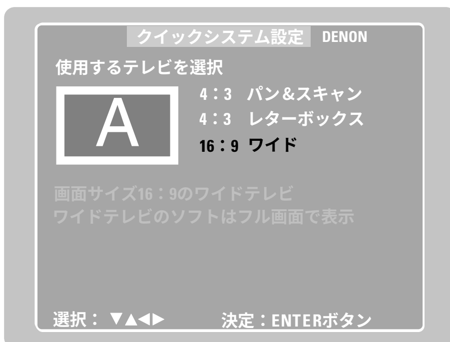


- 現在の設定値が黄色で表示されます。

5 カーソルボタン▲,▼で、使用するテレビの画面サイズと表示方法を選択します。

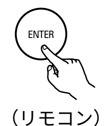
- 選択したテレビ画面サイズが黄色に表示され、説明が緑色で表示されます。

（リモコン）



6 ENTERボタンを押して確定します。

- 次の画面に進みます。



（リモコン）

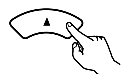
6 つづき

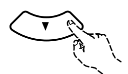
2 スピーカーシステムの設定



- 『戻る』が黄色で表示されます。
- 現在の設定値が緑色で表示されます。
- 設定を変更しない場合は『戻る』でENTERボタンを押します。操作*2*の画面に戻ります。
- 変更する場合は操作*7*へ進みます。

7 カーソルボタン▲,▼で、使用するスピーカーシステムを選択します。





（リモコン）

8 ENTERボタンを押して確定します。

- 5.1chサラウンド以外では操作*2*のセットアップ画面に戻ります。

→操作12でセットアップを終了します。

（リモコン）

※ セットアップ画面でカーソルボタン▲,▼で『設定終了』を選択し、ENTERボタンを押しても終了します。

- 5.1chサラウンドを選択した場合は次の画面に進みます。

3 ルーム設定、視聴位置設定

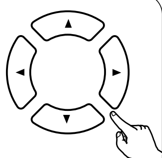


- 現在の設定値が緑色で表示されます。

次ページへつづく

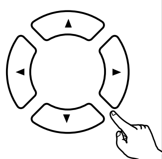
クイックセットアップしかた（つづき）

9 **カーソルボタン▲,▼で、『ルーム設定』を選択し、カーソルボタン◀,▶で部屋の大きさを設定します。**
- 設定した大きさを黄色表示します。


（リモコン）

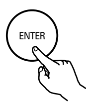


10 **カーソルボタン▲,▼で、『視聴位置』を選択し、カーソルボタン◀,▶で位置を設定します。**
- 設定した位置を黄色表示します。


（リモコン）

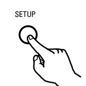


11 **ENTERボタンを押してセットアップを終了します。**
- 操作*2*のセットアップ画面に戻ります。



（リモコン）

12 **SETUPボタンを押してセットアップを終了します。**
※ セットアップ画面でカーソルボタン▲,▼で『設定終了』を選択し、ENTERボタンを押しても終了します。



（リモコン）

スピーカーシステムの設定について

◎2CHバーチャル
フロント2CHスピーカーのみを使用するとき選択します。

◎2CHバーチャル+SW（出荷時設定）
フロント2CHスピーカーとアンプ内蔵スーパーウーハーを使用するとき選択します。
- 設定値

フロント	：小
サブウーハー	：あり
サブウーハー周波数	：120Hz

※ フロントスピーカーとサブウーハーは等しい距離に設置してください。

◎5.1CHサラウンド
フロント2CH+センター+サラウンド2CHとアンプ内蔵スーパーウーハーを使用するとき選択します。
- 設定値

フロント	：小	2.7m
サブウーハー	：小	2.4m
サラウンド	：小	1.8m
サブウーハー	：あり	2.7m
サブウーハー周波数	：120Hz	

※ ルーム設定は『小』試聴位置『後』に設定されています。

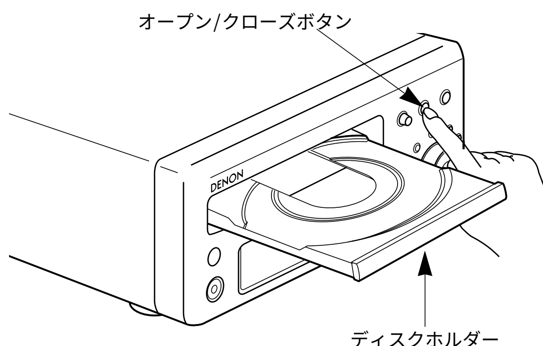
ご注意

- 工場出荷時は『2CHバーチャル+SW』に設定されています。この設定のままフロント2チャンネルだけを使用して再生すると、正常な低音再生ができません。『2CHバーチャル』に設定変更して再生をおこなってください。

13 ディスク再生のしかた

(1) ディスクホルダーの開閉

1	**オープン/クローズボタンを押します。** ●ディスクホルダーが開きます。	≜ (本体)
2	**もう一度オープン/クローズボタンを押します。** ●ディスクホルダーが閉じます。	≜ (本体)



ご注意

- 電源がスタンバイ状態でもオープン/クローズボタンを押すと本機の電源が入り、ディスクホルダーが動作します。（オートパワーオン機能）
- ファンクションがDVD以外でもオープン/クローズボタンを押すとファンクションがDVDに切り替わり、ディスクホルダーが動作します。（オートファンクション機能）
- ボタンを鉛筆などで叩いたりしないでください。

(2) ディスクの入れかた

- ディスク情報面に手が触れないように持ち、レーベル面を上にして入れてください。
- ディスクホルダーが完全に開いた状態でディスクを載せてください。
- 12cm ディスクは外周ディスクガイドに合わせ、8cm CDは内周ディスクガイドに合わせて水平に載せてください。
- オープン/クローズボタン（≜）を押して、ディスクホルダーを閉じてください。
- ディスクを装着してからプレイ/ポーズボタン（▶/❚❚）を押すと、ディスクホルダーが閉じて再生をはじめます。

図1

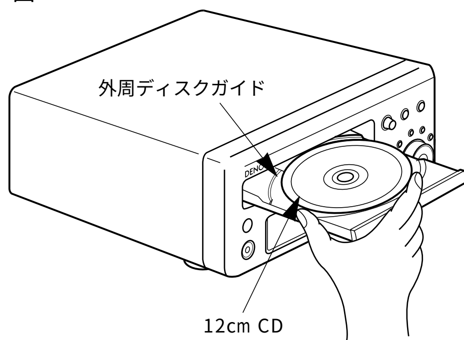
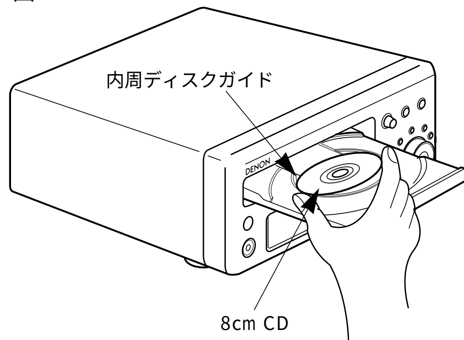


図2



ご注意

- 万一指などを挟んだ場合は、慌てずにオープンクローズボタン（≜）を押し、ディスクホルダーを開けてください。
- ディスクホルダーに異物を入れないでください。故障の原因になります。
- ディスクホルダーを手で押し込まないでください。故障の原因になります。

(3）再生のしかた

再生をはじめる前に（本機のDVD初期設定について）

本機は一般的な使用を前提として、あらかじめ各種機能を初期設定しており、初期設定のまま使用することができます。
本機の初期設定をお客様のご使用に合わせて変更する場合は、98〜117ページの『詳細なセットアップのしかた』をご覧ください。

＜2チャンネルバーチャルシステムを楽しむ＞

★ 入力ファンクション『DVD』のサラウンドモードは、工場出荷時の初期設定で『DOLBY VIRTUAL SPEAKER』に設定されており、ディスクをセットして再生するだけで各種ソースをバーチャルサラウンド再生することができます。

● 各入力ファンクションのサラウンドモード初期設定

入力ファンクション	サラウンドモード
DVD D.AUX	DOLBY VIRTUAL SPEAKER REFERENCE （ドルビーバーチャルスピーカー標準）
TUNER MD/LINE-1 TAPE/LINE-2	STEREO (ステレオ）

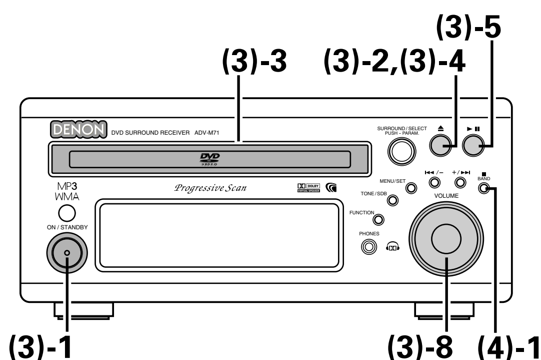
● サラウンドモードは、本体のサラウンド/セレクトつまみ、リモコンのSURROUNDボタンで下記が選択できます。
（選択後は、ファンクションごとに記憶されます。）
①DOLBY VIRTUAL SPEAKER
②STEREO
③DIRECT
④ROCK ARENA
⑤JAZZ CLUB
⑥VIDEO GAME

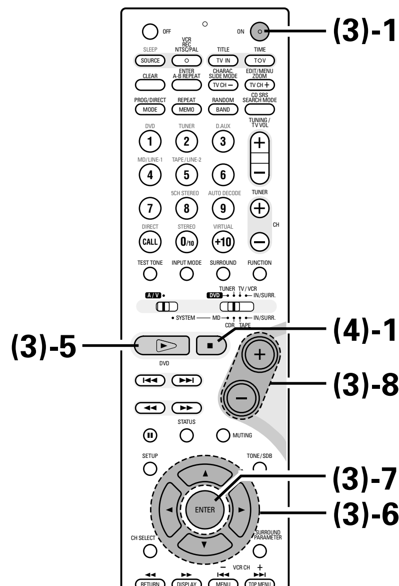
● 詳細は『18サラウンド機能の操作しかた』（44〜58ページ）を参照ください。

ご注意

● 本機のスピーカー構成は、工場出荷時『2chバーチャル＆SW』（フロント2チャンネルスピーカーとアンプ内蔵スーパーウーハーを使用する）に設定されています。この設定のままフロント2チャンネルスピーカーだけを使用して再生すると正常な低音再生ができません。24〜27ページの『12.クイックセットアップのしかた』のスピーカーシステムの設定を『2chバーチャル』に設定してください。

ディスク再生のしかた（つづき）

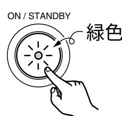




★ 工場出荷時の設定（入力モード『AUTO』、サラウンドモード『DOLBY VIRTUAL SPEAKER』）で再生する場合について説明します。

1 **電源を入れます。**

● 電源ボタンを押すと電源表示LEDが緑色に点灯して電源が入ります。



（本体）

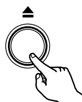


（リモコン）

2 **本体のオープン/クローズボタンを押します。**

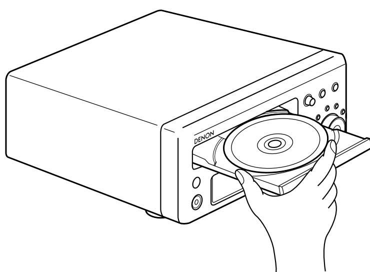
● ディスクトレイが開きます。

※ オートファンクション機能がはたらき、ファンクションはDVDになります。



（本体）

3 **ディスクトレイにディスクを載せます。**



4 **本体のオープン/クローズボタンを押します。**

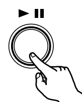
● ディスクトレイが閉まり、ディスクが本機に装着されます。



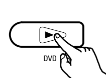
（本体）

5 **本体のプレイ/ポーズボタンまたはリモコンのプレイボタンを押します。**

● インタラクティブなDVDやプレイバックコントロール付きビデオCDの多くのものは、メニュー画面が表示されます。このような場合は、操作***6***で見たい項目を選び再生をはじめてください。



（本体）

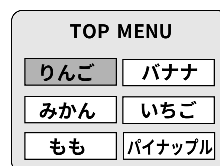


（リモコン）

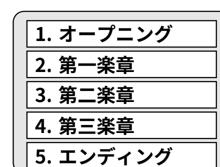
インタラクティブなDVDとは

例えば複数のアングルや、ストーリーなどが収録されたDVDソフトです。

【例】メニュー記録されたDVDのとき

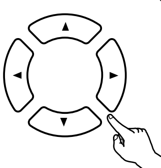


【例】プレイバックコントロール付きビデオCDのとき



次ページへつづく

6 **カーソルボタン▲,▼,◀,▶を押して見たい項目を選びます。**

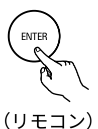

（リモコン）

- ディスクによって異なりますが、▶▶Iボタンを押すとメニューの続きがある場合、続きのメニューを表示します。（ディスクのジャケットを参照ください）

※ ビデオCDのときは、カーソルボタン▲,▼,◀,▶が使えません
番号ボタンで見たい項目を選んでください。

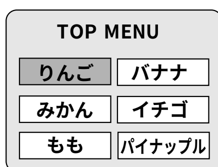
7 **ENTERボタンを押します。**

- 見たい項目が決定され、再生がはじまります。
- ディスクによっても異なりますが、DVD再生中はリモコンのTOP MENUボタンを押すとメニュー画面に戻すことができます。
- ビデオCD再生中はリモコンのRETURNボタンを押すとメニュー画面に戻すことができます。

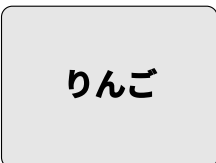


（リモコン）

【例】DVD“りんご”を選んだとき



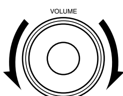




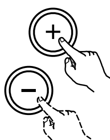
8 **本体の主音量調節つまみを回すか、またはリモコンの主音量調節ボタンを押して音量を調節します。**

M.VOLUME -20

音量がディスプレイに表示されます。



（本体）


（リモコン）

※ サラウンドモードやサラウンドパラメーターなど詳細な操作は『18 サラウンド機能の操作のしかた』（44〜58ページ）を参照ください

- 入力モード『AUTO』では、再生したディスクの信号を判断し、ドルビーデジタル/DTS/PCMのいずれかの方式で自動的にデコードおよび再生をおこないます。

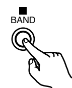
8 つづく

- サラウンドモード『DOLBY VIRTUAL SPEAKER』では、再生したディスクの信号によりドルビーデジタル/DTSいずれかの方式で自動的にデコードしたのち、ドルビーバーチャルスピーカーモードでバーチャル再生します。
- 5.1ch設定時のサラウンドモード『AUTO DECODE』では、再生したディスクの信号により、ドルビーデジタル/DTS/オートステレオのいずれかの方式で自動的にデコードおよび再生をおこないます。

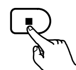
（4）再生の止めかた

1 **再生中にストップボタンを押します。**

- 再生が止まり、壁紙が表示されます。



（本体）


（リモコン）

■ 続き再生メモリー機能について(DVDのみ)

- 再生中に■ボタンを押すと止めた位置を記憶します。（このとき、ディスプレイの“▶”が点滅します。）本体の▶/IIボタンまたはリモコンの▶ボタンを押すと、止めたところから再生がはじまります。トレイを開けるか、もう一度■ボタンを押すと続き再生メモリー機能は解除されます。

※ 続き再生メモリー機能は、再生中に表示窓に経過時間が表示されるディスクで働きます。

■ DVDスタンバイ機能について

★本機のファンクションがDVDのとき、ディスクが停止状態で約10分経過すると自動的にDVDスタンバイ状態になります。

- DVDスタンバイ状態では、DVD部の電源がOFFになり、映像出力もOFFします。このとき、本機のディスプレイに“DVD standby”が表示されます。
- DVDスタンバイ状態でもDVD部以外の電源はONしており、ファンクション切り替えなど本体やリモコンでの操作が可能です。また、DVDの操作ボタン（本体のプレイ/ポーズボタンやオープン/クローズボタン、リモコンのプレイボタンなど）を操作した場合も、自動的にDVD部の電源がONしディスク再生やディスクホルダーの開閉動作をします。

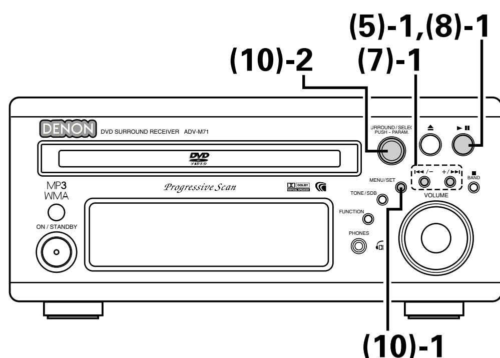
ご注意

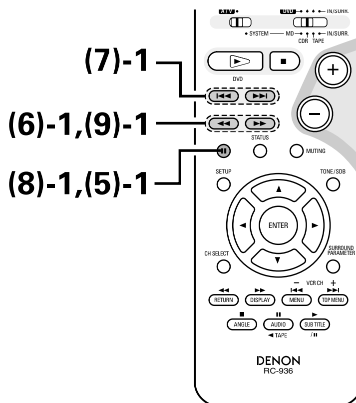
DVDスタンバイ機能はDVD部の電源だけをOFFする機能で、セットアップのシステム設定変更で設定するDVDオートパワーOFF機能とは異なり、常時動作する機能です。

■ オートパワーOFF機能について

- 停止状態で30分経過すると自動的に本機の電源が切れ、スタンバイ状態にするDVDオートパワーOFF機能を搭載しています。
- 工場出荷時は『動作しない』に設定されていますので、動作させる場合は104ページの『DVDオートパワーOFF設定』で『する』に設定してください。

ディスク再生のしかた（つづき）

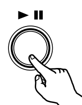




（5）静止（一時停止）のしかた

1 **再生中に本体のプレイ/ポーズボタンまたはリモコンのポーズボタンを押します。**

- 本体の▶/❚❚ボタンまたはリモコンの▶ボタンを押すと通常の再生の戻ります。



（本体）



（リモコン）

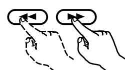
ご注意

- ボタン操作中、テレビ画面に🚫が表示されたときは本機またはディスクがその操作を禁止しています。
- ディスクはガイドに合わせて置いてください。
- トレイには1枚だけディスクをのせてください。
- テレビ画面にメニューが出ている間は、ディスクは回り続けています。

（6）早送り/早戻しのしかた

1 **再生中に◀◀ボタンまたは▶▶ボタンを押します。**

［◀◀：戻し方向
▶▶：送り方向］



（リモコン）

- 押すたびに、早送り/早戻しが速くなります。（DVD、ビデオCDは7段階、CDは4段階）
- プレイボタンを押すと通常の再生に戻ります。

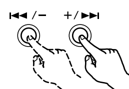
ご注意

- ビデオCDのメニュー再生中、I◀◀/▶▶Iボタンを押すとメニュー画面に戻ることがあります。

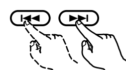
（7）頭出しのしかた

1 **再生中にI◀◀ボタンまたは▶▶Iボタンを押します。**

- 押した回数だけチャプター/トラックを飛び越します。
- 戻し方向に1回押すと再生中のチャプター/トラックの先頭に戻ります。

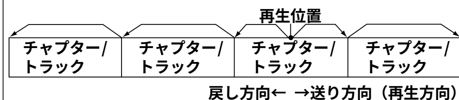


（本体）



（リモコン）

［I◀◀：戻し方向（リバース）
▶▶I：送り方向（フォワード）］



ご注意

- ビデオCDのメニュー再生中、I◀◀/▶▶Iボタンを押すとメニュー画面に戻ることがあります。

【番号ボタンで頭出しする場合】

① **再生中にリモコンのSEARCH MODEボタンを押します。**

- ボタンを押すたびに下記のようにモードが切り替わります。
  DVDの場合　：タイトル ←→ チャプター
  CD/ビデオCDの場合：トラック固定

※ **SEARCH MODEボタン**を押して決めたサーチモードは、電源をOFFにするまで記憶しています。

② **リモコンの番号ボタンを押して、再生したい番号を入力します。**

※ DVD、ビデオCDの中には、ソフト制作者の意図により、本書の説明どおりに動作しないディスクがあります。

ディスク再生のしかた（つづき）

（8）コマ送り再生のしかた（DVD/ビデオCD のみ）

1 **静止中にリモコンのポーズボタンを押します。**
- 押すたびに、1コマずつ再生します。
- プレイボタンを押すと通常の再生に戻ります。



（リモコン）

（9）スロー再生のしかた（DVD/ビデオCD のみ）

1 **静止中に◀◀ボタンまたは▶▶ボタンを押します。**

［ ◀◀：戻し方向
▶▶：送り方向 ］



（リモコン）

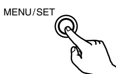
- 押すたびに、スロー再生の速度が速くなります。
- DVDの場合は4段階、ビデオCDの場合は3段階になります。
- プレイボタンを押すと通常の再生に戻ります。

ご注意
- ビデオCDは逆スロー再生できません。

（10）D端子映像出力の切り替え

★ 工場出荷時はD1（インターレース、525i）に設定されています。
★ D2（プログレッシブ、525p）入力に対応したTVと接続した場合は、下記の操作で切り替えることができます。

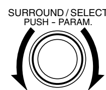
1 **ファンクション『DVD』でメニュー/セットボタンを2秒以上押します。**



（本体）

- “ VIDEO OUT ” の次に現在の設定値 “ INTERLACED ” または “ PROGRESSIVE ” が表示されます。

2 **表示中にサラウンド/セレクトつまみを回して切り替えます。**



（本体）

- “ INTERLACED ”、“ PROGRESSIVE ” が交互に切り替わります。
- 数秒間、操作しないと通常の表示に戻ります。

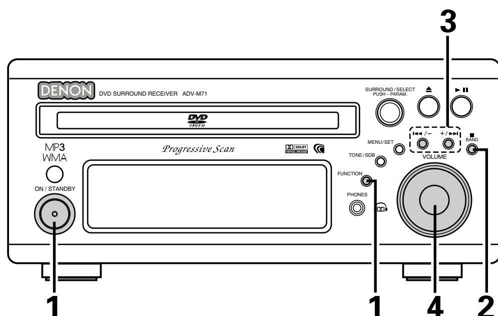
ご注意

- D端子（D2）出力のみインターレース映像とプログレッシブ映像を切り替えることができます。
- プログレッシブ（PROGRESSIVE）に設定した場合は、ビデオ出力端子（VIDEO OUT）およびSビデオ出力端子（S VIDEO OUT）からは映像出力されません。ビデオ出力、Sビデオ出力を使用する場合はインターレース（INTERLACED）に設定してください。

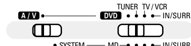
14 ラジオ放送の聞きかた

(1) 選局のしかた

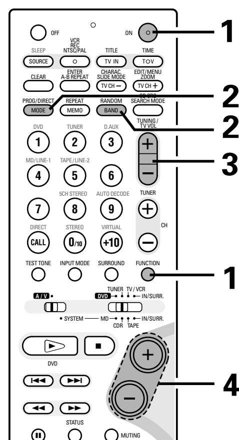
★本機はFMワイドバンド仕様で通常のFM放送のほか、テレビ1〜3チャンネルの音声（モノラル）の受信ができます。



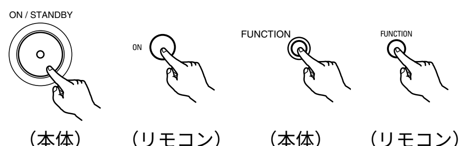
リモコンモード切り替えスイッチをA/V、TUNERにします。



※ チューナープリセット＋/－ボタンは常時操作できます。



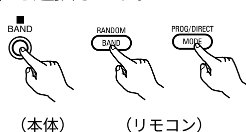
1 電源を入れ、ファンクションを『TUNER』にします。
- ディスプレイが受信周波数表示に切り替わります。



（本体）（リモコン）（本体）（リモコン）

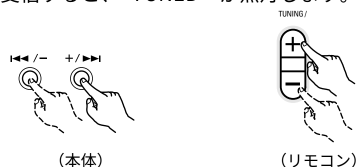
※ スタンバイ状態で、リモコンのチューナープリセット＋/－ボタンを押しても電源が入り、『TUNER』になります。

2 バンドボタンを押して、『FM AUTO』、『FM MONO』または『AM』を選択します。
- 選択したバンドや受信モードが表示されます。
- リモコンの場合はバンドボタンとモードボタンで選択します。



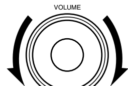
（本体）（リモコン）

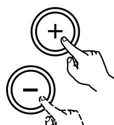
3 チューニングボタンを押して、受信周波数を合わせます。（本体の－,＋ボタンはチューニングモードでおこないます。）
- 受信すると、“ TUNED ” が点灯します。



（本体）（リモコン）

4 音量を調節します。



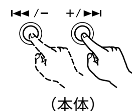


（本体）（リモコン）

※ サラウンド再生の詳細な操作は44〜58ページを参照ください。

チューニングモードとプリセットモードについて

- 本体の－,＋ボタンは、受信周波数を合わせるチューニングモードと、プリセットされた放送局を選ぶプリセットモードの切り替え式になっています。



（本体）

- 出荷時はチューニングモードに設定されています。バンドボタン（BAND）を押しながら＋ボタンを押すことにより、プリセットモードに切り替えることができます。（“ PRESET ” 表示が約5秒間点滅します。）

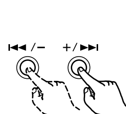


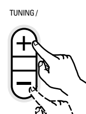
（本体）

- チューニングモードに切り替える場合には、バンドボタン（BAND）を押しながら－ボタンを押します。（“ TUNING ” 表示が約5秒間点滅します。）

オートチューニングについて

- チューニングボタンを1回押すごとに受信周波数が変化します。
- チューニングボタンを1秒以上押し続けると手を離しても変化を続け、放送を受信すると自動的に停止します。なお、アンテナ入力レベルが弱い（“ TUNED ” 表示が点灯しない）場合は、自動的に停止しません。
- **オートチューニングを止めるとき**は、チューニングボタンを1回（1秒以下）押してください。





（本体）（リモコン）

ラジオ放送の聞きかた（つづき）

FMステレオ受信について

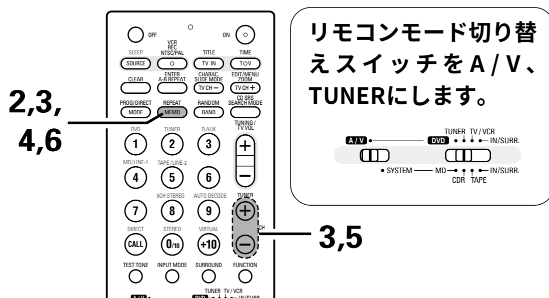
- 受信モードがAUTOのときにステレオ放送を受信すると、“ ST ” 表示が点灯してステレオ受信になります。
- アンテナ入力レベルが低く、ステレオ受信が困難なときは、受信モードをMONOにしてモノラル受信にすると聞きやすくなります。受信モードは、最後に設定した状態を保持します。

ご注意

- AM放送受信中に近くでテレビなどを使用すると、“ ピー ” という雑音が入る場合があります。このような場合は、本機をテレビなどからできるだけ離して設置してください。

（2）受信した放送局のプリセットのしかた・放送局の名前の付けかた（リモコンのみ）

★ FM/AM合わせて最大40局プリセットできます。
★ プリセットした放送に8桁までの名前を付けることができます。（入力可能文字は、英数記号）
★ 付属のリモコンを使用して、プリセットしてください。



1 プリセットしたい放送を受信します。

P0- FM 82.50M

2 MEMO ボタンを続けて2回押します。
- ネーム入力モードになります。

P0- _

（リモコン）

3 プリセット＋/－ボタンを押して文字を選択し、MEMOボタンで1文字ずつ入力します。

（リモコン）

- TUNING＋ボタンまたはMEMOボタンを押すと、選択された文字を確定してカーソルが次の文字に移り、次の文字の入力待ち状態になります。
- TUNING－ボタンを押すと、カーソルを戻すことができます。入力文字を修正するときに使用してください。

P0- F

⬇

P0- F_

（リモコン）

4 MEMOボタンを続けて2回押して、入力した放送局名を確定します。
- プリセット番号表示 “ P ” が点滅します。

P0- FM-DENON

（リモコン）

5 プリセット＋/－ボタンを使用して、プリセット番号を選択します。

P03 FM-DENON

（リモコン）

※+10とテンキー1～10で直接指定することもできます。

6 MEMOボタンを押して、プリセット番号を確定します。
- プリセット番号、バンド、受信周波数を表示したのち、ステーションネーム表示になります。

P03 FM 82.50M

⬇

P03 FM-DENON

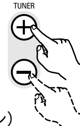
（リモコン）

※ **途中で止めたいとき**は、操作*4*でMEMOボタンを押す前にMODEボタンを押してください。入力内容がすべて消去されます。

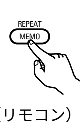
（リモコン）

※ **記憶されている放送局名を消去するとき**は、その放送局を呼び出し、操作*2*でネーム入力モードに入り、MODEボタンを押してください。放送局名は消去され、プリセットチャンネル周波数表示になります。

※ **プリセットのみをおこなうとき**は、放送受信中にMEMOボタンを1回押すと、プリセット番号表示 “ P ” が点滅してプリセット番号入力モードになります。プリセット番号をプリセット＋/－ボタンを使用して選択し、もう一度MEMOボタンを押すと、放送局が選択した番号にメモリーされます。(+10とテンキー1～10で直接指定することもできます)



（リモコン）



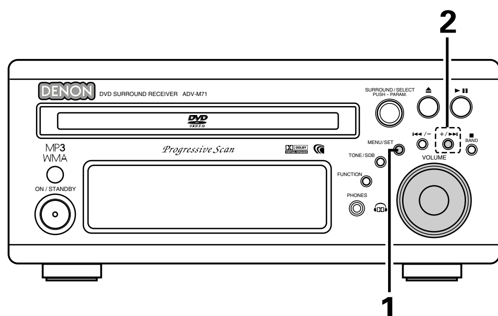
（リモコン）

ラジオ放送の聞きかた（つづき）

(3) オートプリセットのしかた（本体のみ）

★FM放送局を自動的にサーチしてプリセット1番〜40番に記録できます。

2



1

ご注意

アンテナ入力レベルの低い電波の放送局はオートプリセットできません。このような場合にはマニュアルチューニングで受信し、『受信した放送局のプリセットのしかた』に従い、操作してください。

1 **ファンクション『TUNER』で、メニュー/セットボタンを2秒以上押します。**

- "AUTO PRESET?"、"－：NO/＋：START"を交互に表示します。
- このときに－ボタンを押すとモード がキャンセルされ、メニュー/セットボタンを押す前の状態に戻ります。

MENU/SET

（本体）

AUTO PRESET?

2 **＋ボタンを押して、オートプリセットを開始します。**

- サーチ中は"SEARCH"表示が点滅し、サーチが終了すると受信周波数表示に戻ります。

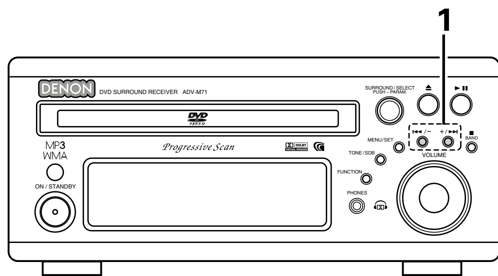
+/▶▶|

（本体）

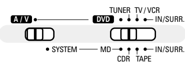
(4) プリセットされた放送の聞きかた

【例】プリセット番号『3』にプリセットされたFM放送を聞くとき

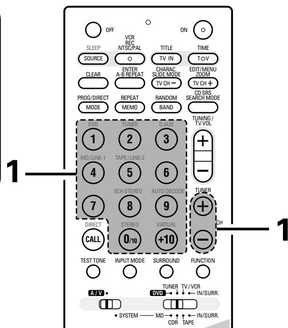
1



リモコンモード切り替えスイッチをA/V、TUNERにします。



1

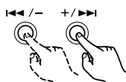


1

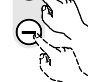
※ リモコンのプリセット－,＋ボタンは、リモコンモードの位置に関係なく常時操作できます。

1 **プリセット＋/－ボタンを押してプリセット番号『3』を選択するか、テンキーの3を押してプリセット番号『P03』を表示させます。**

※本体－,＋ボタンは、プリセットモードにした場合選択できます。



（本体）

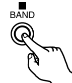


（リモコン）



（リモコン）

※ 本体の－,＋ボタンは、チューニングモードとプリセットモードの切り替え式になっています。チューニングモードになっている場合には、バンドボタンを押しながら＋ボタンを押すことにより、プリセットモードに切り替えることができます。



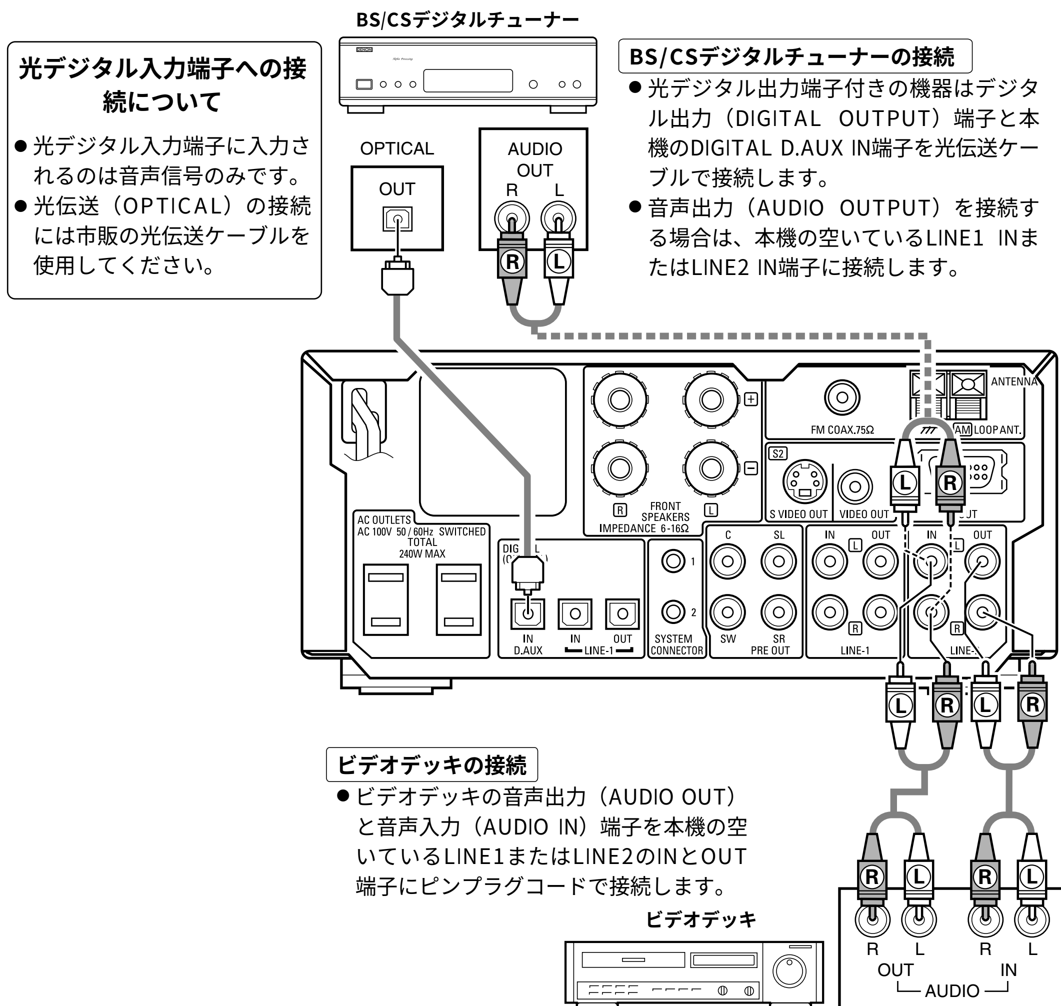
（本体）



（本体）

15 BSデジタルチューナーやVTR音声の接続のしかた

★ 映像信号は直接テレビに接続して、テレビで切り替えてください。
★ 接続の際は、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。



光デジタル入力端子への接続について

- 光デジタル入力端子に入力されるのは音声信号のみです。
- 光伝送（OPTICAL）の接続には市販の光伝送ケーブルを使用してください。

BS/CSデジタルチューナーの接続

- 光デジタル出力端子付きの機器はデジタル出力（DIGITAL OUTPUT）端子と本機のDIGITAL D.AUX IN端子を光伝送ケーブルで接続します。
- 音声出力（AUDIO OUTPUT）を接続する場合は、本機の空いているLINE1 INまたはLINE2 IN端子に接続します。

ビデオデッキの接続

- ビデオデッキの音声出力（AUDIO OUT）と音声入力（AUDIO IN）端子を本機の空いているLINE1またはLINE2のINとOUT端子にピンプラグコードで接続します。

16 D-M31シリーズ機器の接続のしかた

★本機はD-M31シリーズのMDレコーダー（DMD-M31）、カセットデッキ（DRR-M31）とシステム接続して使用することができます。
★別売りのMDレコーダー（DMD-M31）、カセットデッキ（DRR-M31）の操作のしかたは、各機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
★本機と直接システム接続できる機器はMDレコーダー（DMD-M31）、カセットデッキ（DRR-M31）です。

ご注意

- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 本機のACアウトレットは、オーディオ機器専用です。ヘアードライヤーなど他の電気製品を接続しないでください。
- 本機に接続できる機器の合計消費電力は240Wまでです。それ以上の機器は接続しないでください。
- 左右のチャンネルを確かめてから、正しくLとL（白）、RとR（赤）を接続してください。
- 電源プラグは確実に差し込んでください。不完全な差し込みは雑音発生の原因になります。
- 接続コード類と電源コードを一緒に束ねたり、他の電気製品の近くに接続コード類を近づけたりすると雑音の原因のなることがあります。
- ファンクション切り替えボタン（FUNCTION）で選択されたファンクションの入力端子に、機器を接続していない場合、他の入力端子に接続された機器の再生音が漏れることがあります。

スピーカーシステムの接続

- 左チャンネル（正面から見て左側）のスピーカーシステムをL端子に、右チャンネル（正面から見て右側）のスピーカーシステムをR端子に接続します。詳しくはスピーカーシステムに付属の取扱説明書をご覧ください。
- スピーカーは必ずインピーダンスが6Ω以上のものを使用してください。

時計機能を内蔵しているため、本機の電源コードは常時通電されている壁の電源コンセントに接続してください。

電源コンセント
AC 100V 50/60Hz

アンプ内蔵スーパーウーハー
DSW-3.1(別売り)

DVDサラウンド
レシーバー
ADV-M71

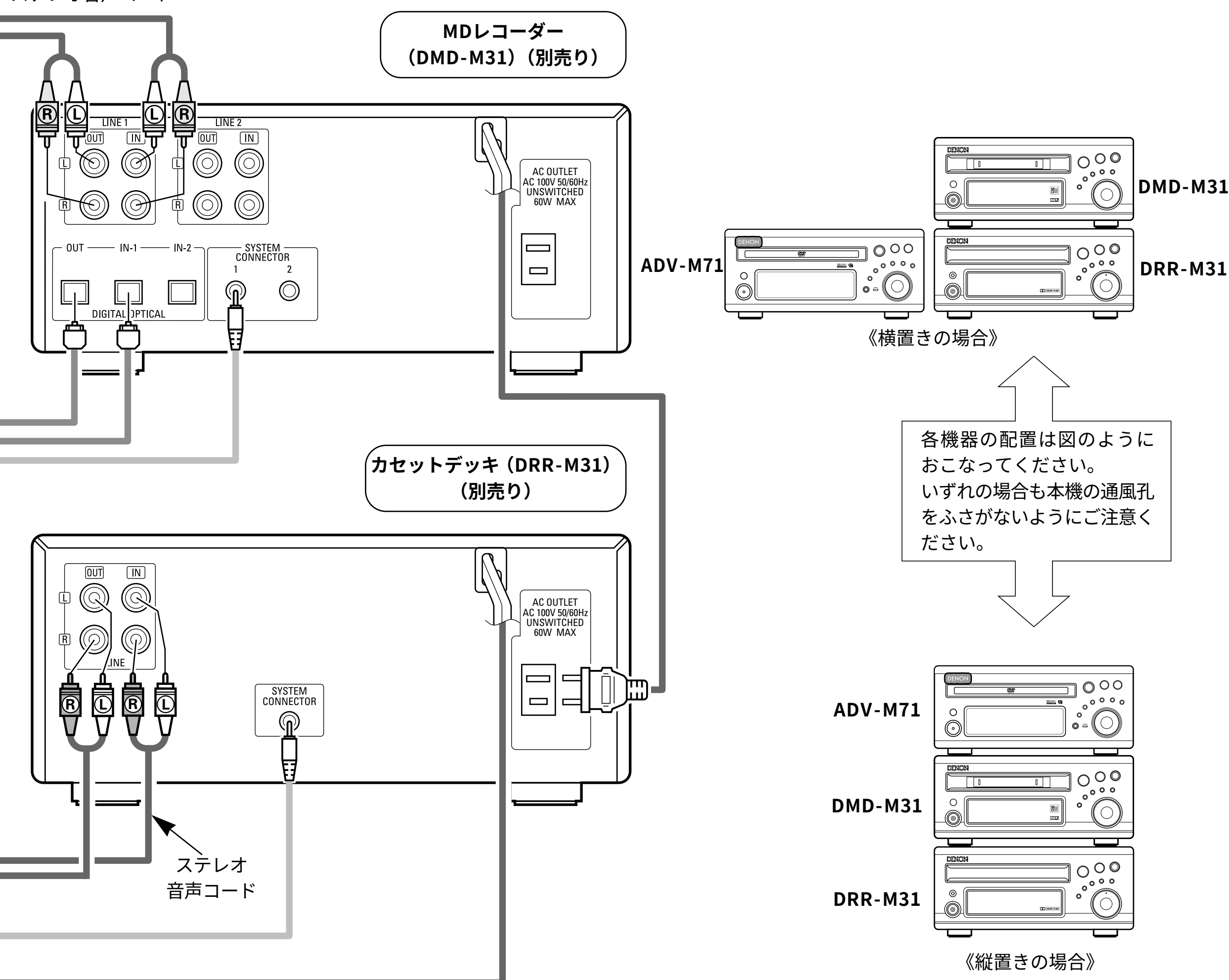
スピーカーシステム
USC-M31LTD(別売り)
(L)
(R)

FM用屋内アンテナ（付属）
AM用ループ
アンテナ（付属）

スピーカーコード
音声コード
光伝送ケーブル
システムコード

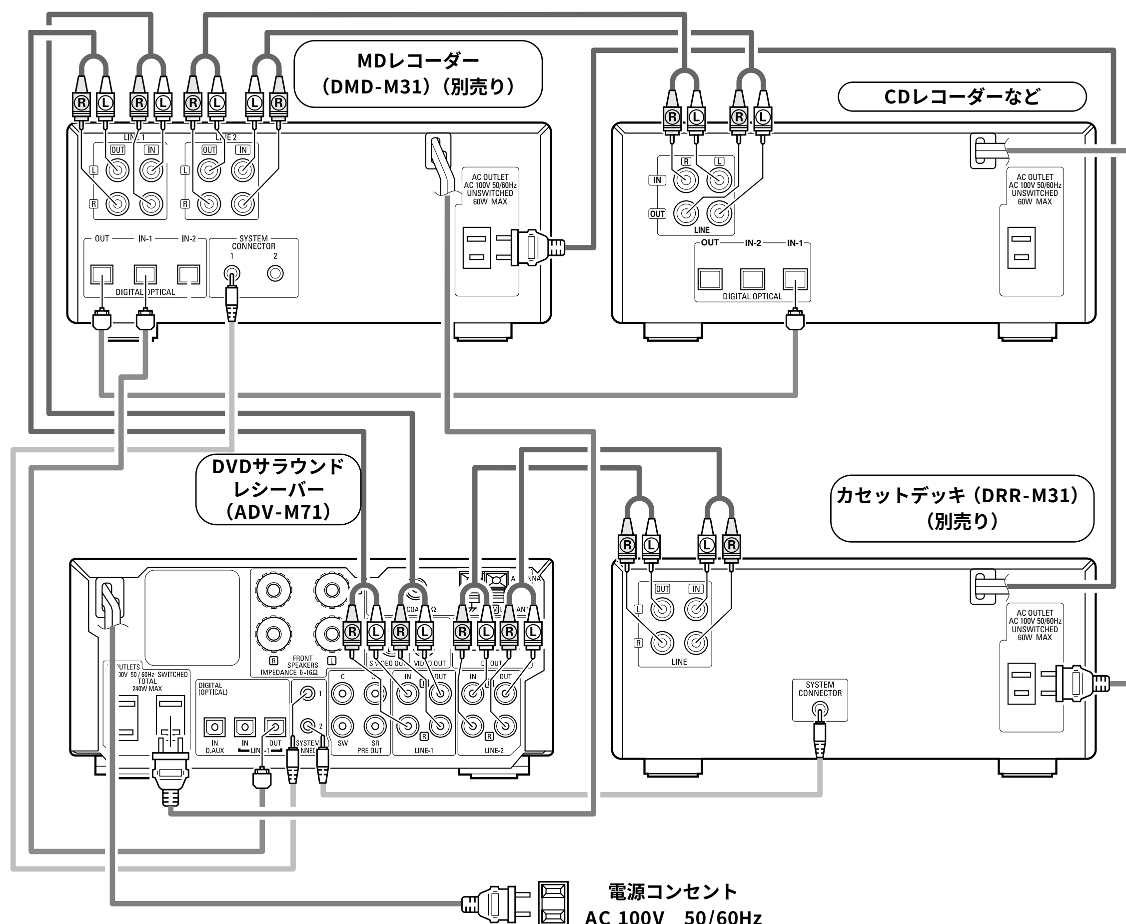
システム接続について

- 本機とシステム接続してシステム動作をおこなえるMDレコーダーおよびカセットデッキはそれぞれ1台です。MDレコーダーやカセットデッキを2台システム接続すると、正常なシステム動作がおこなわれません。
- 各機器間のすべてのステレオ音声コードとシステムコードを接続しないと、タイマー機能やオートパワーオン機能などのシステム動作がおこなわれません。各機器間のすべての接続コードは確実に接続してください。
- 動作中にシステムコードなどを抜くと誤動作の原因になりますので、必ず電源プラグをコンセントから抜いた後で接続の変更をおこなってください。



接続のしかた（つづき）

★CDレコーダーなどを接続する場合は、下図のように接続してください。
　その場合、入出力端子のセットアップをしてください。（104、105ページ参照）



本機のDVDでドルビーデジタル、DTS、96kHzPCMソースを再生し、CDレコーダーやMDレコーダーなどのデジタル録音機器と接続しデジタル録音する場合

- セットアップで『DVD設定変更』・『音声設定』の『デジタル出力』を『PCM変換』に『LPCM変換モード』を『変換する』に設定してください。（113、114ページ参照）
  正しく設定せずにDVDを録音、再生すると耳を刺激するような雑音が発生し、スピーカーを破損する恐れがあります。
- コピープロテクト（コピー禁止）されているソフトは、デジタル録音することができません。

ご注意

- 本機でCDを再生し、接続した機器でデジタル録音をおこなう場合、曲番が自動的に付加されない場合があります。（ライブ録音などで曲間にも連続して音声が録音されている場合）
  - CDレコーダーでデジタル録音する場合、CDレコーダーの録音の設定をマニュアル（手動）録音にし、録音中に手動で曲番（トラックマーク）を付けてください。
  - MDレコーダーでデジタル録音する場合、録音が終わった後で編集操作により曲を分割してください。

17 5.1チャンネルホームシアターへの拡張

（1）DSW-3.1/SYS-3.1 スピーカーシステムの接続のしかた

★本機は、別売りのアンプ内蔵スーパーウーハー（DSW-3.1）とセンター/サラウンドスピーカーシステム（SYS-3.1）と組み合わせて、5.1chサラウンドシステムに発展することができます。
★各機器の取扱いについては、各機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 本機のACアウトレットは、オーディオ機器専用です。ヘアードライヤーなど他の電気製品を接続しないでください。
- 本機に接続できる機器の合計消費電力は240Wまでです。それ以上の機器は接続しないでください。
- 各チャンネルを確かめてから正しくSW（紫）、C（緑）、SL（青）、SR（灰）を接続してください。

電源コンセント
AC100V 50/60Hz

DVD内蔵AVサラウンドレシーバー
ADV-M71

スピーカーシステム
（SC-M31LTD別売り）
(L)

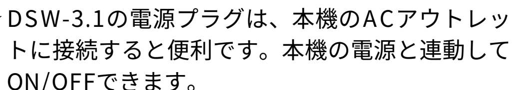
スピーカーシステム
（SC-M31LTD別売り）
(R)

アンプ内蔵スーパーウーハー
DSW-3.1(別売り)

サラウンド用スピーカー
(SL)

サラウンド用スピーカー
(SR)

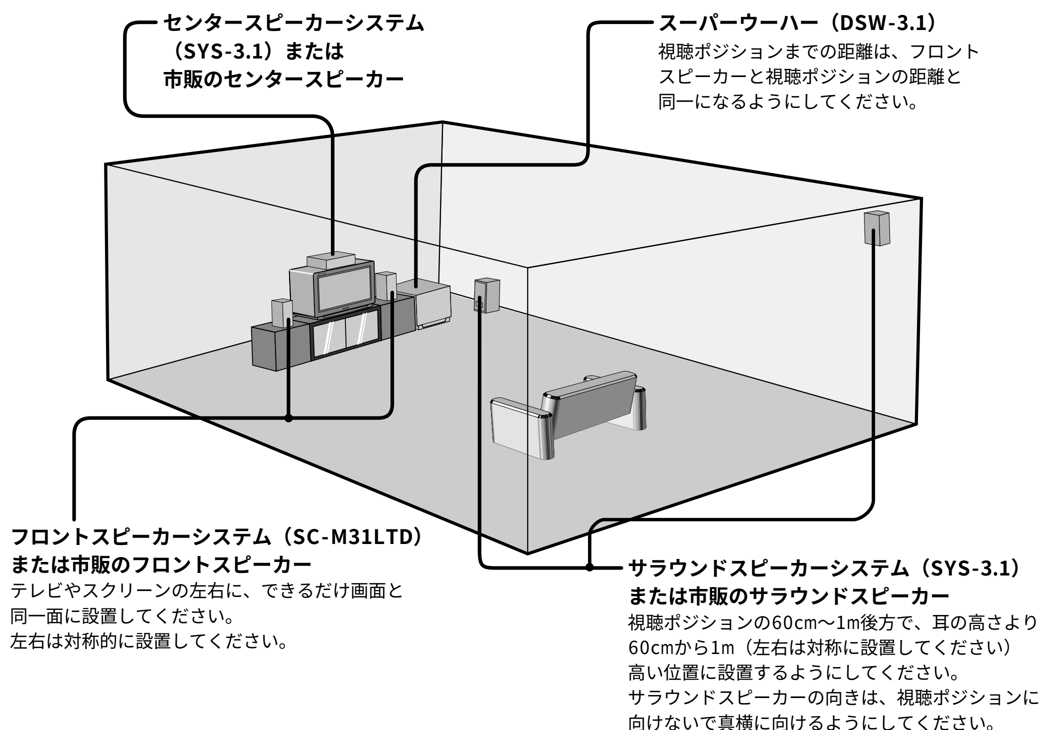
スピーカー システム
（SYS-3.1 別売り）
(C)
センター用スピーカー


★DSW-3.1の電源プラグは、本機のACアウトレットに接続すると便利です。本機の電源と連動してON/OFFできます。

5.1チャンネルホームシアターへの拡張(つづき)

(2) 5.1チャンネルスピーカーの設置のしかた

■ **スピーカーシステムのレイアウト**(基本的なシステムレイアウト)
スピーカーシステム(6台)とテレビを組み合わせた基本的なシステムレイアウトの例です。



◎ フロント、センタースピーカーはできるだけテレビやスクリーンと同一面で、センタースピーカーは左右のフロントスピーカー間で、視聴ポジションからフロントスピーカーまでの距離より遠くならないところに置いてください。

◎ スーパーウーハーの置き場所の制限は特にありませんが、スクリーンと同一面にあった方が理想的です。

◎ センタースピーカーをテレビの上に置いたり、サラウンドスピーカーを壁に吊るす場合、地震で落下したりしないよう、しっかりと固定してください。

◎ お部屋の空間の制限などにより、基本的なレイアウトができない場合で、スピーカーと視聴ポジションの距離が大きく異なる場合は、の『ディレイタイム(距離の設定)』(101ページ)を参照し、実際のスピーカーまでの距離をセットアップで調整することにより、最適なサラウンド効果を得ることができます。

ご注意

ブラケット類をご使用される場合は、SYS-3.1『取り扱いのご注意』を必ず参照してください。

5.1チャンネルホームシアターへの拡張（つづき）

（3）5.1チャンネルサラウンド再生について

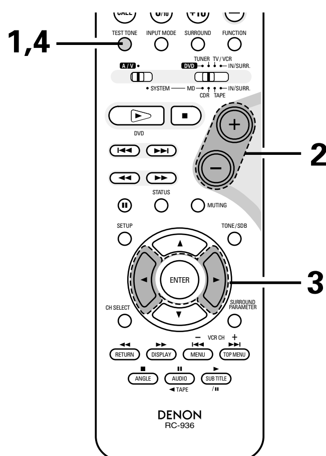
1 クイックシステム設定の変更

★アンプ内蔵サブウーハー（DSW-3.1）とセンター/サラウンドスピーカーシステム（SYS-3.1）と組み合わせて5.1チャンネルサラウンド再生する場合は、本機の『クイックシステム設定』で使用するスピーカーを『5.1chサラウンド』にし、『ルーム設定』および『視聴位置』の設定をしてからご使用ください。（24～27ページ参照）

★スピーカー構成や各スピーカーから視聴位置までの距離が『クイックシステム設定』の値と大きく異なる場合（例えば、センタースピーカーがフロントスピーカーより遠い距離に設置されている場合など）は『詳細なセットアップのしかた』（101ページ参照）で設定してください。

2 テストトーンによる再生レベルの確認と調節

★再生の前に、必ずテストトーンにより各スピーカーの再生レベルの確認と調節をおこなってください。調節はシステムセットアップ（102、103ページ参照）でもできますが、下記の通りリモコンで調節します。



1 **TEST.TONEボタンを押します。**

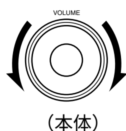
TEST TONE

（リモコン）

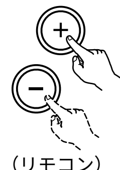
2 **テストトーンが各スピーカーから出力されますので、本体のMASTER VOLUMEつまみを回すか、またはリモコンのVOLUMEボタンを押して調節しやすい音量にします。**

M.VOLUME -20

音量がディスプレイに表示されます。



（本体）



（リモコン）

3 **テストトーンが各スピーカーから順に出力されますので、各スピーカーの音量が同じになるようにカーソルボタン◄,►で調節します。**

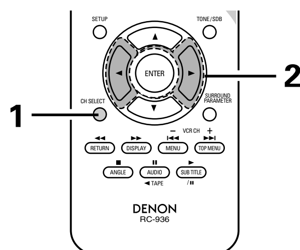
※テストトーン調整中は
リモコンのCH.SELECTボタンやカーソルボタン（▲,▼）で調整するチャンネルを変更することができます。

4 **調節が終わったら、もう一度TEST.TONEボタンを押して、終了します。**

TEST TONE

（リモコン）

★テストトーンによる調節後も、再生するプログラムソースまたはお好みに合わせて、下記の操作により各チャンネルレベルの調節をおこなうことができます。
調節したレベルは自動的に記憶されます。

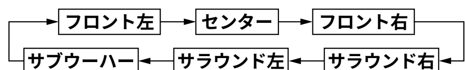


1 **プログラム再生中に、レベル調節したいスピーカーを選択します。**

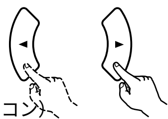
CH SELECT

（リモコン）

※ボタンを押すたびに次のように切り替わります。



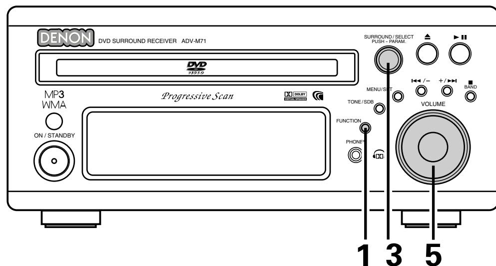
2 **チャンネルレベル表示中に選択したスピーカーの音量レベルを調節します。**

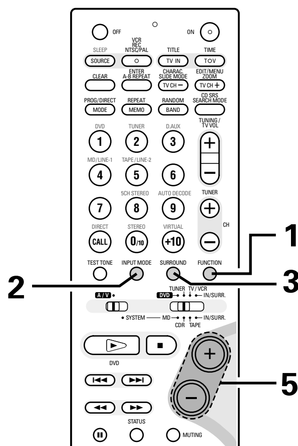


（リモコン）

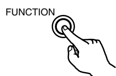
18 サラウンド機能の操作のしかた

(1) 入力モードの設定

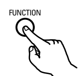




1 **ファンクションボタンを押して再生したい入力ファンクションを選択します。**



（本体）

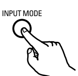


（リモコン）

- ボタンを押すたびに、ファンクションが次のように切り替わります。

→DVD→TUNER→(LINE1)→(LINE2) →D.AUX

2 **入力ファンクションにDVD、D.AUXまたはLINE1を選んだときは、リモコンのINPUT MODEボタンを押して入力モードを選択します。**



（リモコン）

→**AUTO**→**PCM**→**DTS**→**ANALOG**

※ 入力ファンクションにDVD D.AUXを選んだ場合は、『ANALOG』は選択できません。
※ 詳細設定の『システム設定変更』、『ファンクション設定』でLINE2をD.AUXに設定した場合は『ANALOG』も選択できます。

2 つづき

【入力モード選択機能について】

- DVD、D.AUX、LINE1の入力ファンクションについて選択することができます。（初期設定はLINE1は『MD』になっています。）
- 入力モードは、各入力ファンクションごとに選択ができます。また、選択された入力モードは入力ファンクションごとに記憶されます。
- 上記以外の入力ファンクションでは " ANALOG ONLY " と表示され、選択できません。

AUTO（オートモード）

- 選択された入力ファンクションごとにデジタル入力端子・アナログ入力端子に入力されている信号の種類を検出し、自動的に本機のサラウンドデコーダー内部のプログラムを切り替えて再生するモードです。
- デジタル信号の有無を検出して、入力されている信号を判断し、DTS/ドルビーデジタル/AAC/PCMいずれかの方式で自動的にデコードおよび再生をおこないます。
- デジタル信号が入力されていないLINE1の場合は、アナログ入力端子を選択します。
- ドルビーデジタル/AAC信号を再生する場合には、このモードを使用してください。

PCM（PCM信号再生専用モード）

- PCM信号が入力されたときだけデコードおよび再生をおこないます。

DTS（DTS信号再生専用モード）

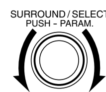
- DTS信号が入力されたときだけデコードおよび再生をおこないます。

ANALOG（アナログ音声信号再生専用モード）

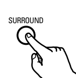
- アナログ入力端子に入力されている信号の再生をおこないます。（DVD、D.AUXでは選択できません。）

※ DVD以外の入力ファンクションからDVDに切り替えた場合、入力モードは自動的に『AUTO』になります。

3 **本体のサラウンド/セレクトつまみを回すか、リモコンのSURROUNDボタンを押してサラウンドモードを選択します。**



（本体）



（リモコン）

- 下記のように切り替わります。
  リモコンで操作した場合は → の方向のみ切り替わります。

DOLBY VS ↔ STEREO ↔ DIRECT ↔ *AUTO DECODE ↔ *5CH STEREO ↔ *MONO MOVIE ↔ ROCK ARENA ↔ JAZZ CLUB ↔ VIDEO GAME ↔ *MATRIX ↔ DOLBY VS ---

- *印のモードは、クイックシステム設定で『5.1chサラウンド』を選択したときに選択できます。

次ページへつづく

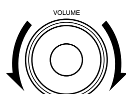
サラウンド機能の操作のしかた（つづき）

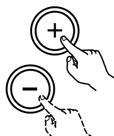
4 **選択した機器の再生をはじめます。**

※ 操作のしかたは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

5 **本体の主音量調節つまみを回すか、またはリモコンの主音量調節ボタンを押して音量を調節します。**

M.VOLUME -20 — 音量がディスプレイに表示されます。





（本体）　（リモコン）

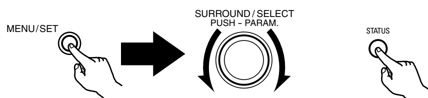
※ 音量は−60〜0〜＋18dBの範囲で調節できます。但し、入力信号、サラウンドモード、スピーカー設定およびチャンネルレベルの設定によっては、音量が＋18dBまで調整できないことがあります。

DTSソースの再生をおこなう場合の入力モード

- DTS対応のCDを『PCM』モードで再生すると、DTS再生できないためノイズが出力されます。DTS対応のソースを再生する場合は、必ず入力モードを『AUTO』または『DTS』に設定してください。
- 『AUTO』モードでDTSを再生した場合、再生の始め、およびサーチ中にノイズを発生する場合があります。このような場合は、『DTS』モードで再生してください。

■ 再生しているプログラムソース、各種設定などを確認するには

◎ 本体のメニュー/セットボタンを押して“STATUS”を表示させてからサラウンド/セレクトつまみを回します。

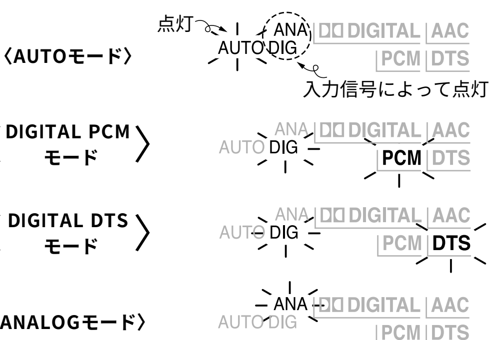


（本体）　（本体）　（リモコン）

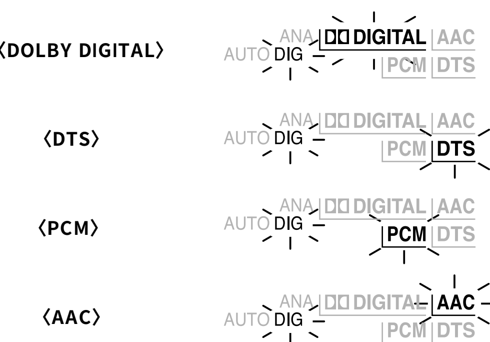
※ リモコンで操作する場合は、STATUSボタンを押します。

◎ サラウンド/セレクトつまみを回すたびに、またはSTATUSボタンを押すたびにディスプレイに現在のプログラムソースやサラウンドの各種設定が確認できます。（ファンクションDVDではTV画面にも表示されます。）

◎ 入力モードの表示



◎ **入力信号の表示**



※ デジタル信号が正常に入力されると“DIG”が点灯します。点滅している場合は接続が正しいか、または入力機器の電源が入っているかを確認してください。

CDソースの再生をおこなう場合の入力モード

- 『AUTO』モードでライブ録音などのCDを再生した場合、再生の始めの音声が若干途切れる場合があります。このような場合は、『PCM』モードで再生してください。

サラウンド機能の操作のしかた（つづき）

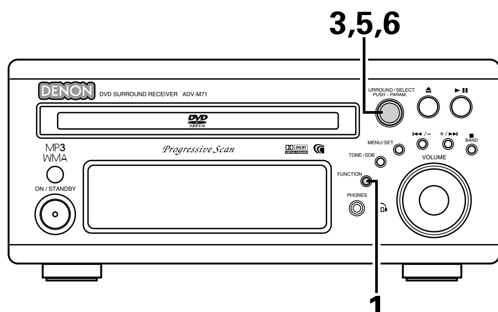
（2）ドルビーバーチャルスピーカーモードでの再生のしかた

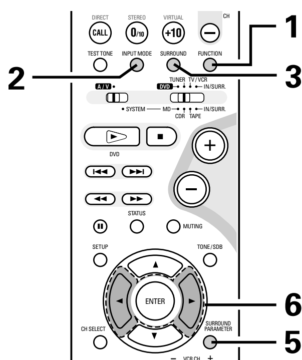
★ ドルビーバーチャルスピーカーモードは、ドルビーラボラトリーズの立体音響技術によりフロント2チャンネルスピーカーだけで、マルチチャンネルサラウンド音場を再生できるモードです。
★ フロント２チャンネルスピーカーでは、標準とワイドの２モードが選択できます。
★ ドルビーデジタル、DTS、AACのマルチチャンネルソースだけでなく2チャンネルソースにも効果的です。2チャンネルソースに対しては、2チャンネルモード設定によりバーチャル1（ドルビープロロジックIIシネマ）、バーチャル2（ドルビープロロジック）の再生が選択できます。
★ また、5.1チャンネルなどのマルチチャンネルスピーカー構成に於いてもスピーカー構成に応じたドルビーバーチャルスピーカーモードの効果があります。

1 ドルビーデジタル、DTS、AACサラウンドの再生（デジタル入力のみ）

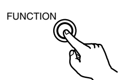
◎ **適応ソース**

● デジタル入力　（DVD再生ディスクを含むLINE1、D.AUXファンクション）
ドルビーデジタルマルチチャンネルソース
DTSソース
AACマルチチャンネルソース

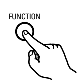




1 **デジタル入力ファンクションを選択します。（DVDまたはLINE1、D.AUXのデジタル入力）**



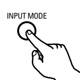
（本体）



（リモコン）

2 **入力モードを『AUTO』に設定します。**

※ DTSソースは入力モード『DTS』でも再生できます。



（リモコン）

3 **サラウンドモードを『DOLBY VIRTUAL SPEAKER』に設定します。**



（本体）



（リモコン）

● ドルビーバーチャルスピーカーモードでは表示が点灯します。　DD VS ←点灯

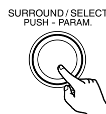
4 **DOLBY DIGITAL、dts マークが付いたプログラムソースまたはAACのプログラムソースを再生します。**

● ドルビーデジタルソース再生中は、ドルビーデジタル表示が点灯します。　DD DIGITAL ←点灯
● DTSソース再生中は、DTS表示が点灯します。　DTS ←点灯
● AACソース再生中は、AAC表示が点灯します。　AAC ←点灯

※ 再生ソースのフォーマットに応じて自動的に切り替わります。

5 **ソースに合わせてサラウンドパラメーターを表示させます。**

※ DVDファンクションでは画面にも表示されます。



（本体）



（リモコン）

次ページへつづく

6 **各種サラウンドパラメーターを選択し、設定します。(リモコンは◀,▶カーソルボタンで設定します。)**

SURROUND / SELECT PUSH - PARAM.
（本体）

※ パラメーター表示中に6秒間操作しないと、定常表示に戻ります。

◎ **DOLBY VSモードの設定**

DDVS REF WIDE

※ 選択されているモードが点滅します。
※ 設定できない場合は表示されません。

◎ **D. COMP.の設定**

D.COMP. OFF

OFF LOW MID HI
← →

※ **AAC再生時には、このパラメーターは表示されません。**

◎ **LFEレベルの設定**

LFE 0dB

-10 … -5 … 0
← →

※ LFEレベルは-10dB〜0dBの範囲で1dB単位で調節できます。

◎ **DEFAULTの設定**

DEFAULT Y/N

YES NO
← →

※『YES』を選択すると工場出荷時の初期設定に戻ります。

※ サラウンドパラメーター表示中は、リモコンのカーソル▲,▼ボタンで前後に項目を切り替えることができます。

※ サラウンドパラメーターの設定が終了したら、ボタン操作を止めてください。数秒間経つと表示が通常状態に戻り、設定した内容は自動的に確定されます。

ご注意

- 『DEFAULT』を選択してカーソルボタン（◀）を押す（『YES』を選択）と、自動的に『D.COMP.』が『OFF』に、『LFE』が初期値に設定されます。
（AACソースは『D.COMP.』は無効です。）
- DTS信号の再生は入力モード『DTS』でも再生できます。（44ページ参照）この場合はDTS信号が入力されたときだけデコード、再生をおこないます。

サラウンドパラメーターについて①

DOLBY VS
（ドルビーバーチャルスピーカーモード）

- REF（標準モード）
標準的なモードです。
- WIDE（ワイドモード）
フロントチャンネルの音場を拡大します。

D.COMP.
（ダイナミックレンジコンプレッション）

- ドルビーデジタル音声DTSのダイナミックレンジを調整するパラメーターです。深夜など、比較的小さな音量で再生する場合に『HI』側にすると音のピークを抑え、また小さな音を増幅することにより、ダイナミックレンジが狭くなり、聞き易くなります。『OFF』の場合は、機能オフとなります。

『OFF』◀▶『LOW』◀▶『MID』◀▶『HI』
ダイナミックレンジ　大 ◀──▶ 小

- DTSソースの場合、対応するソフトのみ表示されます。

LFE（ローフリクエンシーエフェクト）

プログラムソースと可変範囲

1.	ドルビーデジタル	−10dB〜0dB
2.	DTSサラウンド	−10dB〜0dB
3.	MPEG2 AAC	−10dB〜0dB

- ドルビーデジタルで録音されたソフトを再生する場合は、正しいドルビーデジタル再生のためにLFEレベルを0dBに設定するようお勧めします。
- DTSで録音された映画ソフトを再生する場合は、正しいDTS再生のためにLFEレベルを0dBに設定するようお勧めします。
- DTSで録音された音楽ソフトを再生する場合は、正しいDTS再生のためにLFEレベルを−10dBに設定するようお勧めします。

二重音声の情報があるAACソースを再生する場合

音声出力内容を設定することができます。

◎ 操作5、6で『BILINGL』（バイリンガル）のパラメーターが表示されます。

BILINGL MAIN

M/S MAIN SUB
← →

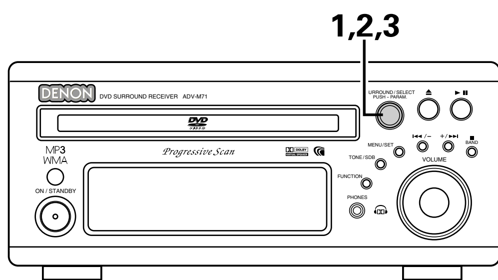
※ 二重音声ソースの時のみ表示され調節できます。
◎ セットアップの『システム設定変更』、『二重音声出力設定』でもあらかじめ設定することができます。

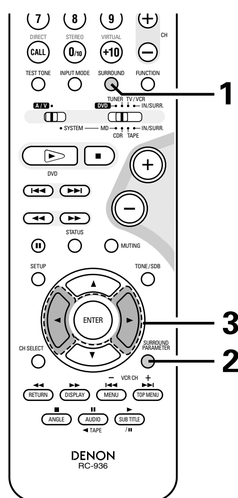
サラウンド機能の操作のしかた（つづき）

2 2チャンネルモードの設定

★ ドルビーバーチャルスピーカーでは入力された信号に応じ、自動的にドルビーデジタル、DTS、AACサラウンドモードでのドルビーバーチャルスピーカ再生ができます。
★ 入力信号が2chの場合には、2チャンネルモードの設定により2つの再生モード（バーチャル1、バーチャル2）から1つを選択して設定できます。（バーチャル1モード：工場出荷設定）
バーチャル1：2chソースをドルビープロロジックIIシネマ処理によりバーチャル再生します。
バーチャル2：2chソースをドルビープロロジック処理によりバーチャル再生します。

1,2,3





ご注意

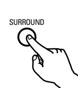
- ドルビーデジタル、AACの5.1ch信号やDTS信号が入力されているときは、2chモードの設定はできません。
- 2chモードはそれぞれのファンクションごとに設定し記憶されます。

1 **サラウンドモードを『DOLBY VIRTUAL SPEAKER』（『DOLBY VS』）にします。**

- " サラウンドモード " を表示した後、通常の表示に切り替わります。



（本体）



（リモコン）

2 **SURROUND PARAMETERボタンを押して、2chモードを選択します。**



（本体）



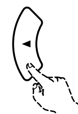
※ デジタル入力が無信号、またはPCM信号、ドルビーデジタル、AACの2ch信号のときやアナログ入力を選択したときに選択できます。

（リモコン）

3 **本体のサラウンド/セレクトつまみを回し、またはリモコンのカーソルボタン（◀,▶）で希望する2chモードを選択します。**



（本体）



（リモコン）

VIRTUAL 1 ◀―▶ VIRTUAL 2

※ サラウンドパラメーターの設定が終了したら、ボタン操作を止めてください。数秒間経つと表示が通常状態に戻り、設定した内容は自動的に確定されます。

サラウンドパラメーターについて②

1.VIRTUAL1（バーチャル1モード）
2chソースをドルビープロロジックIIシネマ処理して再生します。ドルビーサラウンド録音された映画ソースをはじめ、一般的なステレオ録音ソースの再生にも適しています。

2.VIRTUAL2（バーチャル2モード）
2chソースをドルビープロロジック処理して、再生します。従来のドルビープロロジック再生互換モードです。ドルビーサラウンド録音ソースに対して録音時の再生イメージに忠実なデコードをおこないます。

ご注意

● DVDやデジタル入力D.AUXでのドルビーバーチャルスピーカー再生時、インタラクティブソフトなど高ビットレートのソースにおいて、ノイズが発生する場合は『25 詳細なセットアップのしかた』の104〜105ページ『6ファンクション設定』-『LINE1/LINE2 REC OUT』を『切』に設定してください。
（この時ドルビーバーチャルスピーカーモードでのアナログ録音はできません。）

（3）DENONオリジナルサラウンド再生のしかた

1 各サラウンドモードとその特長

★本機はデジタル信号処理により、音場を疑似的に再現する高性能なDSP（デジタル・シグナル・プロセッサー）を内蔵しています。再生するソースに合わせて用意されたDENONオリジナルサラウンドモード（DSPサラウンドシミュレーション）を選択して、リスニングルームの状態によりパラメーターを調節することで、よりリアルでパワフルな音場を再現することができます。なお、各サラウンドモードはドルビーサラウンドプロロジックまたはドルビーデジタル録音されていないソースでもその効果をお楽しみいただけます。

1*	MONO MOVIE（モノ ムービー）（注1）	モノラル録音の映画ソースを広がりのある音場の雰囲気で楽しみたいときに選択します。
2	ROCK ARENA（ロック アリーナ）	反射音が回り込んでくるアリーナでのライブコンサートの雰囲気で楽しみたいときに使用します。
3	JAZZ CLUB（ジャズ クラブ）	天井が低く、固い壁に囲まれたライブハウスのような場所で、アーティストがすぐ近くで演奏するような雰囲気で楽しみたいときに選択します。
4	VIDEO GAME（ビデオ ゲーム）	ビデオゲームソースで楽しみたいときに使用します。
5*	MATRIX（マトリクス）	ステレオ録音された音楽ソースを、広がり感を強調して楽しみたいときに選択します。サラウンドCHからは、入力された信号の差の成分（広がり感の成分）に遅延処理を加えた信号が出力されます。
6*	5CH STEREO（チャンネルス テレオ）	サラウンド信号のLchにはフロントLchの信号、サラウンド信号のRch にはフロントRchの信号を出力し、センターchにはLchとRchの同相成分を出力します。ステレオサウンドを楽しむためのモードです。

※ *印のサラウンドモードは、スピーカー設定が5.1チャンネルのときに選択できます。
※ 再生するソースによっては、十分な効果が得られないことがあります。
この場合には、サラウンドモードの名称にこだわらずに各モードを試して、お好みの音場を創り出してください。

（注1）： モノラル録音ソースを再生する場合、LまたはRの片チャンネル入力では音が片寄るため、両チャンネルに入力してください。

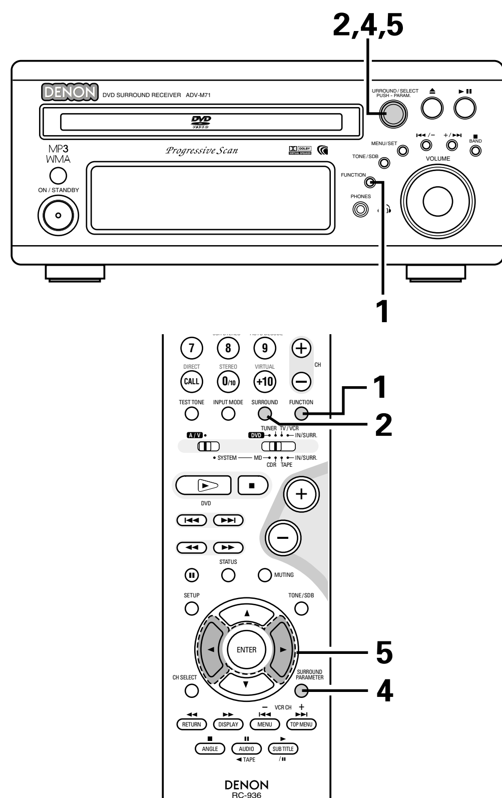
パーソナルメモリープラスについて

本機には、入力ファンクションごとに選択されたサラウンドモードなどが自動的に記憶される『パーソナルメモリープラス』という機能を搭載しています。入力ファンクションを切り替えるたびに、前回使用されたときの記憶が自動的に呼び出されます。

◎ パーソナルメモリープラス機能で各入力ファンクションごとに自動的に記憶される内容
① サラウンドモード
（2chモード設定も含む）
② 入力モード選択機能

※ サラウンドパラメーターおよびSDB/トーンコントロールの設定、各出力チャンネルの再生レベルは、サラウンドモードごとに記憶します。

2 DSPサラウンドシミュレーション再生のしかた

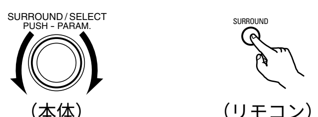


1 入力ファンクションを選択します。



（本体）　（リモコン）

2 入力ファンクションに合わせて、サラウンドモードを選択します。



（本体）　（リモコン）

- 下記のように切り替わります。
  リモコンで操作した場合は → の方向のみ切り替わります。

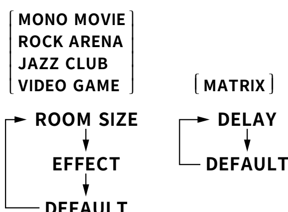
DOLBY VS ↔ STEREO ↔ DIRECT ↔ *AUTO DECODE ↔ *5CH STEREO ↔ *MONO MOVIE ↔ ROCK ARENA ↔ JAZZ CLUB ↔ VIDEO GAME ↔ *MATRIX ↔ DOLBY VS ---

※ 印のモードはクイックシステム設定で『5.1CH サラウンド』を選択した時に選択できます。

3 プログラムソースを再生します。

- 操作のしかたは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

4 選択したサラウンドモードに応じて、サラウンドパラメーターを設定します。



（本体）　（リモコン）

- ボタンを押すたびに、下記のように切り替わります。

[MONO MOVIE / ROCK ARENA / JAZZ CLUB / VIDEO GAME]
→ ROOM SIZE → EFFECT → DEFAULT →

[MATRIX]
→ DELAY → DEFAULT →

※ 5CH STEREOモードにはありません。

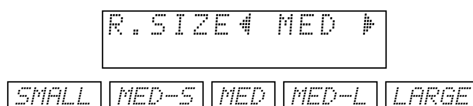
5 各種サラウンドパラメーターを設定します。

- リモコンのカーソルボタン（▲,▼）でサラウンドパラメーターの選択ができます。



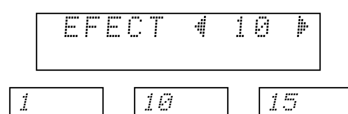
（本体）　（リモコン）

- **ROOM SIZEの設定**



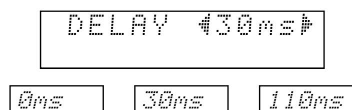
← →

- **EFECT LEVELの設定**



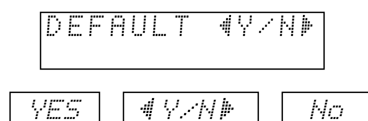
← →

- **DELAY TIMEの設定**



← →

- **DEFAULTの設定**



← →

※『YES』を選択すると工場出荷時の初期設定に戻ります。

※ サラウンドパラメーターの設定が終了したら、ボタン操作を止めてください。数秒間経つと表示が通常状態に戻り、設定した内容は自動的に確定されます。

サラウンド機能の操作のしかた（つづき）

サラウンドパラメーターについて③

ROOM SIZE（ルームサイズ）

- 音場の大きさを設定します。
  “ 小（SMALL）”、“ 中-小（MED-S）”、“ 中（MED）”、“ 中-大（MED-L）”、“ 大（LARGE）” の5つのパラメーターがあります。“ 小（SMALL）” では小さな音場空間、“ 大（LARGE）” では大きな音場空間を再現します。

EFFECT LEVEL（エフェクトレベル）

- サラウンドの効果の大きさを設定します。
  “ 1 ” ～ “ 15 ” の15段階で設定できます。

DELAY TIME（ディレイタイム）

- マトリクスモードに限り “ 0ms ” ～ “ 110ms ” の範囲でサラウンドチャンネルのディレイタイムを設定できます。

サラウンドモードパラメーター一覧表(1)

サラウンドモード DVS:Dolby Virtual Speaker DHP:Dolby Headphone		各モードにおける信号の有無と制御の可否 チャンネル出力			
		FRONT L/R	CENTER	SURROUND L/R	SUB-WOOFER
D	REFERENCE	○	◎	×	◎
V	WIDE	○	◎	◎	◎
S					
D	DH1	○(H/P only)	×	×	×
H	DH2	○(H/P only)	×	×	×
P	DH3	○(H/P only)	×	×	×
	BYPASS	○(H/P only)	×	×	×
STEREO		○	×	×	◎
DIRECT		○	×	×	◎
A D	DOLBY DIGITAL	○	◎	◎	◎
U E	DTS SURROUND	○	◎	◎	◎
T C	MPEG2-AAC	○	◎	◎	◎
O O	DOLBY PLⅡ	○	◎	◎	◎
D	AUTO STEREO	○	×	×	◎
E					
5CH STEREO		○	◎	◎	◎
MONO MOVIE		○	◎	◎	◎
ROCK ARENA		○	◎	◎	◎
JAZZ CLUB		○	◎	◎	◎
VIDEO GAME		○	◎	◎	◎
MATRIX		○	◎	◎	◎

サラウンドモードパラメーター一覧表(2)

サラウンドモード DVS:Dolby Virtual Speaker DHP:Dolby Headphone		各モードにおける信号の有無と制御の可否 入力ファンクションごとの再生信号とサラウンドモード								
		DVD D.AUX MD/LINE1							(D.AUX/L2) MD/LINE1	TAPE/LINE2 TUNER
		DOLBY DIGITAL 信号再生時		DTS 信号再生時		AAC 信号再生時		PCM 信号再生時	アナログ 信号再生時	アナログ 信号再生時
		2ch	マルチch	2ch	マルチch	2ch	マルチch	2ch	2ch	2ch
D	REFERENCE	●PLⅡ	○	●PLⅡ	○	●PLⅡ	○	●PLⅡ	●PLⅡ	●PLⅡ
V	WIDE	●PLⅡ	○	●PLⅡ	○	●PLⅡ	○	●PLⅡ	●PLⅡ	●PLⅡ
S										
D	DH1	●PLⅡ	○	●PLⅡ	○	●PLⅡ	○	●PLⅡ	●PLⅡ	●PLⅡ
H	DH2	●PLⅡ	○	●PLⅡ	○	●PLⅡ	○	●PLⅡ	●PLⅡ	●PLⅡ
P	DH3	●PLⅡ	○	●PLⅡ	○	●PLⅡ	○	●PLⅡ	●PLⅡ	●PLⅡ
	BYPASS	○	○D.MIX	○	○D.MIX	○	○D.MIX	○	○	○
STEREO		○	○D.MIX	○	○D.MIX	○	○D.MIX	○	○	○
DIRECT		○	○D.MIX	○	○D.MIX	○	○D.MIX	○	○	○
A D	DOLBY DIGITAL	○	○	×	×	×	×	×	×	×
U E	DTS SURROUND	×	×	×	○	×	×	×	×	×
T C	MPEG2-AAC	×	×	×	×	×	○	×	×	×
O O	DOLBY PLⅡ	●PLⅡ	×	●PLⅡ	×	●PLⅡ	×	●PLⅡ	●PLⅡ	●PLⅡ
D	AUTO STEREO	●	×	●	×	●	×	●	●	×
E										
5CH STEREO		○	○	○	○	○	○	○	○	○
MONO MOVIE		○	○	○	○	○	○	○	○	○
ROCK ARENA		○	○	○	○	○	○	○	○	○
JAZZ CLUB		○	○	○	○	○	○	○	○	○
VIDEO GAME		○	○	○	○	○	○	○	○	○
MATRIX		○	○	○	○	○	○	○	○	○

◎:スピーカーコンフィグレーション設定により、あり/なし可能。
:スピーカーコンフィグレーション設定でCENTERまたはSURROUNDスピーカーを使用する設定にした場合のみ使用可能
○:信号あり。または制御可能。　D. MIX:ダウンミックス処理により対応。
●:2チャンネルデコードモード設定により、選択可能。PLⅡ:PLⅡ処理により対応。
×:信号なし。または制御不可能。

サラウンドモードパラメーター一覧表(3)

サラウンドモード DVS:Dolby Virtual Speaker DHP:Dolby Headphone		各モードにおける信号の有無と制御の可否					
				サラウンドパラメーター （ ）内は初期設定値			
				2ch	プロロジックⅡ MUSIC MODEのみ		
		SDB	TONE CONTROL	DECODE MODE	PANORAMA	DIMENSION	CENTER WIDTH
D	REFERENCE	○(OFF)	○(OFF)	○	×	×	×
V	WIDE	○(OFF)	○(OFF)	(VIRTUAL1)	×	×	×
S							
D	DH1	○(OFF)	○(OFF)		×	×	×
H	DH2	○(OFF)	○(OFF)	○＊2	×	×	×
P	DH3	○(OFF)	○(OFF)	(CINEMA)	×	×	×
	BYPASS	○(OFF)	○(OFF)	×	×	×	×
STEREO		○(OFF)	○(OFF)	×	×	×	×
DIRECT		×	×	×	×	×	×
A D	DOLBY DIGITAL	○(OFF)	○(OFF)		×	×	×
U E	DTS SURROUND	○(OFF)	○(OFF)	○＊1	×	×	×
T C	MPEG2-AAC	○(OFF)	○(OFF)	(AUTO	×	×	×
O O	DOLBY PLⅡ	○(OFF)	○(OFF)	STEREO)	○(OFF)	○(3)	○(3)
D	AUTO STEREO	○(OFF)	○(OFF)		×	×	×
E							
5CH STEREO		○(OFF)	○(OFF)	×	×	×	×
MONO MOVIE		○(OFF)	○(OFF)	×	×	×	×
ROCK ARENA		○(OFF)	○(OFF)	×	×	×	×
JAZZ CLUB		○(OFF)	○(OFF)	×	×	×	×
VIDEO GAME		○(OFF)	○(OFF)	×	×	×	×
MATRIX		○(OFF)	○(OFF)	×	×	×	×

サラウンドモードパラメーター一覧表(4)

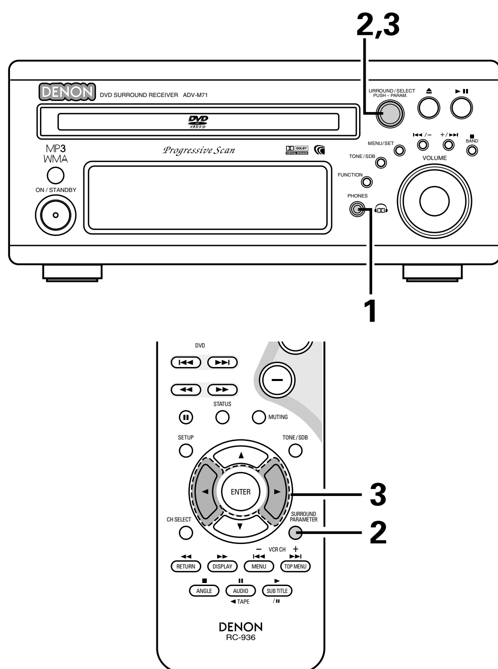
サラウンドモード DVS:Dolby Virtual Speaker DHP:Dolby Headphone		各モードにおける信号の有無と制御の可否					
		サラウンドパラメーター （ ）内は初期設定値					
					ドルビーデジタル/DTS信号		AAC信号
		ROOM SIZE	EFFECT LEVEL	DELAY TIME	D.COMP.	LFE	LFE
D	REFERENCE	×	×	×	○(OFF)	○(0dB)	○(0dB)
V	WIDE	×	×	×	○(OFF)	○(0dB)	○(0dB)
S							
D	DH1	×	×	×	○(OFF)	○(0dB)	○(0dB)
H	DH2	×	×	×	○(OFF)	○(0dB)	○(0dB)
P	DH3	×	×	×	○(OFF)	○(0dB)	○(0dB)
	BYPASS	×	×	×	○(OFF)	○(0dB)	○(0dB)
STEREO		×	×	×	○(OFF)	○(0dB)	○(0dB)
DIRECT		×	×	×	○(OFF)	○(0dB)	○(0dB)
A D	DOLBY DIGITAL	×	×	×	○(OFF)	○(0dB)	×
U E	DTS SURROUND	×	×	×	○(OFF)	○(0dB)	×
T C	MPEG2-AAC	×	×	×	×	×	○(0dB)
O O	DOLBY PLⅡ	×	×	×	○(OFF)	○(0dB)	×
D	AUTO STEREO	×	×	×	×	×	×
E							
5CH STEREO		×	×	×	○(OFF)	○(0dB)	○(0dB)
MONO MOVIE		○(MEDIUM)	○(10)	×	○(OFF)	○(0dB)	○(0dB)
ROCK ARENA		○(MEDIUM)	○(10)	×	○(OFF)	○(0dB)	○(0dB)
JAZZ CLUB		○(MEDIUM)	○(10)	×	○(OFF)	○(0dB)	○(0dB)
VIDEO GAME		○(MEDIUM)	○(10)	×	○(OFF)	○(0dB)	○(0dB)
MATRIX		×	×	○(30ms)	○(OFF)	○(0dB)	○(0dB)

:スピーカーコンフィグレーション設定でCENTERまたはSURROUNDスピーカーを使用するに設定した場合のみ使用可能
○:信号あり。または制御可能。
×:信号なし。または制御不可能。
＊1:AUTO STEREOモードとDOLBY PLⅡモード(CINEMAモード、MUSICモード、DOLBY PLモード)を選択可能。
＊2:DOLBY PLⅡモード(CINEMAモード、MUSIC1モード、MUSIC2モード)を選択可能。
(　):ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ初期設定値

サラウンド機能の操作のしかた（つづき）

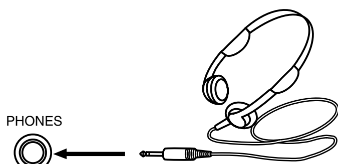
(4) ドルビーヘッドホンでの再生のしかた

★本機はドルビーラボラトリーズとレイクテクノロジー社との共同開発によるヘッドホン再生における立体音響技術であるドルビーヘッドホンモードを搭載しています。
★本機のヘッドホン端子にヘッドホンプラグを挿入するとドルビーヘッドホンモードになります。
★ドルビーヘッドホンモードは、音場効果によりDH1、DH2、DH3のモードと通常のステレオ再生をするBYPASSの4モードが選択できます。
★ドルビーデジタル、DTS、AAC、のマルチチャンネルソースに対応しており、2チャンネルソースに対しても2チャンネルモード設定により、シネマ、ミュージック1、ミュージック2での再生が選択できます。



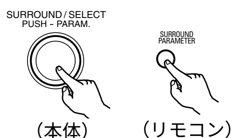
1 **ヘッドホンジャックにヘッドホン（別売り）を差し込みます。**

● ヘッドホンプラグを差し込むと自動的にスピーカー出力がOFFとなり、スピーカーより音は出ません。



2 **サラウンドパラメーターボタンを押してサラウンドパラメーターを表示させます。**

※DVDファンクションでは画面にも表示されます。



（本体）　（リモコン）

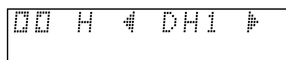
3 **各種サラウンドパラメーターを設定します。**

※パラメーター表示中に6秒間操作しないと定常表示に戻ります。



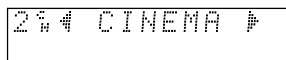
（本体）　（リモコン）

● **DOLBY Hモードの設定**

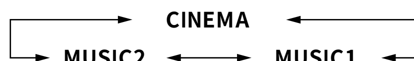




● **2チャンネルモードの設定**



● 操作のたびに下記のように切り替わります。



※無信号または2チャンネルソース再生時に選択できます。

以下（2）ドルビーバーチャルスピーカーでの再生のしかたと同様のパラメーターがあります。

◎ **D.COMPの設定**
◎ **LFEレベルの設定**
◎ **DEFAULTの設定**

※ サラウンドパラメーターの表示中は、リモコンのカーソル▲,▼ボタンで前後に項目を切り替えることができます。

サラウンドパラメーターについて④

DOLBY H（ドルビーヘッドホンモード）

DH1 ……………リファレンスルーム
（小さな残響音の少ない部屋）

DH2 ……………ライブな部屋
（DH1よりやや残響間の多い部屋）

DH3 ……………大きな部屋
（DH1より大きな部屋で距離感や音の拡散効果が得られます。）

BYPASS ………ステレオ再生になります。

2チャンネルモード

アナログ、PCMなどの2チャンネルソースを再生中に選択できます。以下のデコーダーでマルチチャンネル化してからドルビーヘッドホンで再生します。
BYPASSモード時には表示されません。

CINEMA ………Dolby Pro Logic II Cinema モード
MUSIC1…………Dolby Pro Logic II Music モード
MUSIC2…………2チャンネルのままドルビーヘッドホンで再生します。

■録音のしかた

ファンクションDVDを含むデジタル入力ソース再生時、本機はドルビーヘッドホンでエンコードした信号を録音出力端子に出力し、他の録音機器で録音することが可能です。

①ヘッドホン端子にヘッドホンプラグを挿入します。
②録音出力端子（アナログ）にドルビーヘッドホンでエンコードした信号が出力されます。
③パラメーターを選択し、お好みのモードに設定してから録音を開始します。

注意

- ドルビーヘッドホン処理により、アナログ録音出力レベルは通常のステレオ録音出力より低くなります。
- 録音中にパラメーターを変更したり、ヘッドホンを抜かないでください。録音中の音声が途切れます。
- アナログソース再生時はドルビーヘッドホン信号の録音はできません。録音出力はアナログ入力信号が、そのまま出力されます。

(5) オートデコードモードでの再生のしかた（マルチチャンネルスピーカー設定時のみ）

★別売りのアンプ内蔵スーパーウーハー（DSW-3.1）、センター/サラウンドスピーカーシステム（SYS-3.1）などと組み合わせて、5.1チャンネルなどのマルチチャンネルスピーカー構成に設定した場合、オートデコードモードが選択できます。

★5.1チャンネルへの設定は、クイックシステム設定でスピーカー設定を『5.1CHサラウンド』にし『ルーム設定』と『視聴位置』を選択します。（24～27ページ参照）

★オートデコードモードでは入力された信号フォーマットに応じて、ドルビーデジタル、DTS、AACのマルチチャンネルソースに対して自動的にマルチチャンネル再生ができます。

★2チャンネルソースに対しても、2チャンネルモード設定によりオートステレオ、ドルビープロロジックIIシネマ、ドルビープロロジックIIミュージック、ドルビープロロジックでの再生ができます。（オートステレオでは、ステレオ2チャンネル再生、オートステレオ以外では、マルチチャンネル再生となります。）

1 ドルビーデジタル、DTS、AACサラウンドの再生（デジタル入力のみ）

★適応ソース、操作のしかたは、46ページ『(2) ドルビーバーチャルスピーカーモードの再生のしかた 1 **ドルビーデジタル、DTS、AACサラウンドの再生**』と同様です。

- 操作*3*でサラウンドモードを『AUTO DECODE』に設定します。入力された信号フォーマットに応じて再生されます。
- 操作*6*のDOLBY VSモードのサラウンドパラメーターはありません。

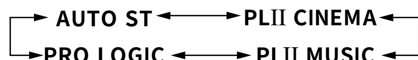
2 2チャンネルモードの設定

★オートデコードモードでは2チャンネルソースに対し、オートステレオモード（工場出荷時設定）によるステレオ2チャンネル再生とドルビープロロジックIIシネマ、ドルビープロロジックIIミュージック、ドルビープロロジックモードによるマルチチャンネル再生の1つのモードを選択して設定できます。

※TUNERやLINE2のアナログ入力のみのファンクションでは『オートステレオモード』は選択できません。ステレオ再生をおこなう場合はサラウンドモードを『STEREO』にしてください。（44ページ参照）

★操作のしかたは48ページ『(2) ドルビーバーチャルスピーカーモードの再生のしかた 2 **2チャンネルモードの設定**』と同様です。

- 操作*1*でサラウンドモードを『AUTO DECODE』にします。
- 操作*3*で選択できる2chモードは下記となります。



※オートステレオはDVD、LINE1、D.AUXファンクションで選択できます。

- オートデコードモードでの2chモードサラウンドパラメーターは、サラウンドパラメーター⑤（オートデコード2チャンネルモード）を参照してください。

サラウンドパラメーターについて⑤（オートデコード2チャンネルモード）

1. AUTO-ST（オートステレオモード）
2chソースをステレオ2chで再生します。
オートデコードモードでこのモードを選択すると、DVDやBSデジタルなどのマルチチャンネルソースはマルチチャンネルのまま再生し、CDなどの2chソースは自動的にステレオで再生します。

2. PLⅡ CINEMA / PLⅡ MUSIC / PRO LOGIC
2chソースに対してもドルビープロロジックⅡ処理により、マルチチャンネルで再生します。
オートデコードモードでこのモードを選択すると、DVDやBSデジタルなどのマルチチャンネルソースはマルチチャンネルのまま再生し、CDなどの2chソースに対しても自動的にドルビープロロジックⅡ処理され、マルチチャンネル再生します。

- **PLⅡ CINEMA（ドルビープロロジックⅡ シネマモード）**
  ドルビーサラウンド録音された映画ソースをはじめ、一般的なステレオ録音ソースの再生に適したモードです。高精度デコーダーによる5チャンネルデコードをおこない、2チャンネルソースでも360度均一なサラウンド音場を実現します。
  主にステレオ音楽成分を多く含むソースの場合、MUSICモードの方がより効果的な場合もあります。試聴結果によって、効果的なモードを選択してください。
- **PLⅡ MUSIC（ドルビープロロジックⅡ ミュージックモード）**
  ステレオ音楽信号のサラウンド再生に適したモードです。音楽信号の残響成分に多く含まれる逆相信号の再生をサラウンドチャンネルでおこない、同時にサラウンドチャンネルの周波数特性をサラウンド音に最適化させることにより、自然な、且つ広がり感のある音楽再生をおこないます。
  音楽信号は、そのジャンル、状態（ライブ音楽等）など信号ソースの内容により音場の広がり方が異なります。そのためMUSICモードには、更に音場の調整を可能とする、各種のオプションパラメーターがあります。
  - **PANORAMA（パノラマ）**
    フロントステレオの音場イメージを、サラウンドチャンネルまで拡大します。
    ノーマル状態でステレオイメージが狭く、サラウンド効果が薄いと感じられる場合に効果的です。
  - **DIMENSION（ディメンション）**
    音場イメージの中心をフロント、またはサラウンド側にシフトします。
    ソースの残響成分の大きさに拠らず、各チャンネルの再生バランスを調整することが可能です。音場イメージがフロント側、サラウンド側のいずれかに偏った場合に、それらを補正することができます。
  - **CENTER WIDTH（センター ウィズス）**
    センターの信号成分の再生方法を、センターチャンネルのみの再生からフロントチャンネルのみの再生の間で調整します。
    セパレーションを重視したセンターチャンネル再生をおこなった場合、フロントチャンネルの音場について定位が明確化する反面、全体の音場イメージがセンターに集中したり、各チャンネル間の繋がりが希薄に感じられることがあります。このパラメーターを調整することにより、音場イメージの安定感を増加させ、自然な左右の広がりを得ることができます。
- **PRO LOGIC（ドルビープロロジックモード）**
  従来のドルビープロロジック再生互換モードです。ドルビーサラウンド録音ソースに対して、録音時の再生イメージに忠実なデコードをおこないます。

- オートデコードモードで再生するとディスクや放送の内容によって再生モードが自動的に次のようになります。（入力モード『AUTO』、2チャンネルモード『AUTO ST』の時）

メディア	ソフトの内容		再生モード
DVD	ドルビーデジタル　5.1ch/6.1ch		5.1ch再生
DVD	ドルビーデジタル　2ch（含むドルビーサラウンド2ch）		ステレオ再生（＊）
DVD	DTSデジタル　5.1ch/6.1ch		5.1ch再生
デジタル放送	AAC	5.1chサラウンド	5.1ch再生
デジタル放送	AAC	2ch（含むドルビーサラウンド2ch）	ステレオ再生（＊）
CD	PCM　ステレオ		ステレオ再生（＊）

（＊）2chサラウンド（ドルビーサラウンド）やステレオのソフトを5.1chサラウンドで再生する場合は、2チャンネルモードを『AUTO ST』以外に設定をしてください。

3 PLⅡ CINEMA / PLⅡ MUSIC /PRO LOGIC各モードのパラメーターの設定

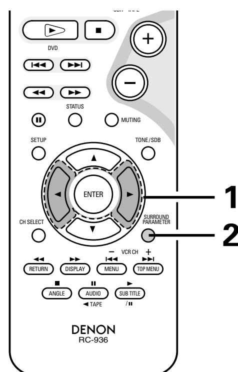
★2chモードでPLⅡ CINEMA、PLⅡ MUSIC、PRO LOGICを選択した場合、それぞれのモードでさらに詳細なパラメーターを設定することができます。

PLⅡ MUSICモード：下記の手順で設定します。

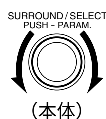
PLⅡ CINEMA / PRO LOGICモード：46、47ページの操作*5,6* を参照してください。（操作*6*のDOLBY VSモードはありません）

★ DOLBY SURROUND マークの付いたプログラムソースや、CDなどの2chソースをドルビープロロジックⅡ処理によりデコードしマルチチャンネル再生します。

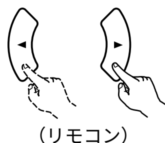
① シネマ（PLⅡ CINEMA）モード：映画などのドルビーサラウンドプログラムに適したモードです。
② ミュージック（PLⅡ MUSIC）モード：ステレオ音楽プログラムに適したモードです。
③ プロロジック（PRO LOGIC）互換モード：従来のドルビーサラウンドプロロジックモードです。



1 **2chモードの設定でPLⅡ C、PLⅡ M、PRO LOGICのいずれかを選択します。**

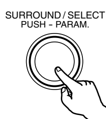


（本体）

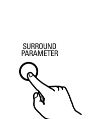

（リモコン）

2 **選択したモードに応じて、サラウンドパラメーターを設定します。**

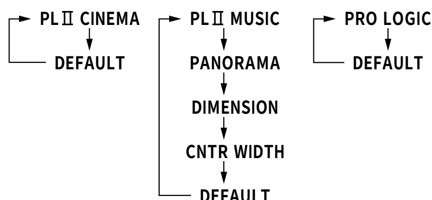
●ボタンを押すたびに、下記のように切り替わります。



（本体）



（リモコン）



3 **各種サラウンドパラメーターを設定します。**

◎ **PANORAMAの設定**

PANORA ON/OFF

ON　OFF

←　→

※ 選択されている方が点滅します。

◎ **DIMENSIONの設定**

DIMENSION ◀3▶

0 … 3 … 6

←　→

◎ **CENTER WIDTHの設定**

CNTR WIDTH ◀3▶

0 … 3 … 7

←　→

◎ **DEFAULTの設定**

DEFAULT ◀Y/N▶

YES　◀Y/N▶　No

←　→

※『YES』を選択すると工場出荷時の初期設定に戻ります。

※ サラウンドパラメーターの設定が終了したら、ボタン操作を止めてください。数秒間経つと表示が通常状態に戻り、設定した内容は自動的に確定されます。
※ 以上でパラメーターの設定は完了します。

ご注意

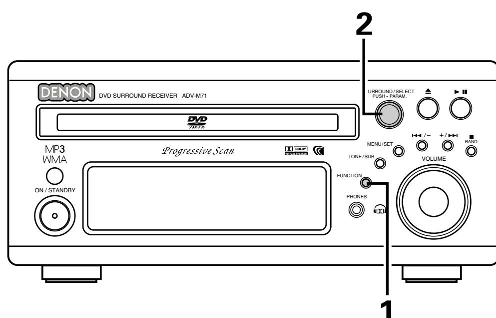
● 2chモードの設定はファンクションごとに設定し、記憶されます。
● DTSデジタル入力ソースはドルビーモードでの再生はできません。

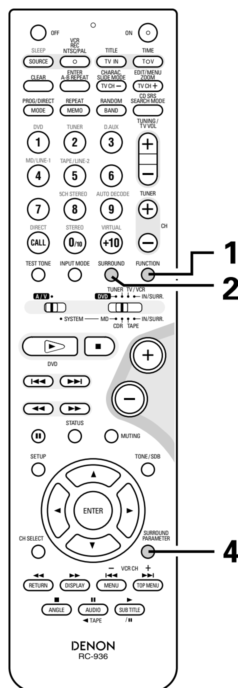
4 ドルビープロロジックⅡの再生（全ファンクション）

★2chモード、PLⅡ CINEMA、PLⅡ MUSIC、PRO LOGICモードパラメーターの設定に従って再生します。

◎適応ソース

● デジタル入力　（DVD再生ディスクを含むLINE1、D.AUXファンクション）
　ドルビーデジタル2chソース
　AAC2chソース
　PCM2chソース
● アナログ入力2chソース（TUNER、LINE1、LINE2）





1 **入力ファンクションを選択します。**

FUNCTION（本体）　FUNCTION（リモコン）

※デジタル入力ファンクション（DVD、LINE1、D.AUX）の入力モード『DTS』ではドルビープロロジックⅡの再生はできません。

2 **サラウンドモードを『AUTO DECODE』に設定します。**

SURROUND / SELECT PUSH - PARAM.（本体）　SURROUND（リモコン）

3 **DOLBY SURROUND マークが付いたプログラムソースまたは2chソースを再生します。**

● ドルビープロロジックⅡモードの設定に応じて再生します。
● シネマ（CINEMA）、ミュージック（MUSIC）モードではドルビープロロジックⅡ表示が点灯します。

PRO LOGIC Ⅱ ←点灯

● ドルビープロロジックモードではドルビープロロジック表示が点灯します。

PRO LOGIC ←点灯

4 **選択したモードに応じて、サラウンドパラメーターを設定します。**

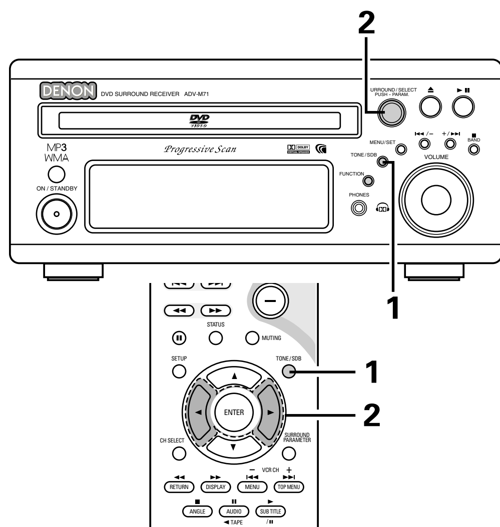
SURROUND PARAMETER（リモコン）

※『PLⅡ CINEMA / PLⅡ MUSIC / PRO LOGIC各モードのパラメーター設定』（56ページ）の操作*1* ～*3* を参照してください。

（6）その他の操作のしかた

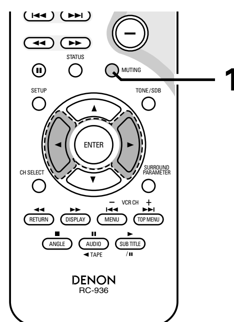
1 音質を調節するには

★ トーン/SDBはダイレクトモードでは動作しません。



1	**トーン/SDBボタンを押します。** ● ボタンを押すたびに下記のように切り替わります。 TONE/SDB（本体） TONE/SDB（リモコン） → SDB → BASS → TREBLE → DEFEAT → (ON/OFF)
2	**調整したい項目を表示させた状態で、お好みに合わせて調節します。** SURROUND / SELECT PUSH - PARAM.（本体） （リモコン） ◎ **DEFEAT表示のとき** SDB、トーンともOFFになります。 ◎ **SDB表示のとき** SDB（スーパーダイナミックバス）をONにすると、迫力ある重低音が楽しめます。 サラウンド/セレクトつまみを回すか、またはカーソルボタン（◀,▶）を押しONまたはOFFの設定をおこないます。 ◎ **BASSまたはTREBLE表示のとき** トーンコントロールがONになります。BASS（低音）、TREBLE（高音）の調整ができます。 ● 強くするとき： サラウンド/セレクトつまみを右に回すか、またはカーソルボタン（▶）を押します。 ● 弱くするとき： サラウンド/セレクトつまみを左に回すか、またはカーソルボタン（◀）を押します。 ※ トーン/SDBの表示中は、リモコン▲,▼ボタンで項目を切り替えることができます。 ※ 各表示で約4秒間操作しないとディスプレイ表示は元の表示に戻ります。

2 一時的に音を消すには（ミューティング）



1	**MUTEボタンを押します。** ※ 解除するときは、もう一度MUTEボタンを押してください。 MUTING（リモコン）

ご注意

- 本体の主音量調節つまみやリモコンの主音量調節ボタンを操作すると解除されます。
- 本機の電源をOFFにすると設定が解除されます。

19 サラウンドについて【解説】

★ 本機に内蔵のデジタル信号処理回路のはたらきにより、プログラムソースを映画館と同じ臨場感でサラウンド再生をお楽しみいただけます。

（1）ドルビーサラウンドについて

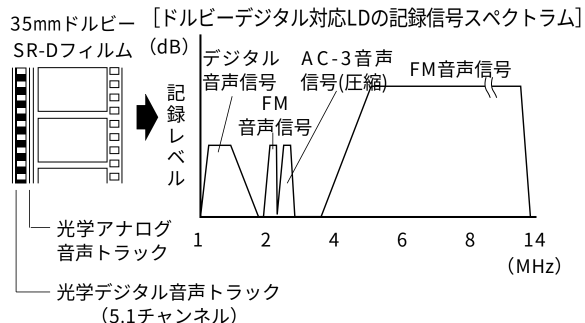
1 ドルビーデジタル（ドルビーサラウンドAC-3）

◎ ドルビーデジタルは、ドルビー研究所が開発したマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。
再生チャンネルはCDと同等以上の再生帯域（高域は20kHz以上再生可）を持つフロント3ch（フロント左（FL）、フロント右（FR）、センター（C））とサラウンド2ch（サラウンド左（SL）、サラウンド右（SR））に加え、低域（～120Hz）効果音専用のLFE（ロー・フリクエンシー・エフェクト）の合計5.1chに対応しており、更にモノラル1chやステレオ2ch、ドルビープロロジック信号の伝送など幅広い対応ができます。

◎ また、各チャンネルの信号はそれぞれ完全に独立して記録されるため、各信号間の干渉、クロストークなどで劣化する心配がありません。これらのデジタル信号を、高効率符号化技術によってCDの半分以下のデータ量（最大640kbps）にて伝送可能といった特徴を持っています。

◎ この特徴を映画のサウンドトラックに生かし、映画館用に開発されたサラウンドシステムが『DOLBY SR-D（ドルビーステレオデジタル）』です。従来一般的であったドルビーサラウンド（ドルビープロロジック）がアナログ・マトリクス方式であったのに対して、各チャンネルが完全に独立したデジタル・ディスクリート方式となり、音の遠近感、移動感、定位感のある音場をよりリアルに再現することができるようになりました。そしてドルビーデジタル対応メディアであるLD、DVDなどは、AVルームでDOLBY SR-Dのサラウンドトラックをそのまま再現することを可能にしたため、映画館と同様に驚くほどリアルで圧倒的な臨場感を生み出します。

【SR-Dとドルビーデジタルの関係】



【ドルビーデジタルとドルビープロロジック】

家庭用サラウンド方式比較	ドルビー・デジタル	ドルビー・プロロジック
記録(素材)ch数	5.1ch	2ch
再生ch数	5.1ch	4ch
再生ch構成(MAX)	L, R, C, SL, SR, SW	L,R,C,S（SWは推奨）
音声処理	デジタル・ディスクリート処理 ドルビーデジタル（AC-3）エンコード、デコード	アナログ・マトリックス処理 ドルビー・サラウンド
サラウンドchの高域再生限界	20kHz	7kHz

■ **ドルビーデジタル対応メディアとその再生方法**

ドルビーデジタル対応マーク： DOLBY DIGITAL

以下の内容は一般的な例です。必ずお手持ちの再生機器の取扱説明書とあわせて確認してください。

メディア	ドルビーデジタル出力端子	再生方法（参照ページ）
LD（VDP）	ドルビーデジタルRF出力 専用同軸端子 **（注1）**	入力モードを『AUTO』に設定します。 （44、45ページ参照）
DVD	光または同軸デジタル出力 （PCMと共通） **（注2）**	入力モードを『AUTO』に設定します。 （44、45ページ参照）
その他 （衛星放送、CATVなど）	光または同軸デジタル出力 （PCMと共通）	入力モードを『AUTO』に設定します。 （44、45ページ参照）

注1 ： デジタル入力端子にドルビーデジタルRF（AC-3 RF）出力信号を接続するときは、市販のアダプターを使用してください。（アダプターの取扱説明書を参照してください。）

注2 ： 本機のDVDでドルビーデジタルサラウンド再生をおこなう場合は、セットアップの『DVD設定変更』-『音声設定』-『デジタル出力』を『ノーマル』に設定します。（工場出荷時は『ノーマル』に設定されています。）

サラウンドについて【解説】（つづき）

2 ドルビープロロジックII

◎ ドルビープロロジックII は、従来のドルビープロロジック回路を更に進化させたフィードバックロジックステアリング技術を用いて、ドルビー研究所により開発された新しいマルチチャンネル再生方式です。

◎ ドルビーサラウンド録音されたソース（＊）に加え、音楽ソースなどの通常のステレオ録音ソースも5ch（FL、FR、C、SL、SR）の信号にデコードし、サラウンド再生を楽しむことができます。

◎ サラウンドチャンネルの再生周波数帯域は、帯域制限のあった従来のドルビープロロジックに比較して広帯域（20〜20kHz以上）になっています。また、従来サラウンドチャンネルはサラウンドL（左）＝サラウンドR（右）のモノラル再生でしたが、新たにステレオ信号として再生する方式をとっています。

◎ 再生するソースの種類や内容に合わせて最適なデコード処理をおこなえるように、各種パラメーターを設定することが可能になりました。（56ページ参照）

＊：“ **ドルビーサラウンド録音されたソース** ”とは

- 3ch以上で構成されるサラウンド信号を、ドルビーサラウンドエンコード技術によって2chの信号として記録したソースです。
- DVD、LD、ステレオVTRで再生される映画のサウンドトラックをはじめ、FM、TV、BS、CSなどのステレオ放送信号にて用いられています。
- この信号に対して、プロロジックデコードを施すことにより、マルチチャンネルでのサラウンド再生が可能になりますが、一般的なステレオ機器でそのままステレオ再生することも可能です。
- DVDのドルビーサラウンド録音信号には2種類あります。

①PCMステレオ2ch信号
②ドルビーデジタル2ch信号

本機はいずれの信号が再生されても『AUTO DECODE』モードで2chモードを『プロロジックII』モードに設定選択した場合、サラウンドモードは自動的に『ドルビープロロジックII』となります。

■ **ドルビーサラウンド録音されたソースには以下のロゴマークが表示されています。**

ドルビーサラウンド対応マーク： DOLBY SURROUND

（2）DTS デジタルサラウンドについて

◎ DTSデジタルサラウンド（または単にDTSと呼ばれます）は、デジタル・シアター・システムズ社が開発したマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。

◎ 再生チャンネルや再生帯域はドルビーデジタルと同様、FL、FR、C、SL、SRの5chに加えてLFE 0.1chを持つ5.1chで、他にステレオ2chモードがあります。いずれも各チャンネルの信号は完全に独立して記録されるため、各信号間の干渉、クロストーク等で劣化する心配はありません。

◎ DTSはドルビーデジタルに対して比較的高いビットレート（CD/LDで1234kbps、DVDは1536kbpsか768kbps）となり、相対的に低い圧縮率で動作するのが特徴です。そのためデータ量が多く、映画館においてのDTS再生はフィルムと同期をとったCD-ROMを別途再生する方法がとられています。
もちろんLDやDVDにおいてはそういった心配はなく、1枚のディスクに映像とサウンドが同時に記録できるため、他のフォーマットと同様の取り扱いができます。

◎ この他のメディアにはDTS録音されたCDがあります。これは従来の（2ch録音された）CDと同様のメディアに5.1chのサラウンド信号が記録されたもので、映像はありませんが、本機やCDプレーヤーを使ってサラウンド再生が可能となるという特徴があります。
DTSによるサラウンドトラック再生も映画館とAVルームの間で基本的な違いはなく、映画館と同様の緻密で雄大なサウンドを楽しむことができます。

■ **DTS対応メディアとその再生方法**

DTS対応マーク： DIGITAL dts SURROUND または dts

以下の内容は一般的な例です。必ずお手持ちの再生機器の取扱説明書と合わせて確認してください。

メディア	DTSデジタル出力端子	再生方法（参照ページ）
CD	光または同軸デジタル出力（PCMと共通）**（注4）**	入力モードを『AUTO』または『DTS』に設定します（44、45ページ参照）。絶対に『ANALOG』および『PCM』モードには切り替えないでください。**（注3）**
LD（VDP）	光または同軸デジタル出力（PCMと共通）**（注4）**	入力モードを『AUTO』または『DTS』に設定します（44、45ページ参照）。絶対に『ANALOG』および『PCM』モードには切り替えないでください。**（注3）**
DVD	光または同軸デジタル出力（PCMと共通）**（注5）**	入力モードを『AUTO』または『DTS』に設定します（44、45ページ参照）。

注3 ： CDやLDのDTS信号は、通常のCDやLDにおけるPCM信号がそのままDTS信号に置き換わった形で記録されています。そのためCD、LDプレーヤーのアナログ出力からはDTS信号がノイズとなって出力されます。このノイズをアンプによって再生した場合、最悪のケースでは本機やスピーカーなどの周辺機器が故障する可能性があります。これらの問題を避けるため、DTSで記録されたCDやLDを再生する前に、入力モードを必ず『AUTO』または『DTS』モードへ切り替えてから、ディスクの再生をおこなうようにしてください。また再生中は絶対に『ANALOG』および『PCM』モードへは切り替えないでください。本機やLD/DVDコンパチプレーヤーでDTS録音されたCDやLDの再生をおこなうときも同様です。なおDVDメディアの場合は、DTS信号は専用の記録方式で記録されているため、問題はありません。

注4 ： CDまたはLDプレーヤーなどで、デジタル出力に何らかの信号処理（出力レベル調整、サンプリング周波数変換など）がおこなわれている場合があります。この場合誤ってDTS信号に信号処理がおこなわれてしまい、本機と接続しても正しく再生できずノイズなどが発声することがありますので、はじめてDTS再生をおこなう場合はまずマスターボリウムを絞り、DTSディスクの再生を開始すると本機のDTSインジケーター（45ページ参照）が点灯することを確認してからマスターボリウムを上げるようにしてください。

注5 ： 本機のDVDでDTSデジタルサラウンド再生をおこなう場合は、セットアップの『DVD設定変更』-『音声設定』-『デジタル出力』を『ノーマル』に設定します。（工場出荷時は『ノーマル』に設定されています。）

（3）AACについて

◎ MPEG2-AAC (Advanced Audio Coding) はMPEG (Moving Picture Experts Group) が開発したマルチチャンネル音声フォーマットです。

◎ その特長は、高音質・高圧縮率を両立できることです。特に低ビットレート（高圧縮率）の環境においてドルビーデジタルやMP3 (MPEG Layer-3)など、従来のフォーマットに比べて高い音質を維持することが出来ます。具体的にはわずか96kbpsという低ビットレートで、CD並みといわれる品質のステレオ音声を伝送することが出来ます。

◎ その特長を生かしてポータブルオーディオなどへの応用が増加している一方、多チャンネルに対応しても全体のビットレートを低く抑えることが出来るため、日本のBSデジタル放送における5.1chサラウンド放送をはじめとする、サラウンドシステムへの応用が始まりました。

◎ MPEG2-AACは元々映像信号と音声信号の複合データであるMPEGデータの音声規格として開発されたため、その用途に応じて求められるスペックは多岐に渡ります。映像と組み合わせたトータルのビットレートを低く抑えるため低ビットレートでの音質確保、また多チャンネル伝送時のデータ量低減、業務用途のみに特化することなく使えるデータ処理の簡略化、それらは相反する要素を持ちますが、いずれの要求も満たせる様配慮され非常に柔軟性の高い規格になっています。そのため音声信号の種類やそのデータ作成環境に適合させるためにMAIN/LC/SSRプロファイルという3種類のデータ構造を持っています。

【MPEG2-AACのスペック（概要）】

- アルゴリズム　：MAINプロファイル
  LC(Low Complexity)プロファイル
  SSR(Scalable Sampling Rate)プロファイル
- サンプリング周波数　：8kHzから96kHzまで対応
- チャンネル数　：最大48チャンネルのマルチチャンネル伝送に対応
- その他の機能　：LFE(Low Frequency Effect)サポート
  マルチリンガル(複数言語)サポート

この中で本機は、BSデジタル放送にて使用される32kHzから48kHzまでのサンプリング周波数と、LCプロファイルの再生に対応しております。またチャンネル数は最大5.1chのデータに対応します。

※ MPEGによる音声規格は他にLayer-1,2,3等がありますが、それらとAACの間に互換性はありません。
本機はその中でさきに述べたAACの再生に対応します。

◎ 以下がAACに関する米国パテントナンバーです。

08/937,950	5 297 236	5,481,614	5,490,170
5848391	4,914,701	5,592,584	5,264,846
5,291,557	5,235,671	5,781,888	5,268,685
5,451,954	07/640,550	08/039,478	5,375,189
5 400 433	5,579,430	08/211,547	5,581,654
5,222,189	08/678,666	5,703,999	05-183,988
5,357,594	98/03037	08/557,046	5,548,574
5 752 225	97/02875	08/894,844	08/506,729
5,394,473	97/02874	5,299,238	08/576,495
5,583,962	98/03036	5,299,239	5,717,821
5,274,740	5,227,788	5,299,240	08/392,756
5,633,981	5,285,498	5,197,087	

サラウンドについて【解説】（つづき）

（4）ドルビーバーチャルスピーカーについて

ドルビーバーチャルスピーカー（Dolby Virtual Speaker）技術は、ドルビーラボラトリーズ社の専有技術により、フロント2チャンネルスピーカーだけでサラウンド音場の仮想化をおこなっており、実際にサラウンドスピーカーを設置しているかのような再生が体験できます。

■ドルビーバーチャルスピーカーの特長

◎ 正確なサラウンド音場定位

仮想サラウンドスピーカーの位置は、左方向に105 ° 右方向に105 ° として処理されます。

◎ マルチチャンネルプログラムを制作者の意図通りに再生

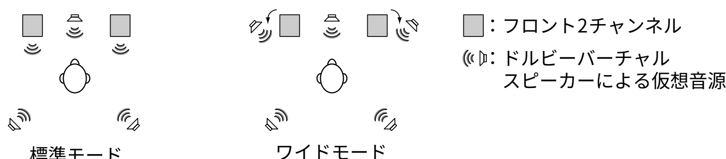
各チャンネルの音はミキシング時に設定された位置に再生されます。例えば左後方に設定されたものは左後方から聞こえます。

◎ ステレオプログラムがサラウンドに

ドルビープロロジックIIとの連携動作によりステレオプログラムからも豊かなサラウンド音場を創造します。

◎ リスニングモード選択

標準（REFERENCE）モードとワイド（WIDE）モードが提供されます。



本機ではスピーカー構成を変更した場合も、それぞれのドルビーバーチャルスピーカーモード再生に対応しています。

- 3スピーカー（フロント2チャンネル+センター）：標準/ワイドモード
- 4スピーカー（フロント2チャンネル+サラウンド2チャンネル）：ワイドモード
- 5スピーカー（フロント2チャンネル+センター+サラウンド2チャンネル）：ワイドモード

（5）ドルビーヘッドホンについて

ドルビーラボラトリーズと豪州レイクテクノロジー社との共同開発による立体音響技術で、サラウンド音場を通常のヘッドホンで再生できる技術です。

元来、ヘッドホンではすべての音が頭の中でなってしまい長時間の鑑賞は苦痛となりますが、部屋でのスピーカー再生をシュミレートしたドルビーヘッドホンは音源が前方あるいは側面にしっかり頭外定位するため、まるで映画館かホームシアターにいるような迫力のあるサウンドを聞くことが可能です。この技術は主としてドルビーデジタルまたはドルビープロロジックサラウンドのデコード機能を組み込んだマルチチャンネルオーディオ/ビデオ機器を対象にしており、高性能デジタル信号処理用チップ（DSP）に組み込んで動作させます。

ドルビーヘッドホンはマルチチャンネル音源だけでなくステレオプログラムにも効果的です。

20 オンスクリーンディスプレイについて

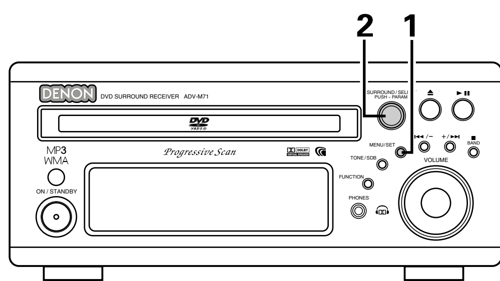
★ 本機はDVDファンクションにおいて、画面にサラウンド機能やディスクに関する情報を表示したり、操作したりすることができるON-SCREEN-DISPLAY（OSD）機能を持っています。

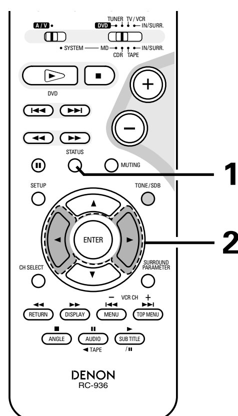
① セットアップ画面
- TVやスピーカーの設定（クイックシステム設定）、本機の機能、ディスク再生時の各種設定を変更（システム設定変更、DVD設定変更）するときに使用します。
- どのファンクションでも使用できますが、テレビの映像信号は、本機のDVD映像を接続した入力を選択してください。ディスク再生時は映像、音声ともに一時停止します。

② ディスク情報の表示
- DVDファンクションにおいて、ディスクに関する情報を表示したり、各種再生機能の操作をするときに表示します。

③ サラウンド機能の表示
- DVDファンクションではサラウンドアンプに関する情報も表示し、操作できます。
- 但し、データーディスク再生時のディスク情報画面が表示されているときは表示できません。

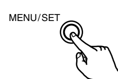
★ サラウンド機能のOSD（AV OSD）表示の入/切の設定ができます。
（セットアップ画面、DVDディスク情報のOSDについては『切』に設定できません。）
※ 工場出荷時は『入』に設定されています。



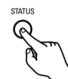


1 **本体のメニュー/セットボタンを押し“STATUS”表示中にメニュー/セットボタンを2秒以上押し続けます。**

- “AV OSD ON ◄► OFF”が表示され現在の状態が点滅します。



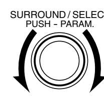
（本体）



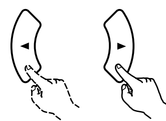
（リモコン）

※ リモコンのSTATUSボタンを2秒以上押し続けても表示されます。

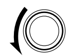
2 **AV OSDの入/切の設定をします。**



（本体）



（リモコン）

 または◄：ON（入）

 または►：OFF（切）

※ 数秒経つと表示が消え、設定されます。

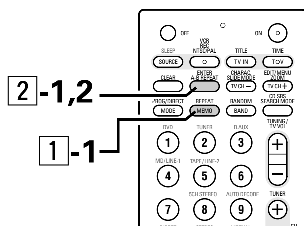
ご注意

- 再生するディスクによってはOSDを表示させると画像や音声が乱れる場合がありますが、故障ではありません。このような場合は、AV OSDを『切』にしてお楽しみください。
- ビデオデッキで録音中はセットアップやOSD表示の操作はおこなわないでください。

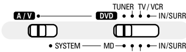
21 いろいろなディスク再生のしかた

(1) くり返し再生する

★ お気に入りの映像や音声をくり返して再生することができます。



リモコンモード切り替えスイッチをA/V、DVDにします。



ご注意

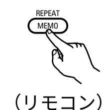
- リピート再生が働かないDVDもあります。
- 再生中ディスプレイに再生経過時間が表示されないディスクは、リピート再生およびA-Bリピート再生ができないことがあります。
- A-Bリピート再生中は、A-B間の前後の字幕が表示されないことがあります。

1 くり返し再生する（リピート再生）

1 再生中にREPEATボタンを押します。

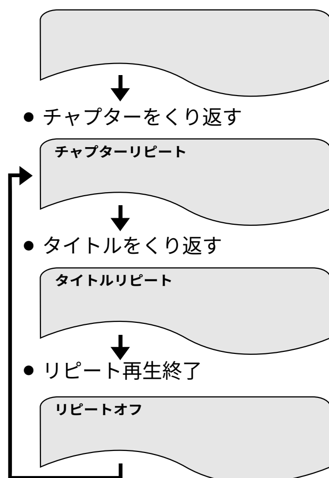
- 押すたびにテレビ画面の表示が切り替わり、それぞれのくり返し再生をはじめます。

※ リピート再生時、本体ディスプレイに“ ”が点灯します。オールリピート再生時は“ ALL ”が点灯します。

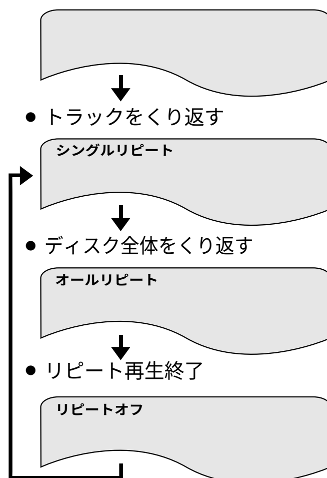


（リモコン）

■ **DVDの場合**



■ **ビデオCDや音楽CDの場合**



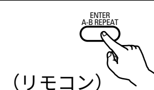
※ **通常の再生に戻すときは**
テレビ画面に“ リピートオフ ”が表示されるまでREPEATボタンを押すと、通常の再生に戻ります。
（本体ディスプレイの“ ”と“ ALL ”は消灯します。）

2 指定した2点間をくり返し再生する（A-Bリピート）

1 再生中にREPEAT A-Bボタンを押します。

- 開始場所Aが指定されます。

※ 本体ディスプレイに“ ”と“ A– ”が点灯します。



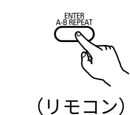
（リモコン）



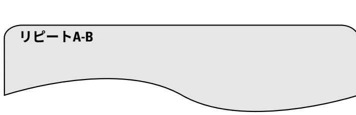
2 もう一度REPEAT A-Bボタンを押します。

- 終了場所Bが指定され、A-B間のくり返し再生がはじまります。

※ 本体ディスプレイに“ ”と“ A–B ”が点灯します。



（リモコン）



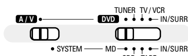
※ **通常の再生に戻すときは**
テレビ画面から“ リピートオフ ”が表示されるまでREPEAT A-Bボタンを押します。
（本体ディスプレイの“ ”と“ A-B ”は消灯します。）

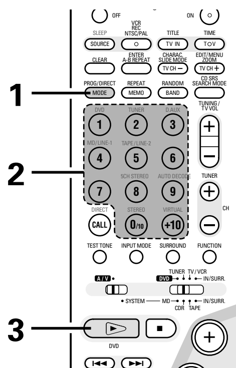
いろいろなディスク再生のしかた（つづき）

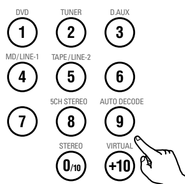
（2）好きな順に再生する（プログラム再生）

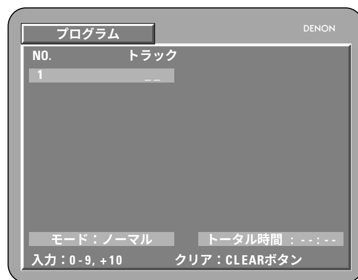
★ ビデオCDや音楽CDはトラック番号を予約して好きな順に再生することができます。
★ DVDでは働きません。

リモコンモード切り替えスイッチをA/V、DVDにします。



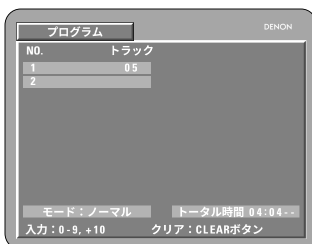


1	**停止中にPROG/DIRECTボタンを1回押します。** ● プログラム選択画面が表示されます。	 (リモコン)
2	**番号ボタンで予約したい番号を選択します。** ● 20曲までプログラムできます。	 (リモコン)

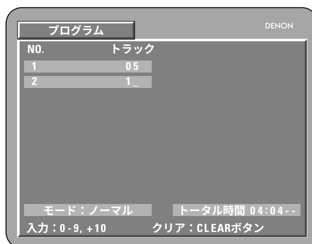


【例】トラック5と12をプログラムする場合

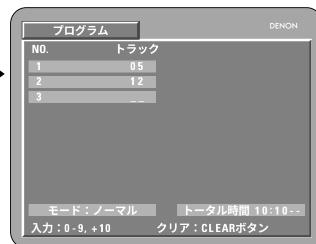
番号ボタンの『5』を押します。　番号ボタンの『+10』を押します。　番号ボタンの『2』を押します。

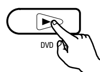


→



→



3	**プレイボタンを押します。** ● 予約した順に再生がはじまります。	 (リモコン)

※ **通常の再生に戻すには**
ストップボタンを押してプログラム再生を止め、**PROG/DIRECTボタン**を押します。
その後、**プレイボタン**を押すとディスクの先頭から通常の再生がはじまります。

※ **予約を1つずつ取り消すには**
ストップボタンを押してプログラム再生を止めます。
その後、**CLEARボタン**を押すたびに最後に予約したものから順に取り消されます。

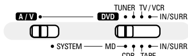
※ **予約をすべて取り消すときは**
電源を切るか、本体からディスクを取り出すとすべて取り消されます。
また、**ストップボタン**を押してプログラム再生を止め、**PROG/DIRECTボタン**を押すとすべて取り消されます。

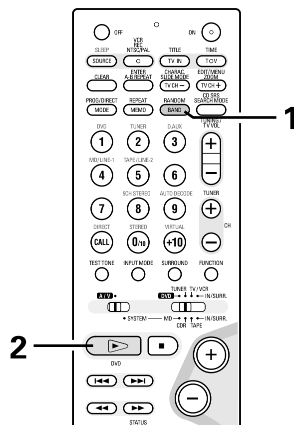
※ **プログラムされた内容を確認するには**
CALLボタンを押すとプログラムされた内容がステップごとに表示されます。

（3）順不同に再生する

★ ビデオCDや音楽CDはトラック単位で順不同（ランダム）に再生することができます。
★ DVDでは動作しません。

リモコンモード切り替えスイッチをA / V、DVDにします。



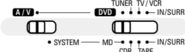


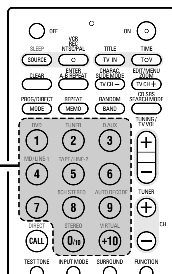
1	**停止中にRANDOMボタンを押します。** ● ランダム再生画面が表示されます。 ※ **ディスクによってはランダム再生できない場合があります。** ※ 本体ディスプレイに " RAND " が点灯します。	RANDOM BAND （リモコン） ランダムオン
2	**プレイボタンを押します。** ● 順不同に再生がはじまります。	DVD （リモコン）

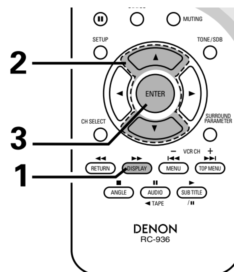
※ **通常の再生に戻すときは**
ストップボタンを押してランダム再生を止め、RANDOMボタンを1回押します。
(本体ディスプレイの " RAND " が消灯します。)

（4）ディスク情報OSDを使って操作する

リモコンモード切り替えスイッチをA/V、DVDにします。



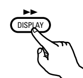




1 ディスク情報の表示と再生位置の指定

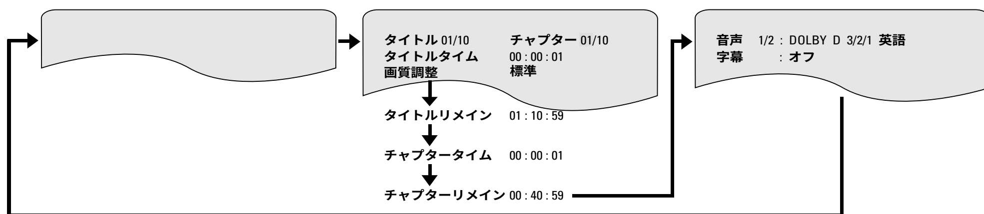
1

再生中にDISPLAYボタンを押します。
- ON-SCREEN画面が表示されます。
- 押すたびにテレビ画面の表示が切り替わります。
- 表示される項目はディスクにより異なります。



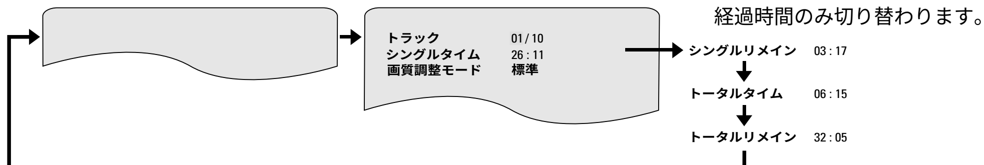
（リモコン）

【例】DVDの場合（通常の再生画面）



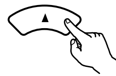
【例】ビデオCD/音楽CDの場合（通常の再生画面）

※ ビデオCD/音楽CDの場合、経過時間のみ切り替わります。



2

カーソルボタン（▲,▼）で変更する項目を選びます。
- 選ばれた項目は黄色の枠で表示されます。
- DVDの場合
タイトル、チャプターの経過時間を選ぶことができます。
- ビデオCD/音楽CDの場合
トラックの経過時間などを選ぶことができます。





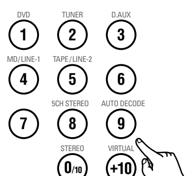
（リモコン）

3

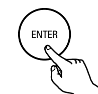
番号ボタンで再生位置を指定し、ENTERボタンを押します。

①経過時間の指定
- DVDの場合
【例】1時間32分47秒の場合→『13247』と押して、ENTERボタンを押します。
1分26秒の場合→『00126』と押して、ENTERボタンを押します。

②タイトル、トラック、チャプターの指定
- DVDの場合
番号ボタンで入力しENTERボタンを押します。
（ディスクによっては指定できない場合があります。）
- ビデオCD/音楽CDの場合
番号ボタンで入力すると、そのトラックから再生をはじめます。（ダイレクト選曲）



（リモコン）

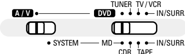


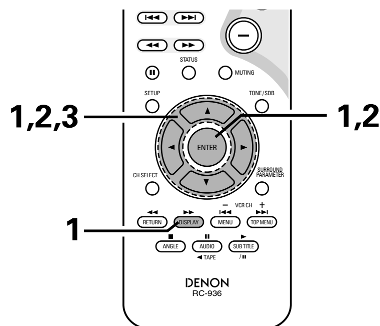
（リモコン）

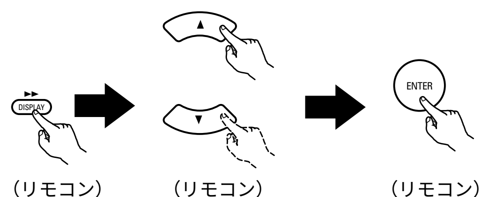
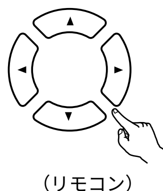
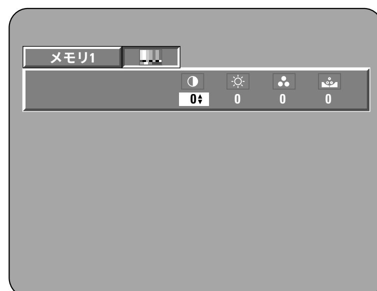
2 画質調整のしかた

★ ディスク再生時の画質を調節することができます。

リモコンモード切り替えスイッチをA/V、DVDにします。





1	**入力ファンクションがDVDでディスク再生中にDISPLAYボタンを押してON-SCREEN画面を表示させ、カーソルボタン（▲,▼）で『画質調整モード』を選び、ENTERボタンを押します。** ● 画質調整画面が表示されます。 ● 停止中にDISPLAYボタンを押しても画質調整画面が表示されます。	 （リモコン）　（リモコン）　（リモコン）
2	**カーソルボタン（◀,▶）で項目を選び、ENTERボタンを押します。** ◎ **標準** 画質、機能とも工場出荷時の標準設定に戻ります。 ◎ **アニメ** 明るく、鮮やかな画質に設定されます。 ◎ **シネマ** しっとりした画質に設定されます。 ◎ **メモリー1～3** 好みで調整した画質設定をメモリー1～3までの3種類記憶させることができます。（操作***3***　で設定します。）	
3	**【画質調整を選択し調整する場合】** **カーソルボタン（◀,▶）で画質調整項目を選択し、カーソルボタン（▲,▼）で調整値を設定します。** ● 調整した内容がすべて記憶されます。 ◎ **コントラスト（−6～+6）<工場出荷時：0>** 映像の明暗の差を調整します。 ◎ **ブライトネス（0～+12）<工場出荷時：0>** 明るく、鮮やかな画質に設定されます。 ◎ **色の濃さ（−6～+6）<工場出荷時：0>** 色の濃さを調整します。 ◎ **色合い（−6～+6）<工場出荷時：0>** 緑色と赤色のバランスを調整します。（プログレッシブスキャン出力では効果ありません。）	 （リモコン） 

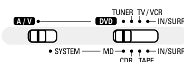
※ 画質調整を終了するときは
DISPLAYボタンを再度押します。

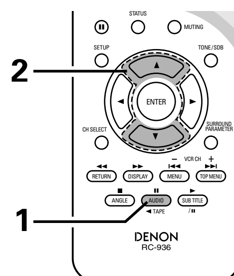
（5）マルチ機能の使いかた

1 音声言語を切り替える（マルチ音声機能）

★ 複数の音声言語が記録されているDVDは、再生中に音声言語を切り替えることができます。

リモコンモード切り替えスイッチをA / V、DVDにします。





1	**再生中にAUDIOボタンを押します。** ● 現在再生中の音声番号が表示されます。	AUDIO （リモコン） 音声 1/3: DOLBY D 3/2/1 日本語
2	**カーソルボタン（▲,▼）でお好みの言語にします。** ● AUDIOボタンを押すと表示が消えます。	（リモコン） 音声 2/3: DOLBY D 3/2.1 英語

ご注意

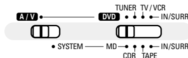
- ディスクによっては再生中に音声言語を切り替えられない場合があります。この場合にはDVDメニューで選んでください。（107ページ参照）
- カーソルボタン（▲,▼）を数回押しても希望の言語が表示されないときは、その言語がディスクに記録されていません。
- 電源投入時およびディスク交換時は、セットアップで設定されている言語になります。

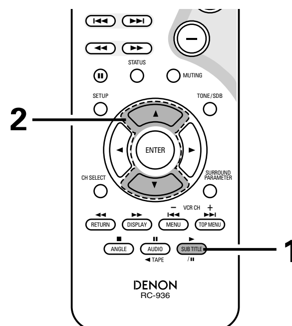
いろいろなディスク再生のしかた（つづき）

2 字幕言語を切り替える（マルチ字幕機能）

★ 複数の字幕言語が記録されているDVDは、再生中に字幕言語を切り替えることができます。

リモコンモード切り替えスイッチをA/V、DVDにします。





1	**再生中にSUBTITLEボタンを押します。**	（リモコン） 字幕言語 01/03/日本語
2	**カーソルボタン（▲,▼）でお好みの言語にします。** ● SUBTITLEボタンを押すと表示が消えます。	（リモコン） 字幕言語 02/03/英語

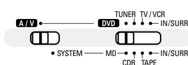
ご注意

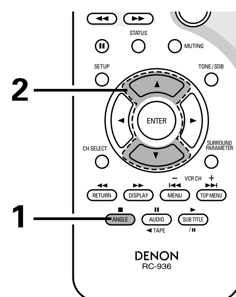
- カーソルボタン（▲,▼）を数回押しても希望の字幕言語が表示されないときは、その言語がディスクに記録されていません。
- 電源投入時およびディスク交換時は、セットアップで設定されている字幕言語になります。
  なお、その言語がディスクにないときはディスクで決められている言語になります。
- 字幕言語を変更してからその言語が表示されるまでに多少時間がかかる場合があります。

3 アングル（角度）を切り替える（マルチアングル機能）

★ 複数のアングルが記録されているDVDは、再生中にアングルを切り替えることができます。
アングルが記録されているディスクを再生すると本体のディスプレイに “ ANGLE ” が点灯します。

リモコンモード切り替えスイッチをA / V、DVDにします。





1	**再生中にANGLEボタンを押します。**	ANGLE（リモコン） 3 / 5
2	**カーソルボタン（▲,▼）でお好みのアングルにします。** ● ANGLEボタンを押すと表示が消えます。	（リモコン） 4 / 5

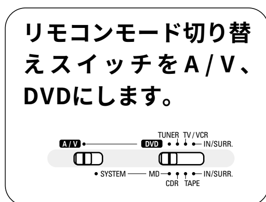
ご注意

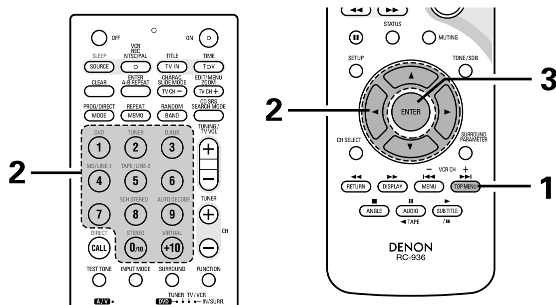
- マルチアングル機能は複数のアングルが記録されているディスクで操作できます。
- 複数のアングルが記録されている場面でアングルを切り替えることができます。

（6）メニューの使いかた

1 トップメニューを使う

★ 複数のタイトルが入っているDVDは、トップメニューからお好みのタイトルを選び再生することができます。



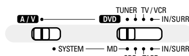


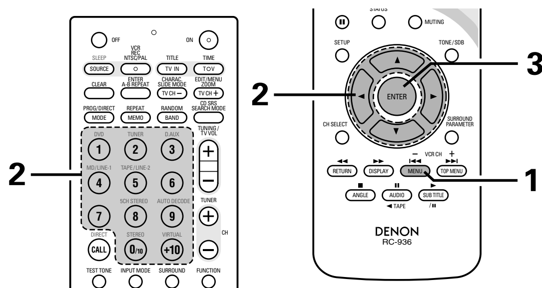
1	**再生中にTOP MENUボタンを押します。** ● トップメニューが表示されます。	【例】 （リモコン） TOP MENU りんご バナナ みかん りんご もも パイナップル
2	**カーソルボタンまたは番号ボタンでお好みのタイトルを選びます。** ● 番号ボタンで選んだとき操作*3* は不要です。	（リモコン） または （リモコン） 【例】『みかん』を選んだ場合 TOP MENU りんご バナナ みかん イチゴ もも パイナップル
3	**ENTERボタンを押します。** ● 再生がはじまります。 ● 再生ボタンを押しても、再生がはじまります。	ENTER （リモコン）

2 DVDメニューを使う

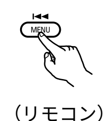
★ DVDによっては、DVDメニューと呼ばれる特別なメニューが用意されているものがあります。
例えば、複雑な内容で編集されたDVDではガイドメニューが用意されていたり、多言語で収録されたDVDでは音声や字幕の言語メニューが用意されていたりします。これらのメニューを『**DVDメニュー**』と呼びます。本書では、DVDメニューの一般的な操作方法を紹介します。

リモコンモード切り替えスイッチをA/V、DVDにします。





1 **再生中にMENUボタンを押します。**
● DVDメニューが表示されます。

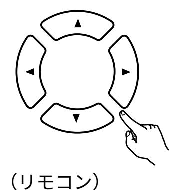


（リモコン）

【例】

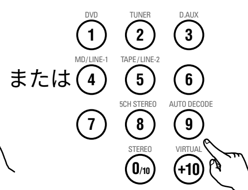


2 **カーソルボタンまたは番号ボタンで項目を選びます。**
● 番号ボタンで選んだとき操作*3* は不要です。



（リモコン）

または

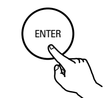


（リモコン）

【例】『音声』を選んだ場合



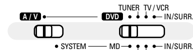
3 **ENTERボタンを押します。**
● 選んだ項目が決定されます。
● 次々とメニューを表示するときは、操作*2* ,*3* をくり返します。

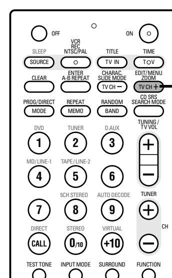


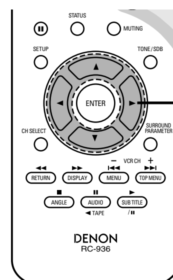
（リモコン）

（7）ズーム再生する

リモコンモード切り替えスイッチをA/V、DVDにします。







1	**再生中または一時停止中にZOOMボタンを押します。** ● ボタンを押すたびに倍率が上がります。 ◎ DVDビデオ/ビデオCDの場合：OFF→×1.5→×2→×4→×OFF	EDIT/MENU ZOOM TV CH + （リモコン）
2	**カーソルボタン（▲,▼,◄,►）を押します。** ● ズーム画面が移動します。	（リモコン）

ご注意

- ディスクによってはズーム再生できないものがあります。
- 場面によってはズームが正しく働かないことがあります。
- トップメニュー、メニュー画面ではズーム再生はできません。
- 拡大すると画質が悪化したり、画像がぶれることがあります。

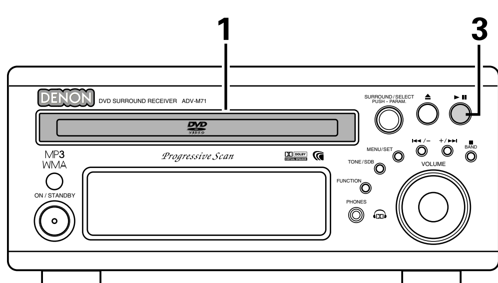
いろいろなディスク再生のしかた（つづき）

（8）静止画ファイル（JPEG方式）を再生する

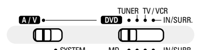
1 CD-R/CD-RWに記録した静止画の再生のしかた

★ あなたが記録したものは個人として楽しむなどのほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。

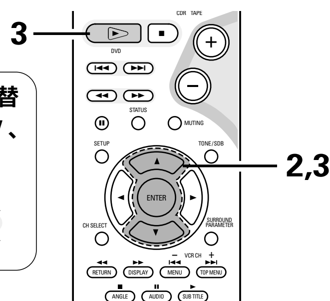
1　3

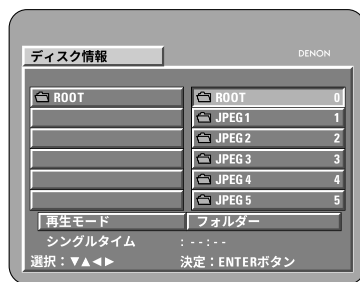
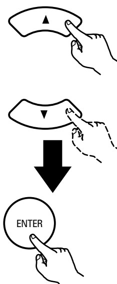
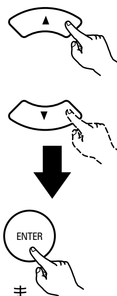
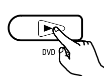
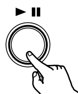


リモコンモード切り替えスイッチをA/V、DVDにします。



3　2,3



1	**静止画を記録したCD-R/RWを本体にセットします。** ● 本体にディスクが装着されるとディスク情報画面が表示されます。 ● 複数のフォルダがある場合は、操作*2*に進みます。 ● ディスクに記録されているフォルダがない場合は操作*3*に進みます。	
2	**リモコンのカーソルボタン（▲,▼）で再生したいフォルダを選択し、リモコンのENTERボタンを押します。** ※ 再生したいフォルダを変えたいときはリモコンのカーソルボタン（▲）で画面右上の“ROOT”表示を選択し、リモコンのENTERボタンを押すとディスク情報が面が表示されますので、もう一度フォルダを選択し直してください。	（リモコン）
3	**リモコンのカーソルボタン（▲,▼）で再生したい静止画ファイルを選択し、リモコンのプレイボタンまたはENTERボタンを押します。** ※ 本体のプレイ/ポーズボタンでも可能です。	または（リモコン）（本体）

次のページにつづきます。

いろいろなディスク再生のしかた（つづき）

※ **再生する静止画を選択したいときは**
停止中にリモコンの**MENUボタン**を押し、静止画を一度に表示させてから**カーソルボタン（◀,▶,▲,▼）**で選択して、**ENTERボタン**を押してください。

※ **再生を一時停止したいときは**
リモコンの**ポーズボタン（❚❚）**を押してください。
再度再生したいときは**プレイボタン（▶）**を押してください。

※ **再生する静止画の頭出しをしたいときは**
再生中に**スキップボタン（I◀◀,▶▶I）**を押してください。

I◀◀ボタン：1つ前の静止画を表示します。
▶▶Iボタン：次の静止画を表示します。

※ **静止画の向きを変えたいときは**
再生中または一時停止中にリモコンの**カーソルボタン（◀,▶,▲,▼）**を押してください。

▲　：再生している静止画を上下反転。
▼　：再生している静止画を左右反転。
◀　：再生している静止画を反時計方向に90°回転
▶　：再生している静止画を時計方向に90°回転。

※ **記録されている静止画を一度に表示したいときは**
停止中にリモコンの**MENUボタン**を押してください。
最大9つの静止画を一度に表示します。

※ **画像をズーム再生したいときは**
再生中にリモコンの**ZOOMボタン**を押し（このとき画面に“ズームオン”が表示されます。）、**サーチボタン（◀◀,▶▶）**を押してください。

◀◀ボタン：画像を縮小します。
▶▶ボタン：画像を拡大します。

また、拡大した場合は**カーソルボタン（◀,▶,▲,▼）**でズーム画面を移動させることができます。
（ズームモードでの連続再生（スライドショー）はできません。）

※ **スライドショーモードを選択したいときは**
リモコンの**SLIDE MODEボタン**を押してください。
JPEG画像を連続再生するときの画像の切り替わりかたを『スライドショーモード1〜11』/『RANDOM』/『NONE（特殊切り替えモードなし）』から選択できます。

音楽ファイルとJPEGの特殊再生について

カーソルボタン（▶）で再生モードを選択し、
カーソルボタン（▲,▼）で特殊再生を選択できます。
カーソルボタン（◀）でカーソルをファイルに戻してからENTERボタンで開始します。

◎ **フォルダー**
選択したファイルから再生をはじめ、そのフォルダー内の音楽ファイルとJPEGファイルを順次再生します。

◎ **フォルダーリピート**
選択したファイルから再生をはじめ、そのフォルダー内のすべての音楽ファイルとJPEGファイルをくり返し再生します。

◎ **ディスク**
選択したファイルから再生をはじめ、ディスク内のすべての音楽ファイルとJPEGファイルを順次再生します。

◎ **ディスクリピート**
選択したファイルから再生をはじめ、ディスク内のすべての音楽ファイルとJPEGファイルをくり返し再生します。

◎ **ランダムオン**
選択したファイルから再生をはじめ、そのフォルダー内のすべての音楽ファイルとJPEGファイルを順不同に再生します。

◎ **トラックリピート**
選択した音楽ファイルまたはJPEGファイルをくり返し再生します。

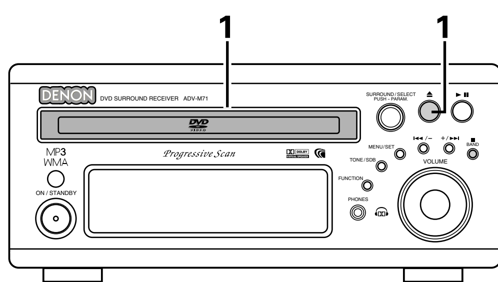
ご注意

- 本機はJPEG形式で記録された画像データに対応していますが、すべてのJPEG形式の画像データの再生を保証するものではありません。
- 解像度が2048×1536pixelまで表示できます。
- JPEGファイルをCD-R/RWに書き込む場合、ライティングソフトのフォーマットは『ISO9660レベル1』でおこなってください。
- 音楽CD（CDA形式）、MP3、WMAおよびJPEG以外のファイルが書き込まれたCD-R/RWは再生しないでください。ファイルの種類によっては誤動作および故障の原因になります。
- ディスク特性、汚れ、傷などによってCD-R/RWが再生できない場合があります。
- JPEGファイルには必ず拡張子『.JPG』または『.JPE』を付けてください。『.JPG』または『.JPE』以外の拡張子を付けた場合や拡張子を付けなかった場合はファイルを再生できません。（マッキントッシュのパソコンで書き込まれたJPEGファイルは再生できません。）
- CD/CD-R/RWのレーベル面や記録面にシールやテープなどを貼らないでください。のりなどがディスク表面に付着すると、本機の内部にディスクが残り、取り出せなくなる恐れがあります。

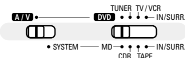
2 ピクチャーCD、フジカラーCDの再生のしかた

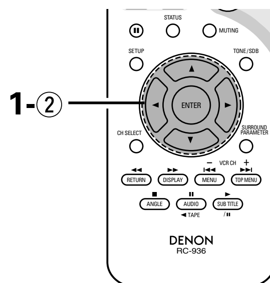
★ 本機はKODAK社が扱っているピクチャーCD、および富士写真フィルム（株）が扱っているFUJICOLOR CDを再生することができます。これらのCDを再生することで、写真の画像をテレビで楽しむことができます。

※ ピクチャーCD、FUJICOLOR CDは従来の銀塩フィルムカメラで撮った写真をデジタルデータに変換してCDに書き込むサービスです。ピクチャーCDに関する詳細は、コダック（株）の現像サービスを取り扱っている店頭にお問い合わせください。
FUJICOLOR CDに関する詳細は、富士写真フィルム（株）の現像サービスを取扱っている店頭にお問い合わせください。



リモコンモード切り替えスイッチをA / V、DVDにします。



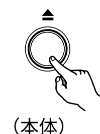


1 **ピクチャーCD、またはFUJICOLOR CDを本体にセットします。**

①ピクチャーCDのとき：本体にディスクが装着されると自動的に静止画の再生をはじめます。

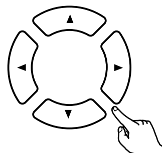
②FUJICOLOR CDのとき：本体にディスクが装着されると自動的に最大9つの画面を一度に表示します。再生する静止画をリモコンのカーソルボタン（◀,▶,▲,▼）で選択して、ENTERボタンを押して再生をはじめます。

※ 再生を止める場合はストップボタンを押します。

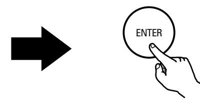


（本体）

FUJICOLOR CDのとき



（リモコン）



（リモコン）

※ **再生する静止画を選択したいときは**
停止中にリモコンの**カーソルボタン（◀,▶,▲,▼）**で選択して、**ENTERボタン**を押してください。

※ **再生を一時停止したいときは**
リモコンの**ポーズボタン（❚❚）**を押してください。
再度再生したいときは**プレイボタン（▶）**を押してください。

※ **再生する静止画の頭出しをしたいときは**
再生中に**スキップボタン（❙◀◀,▶▶❙）**を押してください。
❙◀◀ボタン：1つ前の静止画を表示します。
▶▶❙ボタン：次の静止画を表示します。

※ **静止画の向きを変えたいときは**
再生中または一時停止中にリモコンの**カーソルボタン（◀,▶,▲,▼）**を押してください。
▲ ：再生している静止画を上下反転します。
▼ ：再生している静止画を左右反転します。
◀ ：再生している静止画を反時計方向に90°回転します。
▶ ：再生している静止画を時計方向に90°回転します。

※ **記録されている静止画を一度に表示したいときは**
停止中は最大9つの静止画を一度に表示します。

※ **画像をズーム再生したいときは**
再生中にリモコンの**ZOOMボタン**を押し（このとき画面に“ズームオン”が表示されます。）、**サーチボタン（◀◀,▶▶）**を押してください。
◀◀ボタン：画像を縮小します。
▶▶ボタン：画像を拡大します。
また、拡大した場合は**カーソルボタン（◀,▶,▲,▼）**でズーム画面を移動させることができます。
（ズームモードでの連続再生（スライドショー）はできません。）

※ **スライドショーモードを選択したいときは**
リモコンの**SLIDE MODEボタン**を押してください。
JPEG画像を連続再生するときの画像の切り替わりかたを『スライドショーモード1〜11』/『RANDOM』/『NONE（特殊切り替えモードなし）』から選択できます。

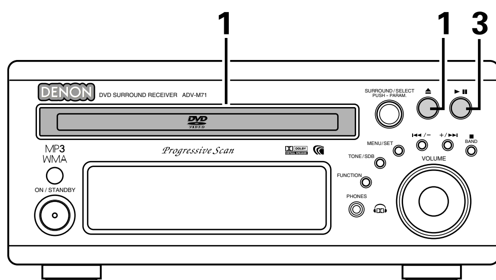
（9）音楽ファイルを再生する

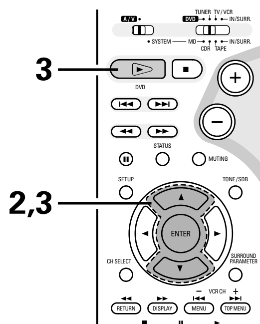
1 MP3のCD/CD-R/CD-RWを聴くには

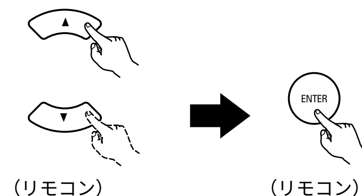
★ インターネットのホームページ上には、MP3形式の音楽ファイルをダウンロードできる様々な音楽配信サイトがあります。そのサイトの指示に従って音楽をダウンロードし、CD-R/RWに書き込めば、本機で再生することができます。
市販の音楽CDに収録された音楽を、パソコン上でMP3エンコーダ（変換ソフト）によりMP3ファイルに変換すれば、12cm CD1枚が約10分の1のデータ量になります。これをCD-R/RWに書き込めば約10枚分の音楽CDがたった1枚のCD-R/RWにMP3ファイルとして書き込むことができます。約100曲以上*の音楽が1枚のCD-R/RWで楽しめます。

＊ 約5分の曲を標準的なビットレート128kbpsでMP3ファイルに変換し、容量650MBのCD-R/RWに書き込んだ場合のおよその値です。

＊ あなたが録音したものは個人として楽しむなどのほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。





1	**MP3形式の音楽ファイルを書き込んだCD-R/RWを本体にセットします。**（28ページの「ディスクの入れかた」を参照してください。） ● 本体にディスクが装着されるとディスク情報画面が表示されます。 ● 複数のフォルダがある場合は、操作***2*** に進みます。 ● ディスクに記録されているフォルダがない場合（MP3ファイルのみ）は、操作***3*** に進みます。	
2	**リモコンのカーソルボタン（▲,▼）で再生したいフォルダを選択し、リモコンのENTERボタンを押します。** ※ **再生したいフォルダを変えたいときは** リモコンの**カーソルボタン（▲）**で画面右上の“ ROOT ” 表示を選択し、 リモコンの**ENTERボタン**を押すとディスク情報画面が表示されますので、もう一度フォルダを選択し直してください。	（リモコン）　（リモコン） 

（次のページに続きます）

3 リモコンのカーソルボタン（▲,▼）で再生したいMP3ファイルを選択し、リモコンのプレイボタンまたはENTERボタンを押します。

- 再生をはじめます。

※ リモコンの**DISPLAYボタン**を押すと、1曲経過時間（シングルタイム）と1曲残り時間（シングルリメイン）ファイル名（トラック名）を切り替え表示することができます。

※ **MP3のディスクではプログラム再生ができません。**

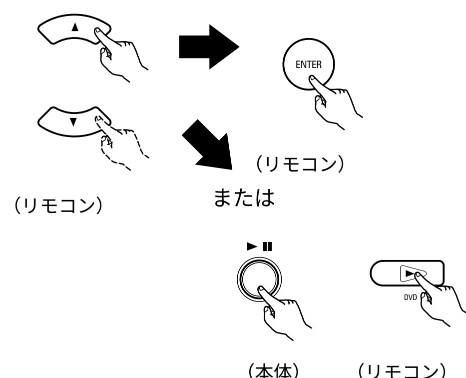
※ **再生したいMP3ファイルを変えたいときは**
STOPボタンを押してから、リモコンの**カーソルボタン（▲,▼）**でもう一度選択し直してください。

※ **ランダム再生するには**
停止中にリモコンの**RANDOMボタン**を押してから、**プレイボタン**またはリモコンの**ENTERボタン**を押します。

※ **リピート再生するには**
リモコンの**REPEATボタン**を押します。押すたびにリピートモードが変わります。

→ ノーマル → シングルリピート → フォルダリピート →

※ **初期のディスク情報画面に戻すときは**
ストップボタンを押して再生を止め、リモコンの**カーソルボタン（▲）**で画面右上の“ ROOT ”表示を選択し、リモコンの**ENTERボタン**を押します。（操作*1* のディスク情報画面に戻ります。）



（本体）　（リモコン）



ご注意

- 本機で対応している規格は『MPEG-1 Audio Layer-3』（サンプリング周波数fsは32、44.1、48kHz）です。それ以外の『MPEG-2 Audio Layer-3』、『MPEG-2.5 Audio Layer-3』およびMP1、MP2などには対応していません。
- MP3のディスクではプログラム再生ができません。
- MP3を再生したときのデジタル出力は、初期設定の音声設定が『ノーマル』『PCM変換』に関わらずMP3をPCMに変換して出力します。
また、記録されている音楽ソースのサンプリング周波数で出力します。
- MP3ファイルの再生順序は、CD-R/RW書き込み時にライティングソフトがフォルダ位置、ファイル位置を並び替える可能性があるため任意の再生順序とは異なる場合があります。
- MP3ファイルをCD-R/RWに書き込む場合、ライティングソフトのフォーマットは『ISO9660レベル1』を選択してください。他のフォーマットで記録された場合、正常に再生できないことがあります。ライティングソフトによっては『ISO9660』フォーマットで記録できないものがあります。『ISO9660』フォーマットのライティングソフトをご使用ください。
- 音楽CD（CDA形式）、MP3およびJPEG以外のファイルが書き込まれたCD-R/RWは再生しないでください。ファイルの種類によっては誤動作および故障の原因になります。
- ディスク特性、汚れ、傷などによってCD-R/RWが再生できない場合があります。
- 一般にMP3ファイルはビットレートが高いほど音質が良くなります。本機では128kbps以上のビットレートで記録されたMP3のご使用をおすすめします。
- 本機はフォルダネームとファイルネームをタイトルのように表示することが可能です。半角の英数大文字と__（アンダースコア）を8文字まで表示できます。また、漢字・ひらがな・カタカナ・その他の記号で記録されたフォルダネームとファイルネームは表示されません。
- MP3ファイルには必ず拡張子『.MP3』を付けてください。『.MP3』以外の拡張子を付けた場合や拡張子を付けなかった場合はファイルを再生できません。
（マッキントッシュのパソコンの場合、半角英数大文字8文字以内のファイルネームの最後に拡張子『.MP3』を付けてCD-R/RWに記録することにより、MP3ファイルの再生が可能です。）
- CD/CD-R/RWのレーベル面や記録面にシールやテープなどを貼らないでください。のりなどがディスク表面に付着すると、本機の内部にディスクが残り、取り出せなくなる恐れがあります。
- パケットライトソフトには対応していません。
- ID3-Tagには対応していません。
- プレイリストには対応していません。

いろいろなディスク再生のしかた（つづき）

2 WMAのCD-R/CD-RWを聴くには

★ 本機はWMA（Windows Media Audio）※形式の音声圧縮フォーマットで記録されたCD-R/RWの音楽ファイルの再生ができます。



Windows Media、Windowsロゴは米国、その他の国で、米国Microsoft Corporation の登録商標または商標になっています。

※WMA（Windows Media Audio）：米国マイクロソフト社の新しいオーディオコーデックです。

＊ あなたが録音したものは個人として楽しむなどのほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。

★ 再生のしかたは79、80ページ『1 **MP3のCD/CD-R/CD-RWを聴くには**』と同様です。

● ディスク情報画面のファイル表示で、WMAファイルは『MP3』アイコンの代わりに『WMA』アイコンが表示されます。（『WMA』アイコンが表示されないファイルは再生できません。飛ばして次のアイコンのあるファイルを再生します。）

ご注意

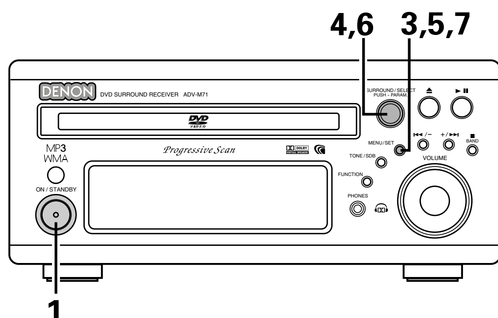
- サンプリング周波数fsは32、44.1、48kHzで記録されたファイルに対応しています。
- WMAのディスクでは、プログラム再生ができません。
- WMAファイルを再生した時のデジタル出力は、初期設定にかかわらず、PCMに変換して出力しています。
- ISO9660レベル1/レベル2のCD-ROMファイルシステムに準拠して記録されたディスクを使用してください。（拡張フォーマットは除く。）
- 著作権保護されたファイルは再生できません。また、書き込みソフトや状態により再生できない場合や正しく表示されない場合があります。
- ディスク特性、汚れ、傷などによってCD-R/RWが再生できない場合があります。
- 『.wma』または『.WMA』の拡張子が付いたWMAファイルでビットレート64k～160kbpsに対応しています。
- 本機はフォルダーネームとファイルネームを画面に表示することができます。半角英数大文字と記号（＿アンダースコアなど）で11文字まで表示します。また漢字・ひらがな・カタカナなどは表示できません。
- 停止中、リモコンのDISPLAYボタンでタイトル名、アーティスト名を切り替えて表示することができます。（1フォルダーあたり99ファイルまで）
- 1フォルダーあたり99ファイル以内で記録されたディスクをおすすめします。複数のフォルダー構成が可能ですが、構成によりすべてのフォルダー、ファイルが認識、再生できない場合があります。
- マルチセッションディスクやファイナライズしていないCD-R/RWも再生可能ですが、10セッション以内でセッションクローズ、またはファイナライズしたディスクを再生することをおすすめします。
- リモコンテンキー（0～9、+10）でのダイレクト選曲は1フォルダー当り、179Tr（179ファイル）まで指定可能です。179Trを超える場合は停止中に、ディスク情報画面でカーソルボタンでファイルを選択して、プレイボタンまたはENTERボタンで再生します。

22 タイマーの使いかた

★セットアップをおこなうことにより、タイマーやシステム動作をおこなうことができるようになります。

（1）時刻の合わせかた（24時間表示）

【例】現在時刻を『19時30分（午後7時30分）』に合わせるとき



1 **電源を入れます。**

ON / STANDBY
（本体）

2 **メニュー/セットボタンを押して、“ Time ” を表示させます。**

MENU/SET
Time 00:00
（本体）

- 時刻設定がされていないときや停電があったときは、時計表示が点滅します。
- 時刻設定済みの場合は現在時刻が表示されます。

3 **メニュー/セットボタンを2秒以上押します。**

- 時表示が点滅します。

MENU/SET
Adj 0:00
（本体）

4 **サラウンド/セレクトつまみを回して『時』を合わせます。**

SURROUND / SELECT
PUSH - PARAM.
Adj 19:00
（本体）

5 **メニュー/セットボタンを押します。**

MENU/SET
Adj 19:00
（本体）

6 **サラウンド/セレクトつまみを回して『分』を合わせます。**

SURROUND / SELECT
PUSH - PARAM.
Adj 19:30
（本体）

7 **時報などに合わせて、メニュー/セットボタンを押します。**

- 分の桁の“ 30 ”が点灯し、現在時刻を表示します。

MENU/SET
Time 19:30
（本体）

※ **通常表示から現在時刻を確認するとき**はメニュー/セットボタンを1回押してください。時刻は他の操作がおこなわれるまで継続して表示されます。
※ 電源スタンバイ時にもメニュー/セットボタンを押すと、時刻表示ができます。（省エネスタンバイ状態ではなくなります。）時刻表示中に2回押すと表示が消えて、省エネスタンバイ状態に戻ります。
※ 電源スタンバイ時でもメニュー/セットボタンを押し、時刻表示にしてから操作***3***〜***7***をおこなうと現在時刻を合わせることができます。
※ 時計は電源周波数同期方式です。月におよそ2〜3分程度のズレを生じることがあります。このようなときは時刻を合わせ直してください。

タイマー予約の前に

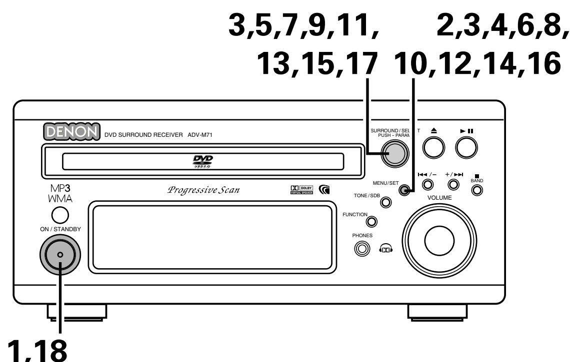
★必ず現在時刻を設定してください。現在時刻が設定されていない場合、タイマースタンバイ表示“ ◷ ”は点灯せず、タイマー動作はおこなわれません。
★タイマー予約をおこなう前に、必ず放送をプリセットしておいてください。（35ページ参照）
★エブリディタイマー ：毎日1回同じ時刻に電源のON/STANDBY（OFF）ができます。
　ワンスタイマー ：1回のみ指定した時刻に電源をON/STANDBY（OFF）できます。
　スリープタイマー ：電源が切れる時間を120分、90分および10分間隔で最大60分まで予約できます。
★エブリディタイマー、ワンスタイマー、スリープタイマーの設定時刻範囲が重なっている場合は、スリープタイマーが優先され、エブリディタイマーとワンスタイマーの場合はワンスタイマーが優先されます。
★タイマーの開始時刻と終了時刻を同じ時間に設定することはできません。

タイマーの使いかた（つづき）

(2) エブリディタイマー/ワンスタイマーの予約のしかた

★タイマー予約をおこなう前に、必ず現在時刻を設定してください。（82ページ参照）
★エブリディタイマーは毎日1回同じ時刻に電源のON/STANDBY（OFF）ができます。
　ワンスタイマーは指定した時刻に1回だけ電源のON/STANDBY（OFF）ができます。
★本機では、チューナー、DVD（CD）のタイマー再生をおこなうことができます。
★DVD（CD）、TAPE、TUNER、MD、AUXのいずれかのタイマー再生やTUNERまたはAUXからMDレコーダーまたはカセットデッキへのタイマー録音をおこなうことができます。
※DVDは、ディスクによりタイマー再生できません。（メニュー画面で停止するものがほとんどです。）

【例1】エブリディタイマーでプリセット番号『3』（FM 82.5MHz）を12時35分から12時56分まで聞くとき



1 **電源を入れます。**

ON / STANDBY
（本体）

2 **メニュー/セットボタンを押していき、"TIMER"を表示させます。**

MENU/SET
TIMER
（本体）

3 **サラウンド/セレクトつまみを回して"EVERYDAY"を表示させ、メニュー/セットボタンを押します。**

SURROUND / SELECT PUSH - PARAM.
EVERYDAY
（本体）

※サラウンド/セレクトつまみを回すたびに表示が次のように切り替わります。

ONCE ↔ EVERYDAY

MENU/SET
（本体）

4 **メニュー/セットボタンを押します。**

E FUNC
MENU/SET
（本体）

5 **サラウンド/セレクトつまみを回して、ファンクションを『TUNER』にします。**

E TUNER
SURROUND / SELECT PUSH - PARAM.
（本体）

※サラウンドボタンを押すたびにファンクションが次のように切り替わります。
　＊印はLINE1およびLINE2に設定したファンクションによって替わります。（104ページ参照）

DVD ⇄ TUNER ⇄ *(LINE1)
*AUX ＞ (LINE1または2)　*(LINE2)
*TU ＞ (LINE2) ⇄ *TU ＞ (LINE1)

→ は、右に回した場合
← は、左に回した場合

6 **メニュー/セットボタンを押します。**

MENU/SET
（本体）

7 **サラウンド/セレクトつまみを回して、プリセット番号『P03』を選択します。**

P03 FM 82.50M
SURROUND / SELECT PUSH - PARAM.
（本体）

8 **メニュー/セットボタンを押します。**

- 選局内容がメモリーされ、タイマーの開始時刻設定状態になります。
- "E"と"on"が点灯します。

MENU/SET
E on 0:00
（本体）

9 **《タイマーの開始時刻の設定》**
サラウンド/セレクトつまみを回して、時の桁を『12』に設定します。

E on 12:00
SURROUND / SELECT PUSH - PARAM.
（本体）

タイマーの使いかた（つづき）

10 **メニュー/セットボタンを押します。**
- 時の桁『12』がメモリーされます。

E on 12:00

MENU/SET

（本体）

11 **サラウンド/セレクトつまみを回して、分の桁を『35』に設定します。**

E on 12:35

SURROUND / SELECT PUSH - PARAM.

（本体）

12 **メニュー/セットボタンを押します。**
- 開始時刻がメモリーされ、タイマーの終了時刻設定状態になります。
- " E " と " off " が点灯します。

E off 0:00

MENU/SET

（本体）

13 **《タイマーの終了時刻の設定》**

サラウンド/セレクトつまみを回して、時の桁を『12』に設定します。

E off 12:00

SURROUND / SELECT PUSH - PARAM.

（本体）

14 **メニュー/セットボタンを押します。**
- 時の桁『12』がメモリーされます。

E off 12:00

MENU/SET

（本体）

15 **サラウンド/セレクトつまみを回して、分の桁を『56』に設定します。**

E off 12:56

SURROUND / SELECT PUSH - PARAM.

（本体）

16 **メニュー/セットボタンを押します。**
- 終了時刻がメモリーされます。

MENU/SET

（本体）

17 **サラウンド/セレクトつまみを回して、" Eon " を表示させます。**
- エブリディタイマーをONにしてタイマースタンバイ表示 " ◷ " が点灯し、タイマー予約が完了します。
  詳しくは、86ページの『エブリディタイマー/ワンスタイマーのON/OFFについて』をご覧ください。

SURROUND / SELECT PUSH - PARAM.

（本体）

1 off/E on

18 **電源を切ります。**
- スタンバイ状態になります。
  （電源インジケーターがオレンジ色になります。）
- タイマー開始時刻になると、タイマーが動作します。

ON / STANDBY

（本体）

※ **タイマー設定中に設定を間違えたとき**は、
- 操作***4***〜***15*** の間にストップボタンを押します。（ディスプレイは操作***3*** の状態に戻ります。）
- メニュー/セットボタンをくり返し押して、修正する項目を表示させ、正しく設定し直します。
- 設定を修正し終えたら再びメニュー/セットボタンをくり返し押して、操作***18*** まで進み、予約を完了させてください。

■ BAND

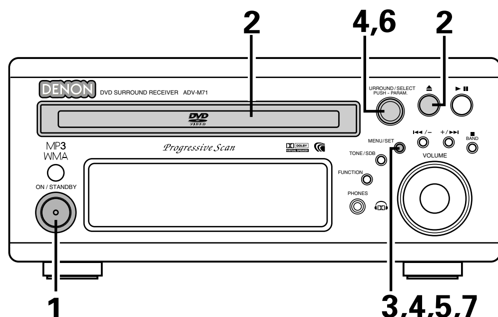
（本体）

ご注意

タイマースタンバイ表示 " ◷ " は、現在時刻が設定されていない場合は点灯しません。現在時刻を設定してからおこなってください。(82ページ参照)

タイマーの使いかた（つづき）

【例2】CDをワンスタイマーで聞くとき



1 **電源を入れます。**

ON / STANDBY
（本体）

2 **ディスクホルダーを開けてCDを載せ、ディスクホルダーを閉めます。**

（本体）

3 **メニュー/セットボタンを押していき、“ TIMER ”を表示させます。**

MENU/SET

TIMER

（本体）

4 **サラウンド/セレクトつまみを回しで“ ONCE ”を表示させ、メニュー/セットボタンを押します。**

ONCE

SURROUND / SELECT PUSH – PARAM.

（本体）

※ サラウンド/セレクトつまみを回すたびに表示が次のように切り替わります。

ONCE ↔ EVERYDAY

MENU/SET

（本体）

5 **メニュー/セットボタンを押します。**

- ワンスタイマーのタイマー予約モードになります。
- “ I ”（ワンス）が点灯します。

1 FUNC

MENU/SET

（本体）

6 **サラウンド/セレクトつまみを回して、ファンクションを『DVD』にします。**

1 DVD

SURROUND / SELECT PUSH – PARAM.

（本体）

7 **メニュー/セットボタンを押します。**

- タイマーのファンクション『DVD』がメモリーされます。

MENU/SET

（本体）

8 **以下の操作は、『エブリディタイマーの予約のしかた』（83、84ページ）の操作*9*～*18*をおこなってください。**

- 開始時刻の設定中は、“ I ”と“ on ”が点灯します。終了時刻の設定中は、“ I ”と“ off ”が点灯します。
- 操作*17*でワンスタイマーをONにします。

★本機をD-M31シリーズのMDレコーダー（DMD-M31）またはカセットデッキ（DRR-M31）とシステム接続すると、タイマー再生やタイマー録音をおこなうことができます。（エブリディ/ワンスタイマー共に使用できます。）

- カセットデッキのタイマー再生（LINE2にTAPEを設定したとき）
- MDレコーダーのタイマー再生（LINE1またはLINE2にMDを設定したとき）
- AUX入力のタイマー再生（LINE1またはLINE2にAUXを設定したとき）
- 本機のラジオ放送からカセットデッキへのタイマー録音（LINE2にTAPEを設定したとき）
- 本機のラジオ放送からMDレコーダーへのタイマー録音（LINE1にMDを設定したとき）
- AUX入力の接続機器からカセットデッキへのタイマー録音（LINE1にAUXを、LINE2にTAPEを設定したとき）
- AUX入力の接続機器からMDレコーダーへのタイマー録音（LINE1とLINE2にAUXとMDを設定したとき）

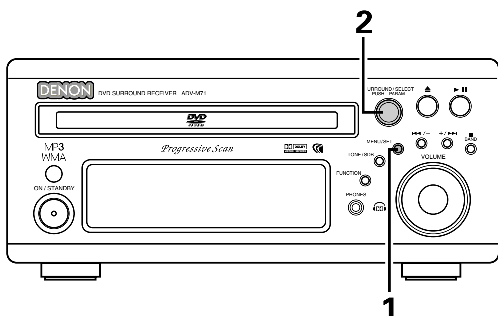
※ AUX接続機器へのタイマー録音はできません。LINE1とLINE2に設定したファンクションによって、タイマーファンクションの内容は自動的に変わります。

ご注意

AUX入力接続機器のタイマー録音/再生の場合、入力接続機器の電源や再生のコントロールはできませんので、ご使用の入力機器の状況に合わせて設定してください。

(3) エブリディタイマー/ワンスタイマーのON/OFFについて

★『(2) エブリディタイマー/ワンスタイマーの予約のしかた』（83〜85ページ）で予約を完了した後、エブリディタイマー/ワンスタイマーをONにしてタイマー動作をおこないます。



1 **メニュー/セットボタンを押して、タイマースタンバイ設定モードにします。**

- 現在の設定内容が表示されます。




```
1 on/E on
```

（本体）

2 **サラウンド/セレクトつまみを回して、タイマー動作をおこなうタイマーを選択します。**

- 回すたびに次のように設定が変わります。



（本体）

1 on/E on	ワンスタイマーとエブリディタイマーでの両方が動作。
1 off/E on	エブリディタイマーのみ動作。
1 on/E off	ワンスタイマーのみ動作。
1 off/E off	ワンスタイマーとエブリディタイマーの両方とも動作しない。

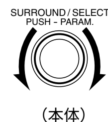
- ワンスタイマーとエブリディタイマーのどちらかが有効のとき、タイマースタンバイ表示 “ ◷ ” が点灯します。この表示は約4秒後、自動的に元の表示に戻ります。

※ サラウンド/セレクトつまみを回してタイマースタンバイ表示 “ ◷ ” を点灯させると、タイマー動作をおこないます。
※ **タイマー動作をおこなわないとき**は、サラウンド/セレクトつまみを回して、タイマースタンバイ表示 “ ◷ ” を消灯させてください。



（本体）

- ワンスタイマーのみ予約した場合、サラウンド/セレクトつまみを回すたびに次のように設定が変わります。



（本体）

1on/E off ↔ 1off/E off

- エブリディタイマーのみ予約した場合、次のように設定が変わります。

1off/E on ↔ 1off/E off

ご注意

- タイマースタンバイ表示 “ ◷ ” は、現在時刻が設定されていない場合は点灯しません。現在時刻を設定してください。（82ページ参照）
- エブリディタイマー、ワンスタイマーの設定時刻が重なったときはワンスタイマーが優先されます。
- タイマー動作をさせるときは、必ず電源をスタンバイ状態にしておいてください。

タイマーの使いかた（つづき）

(4) エブリディタイマーとワンスタイマーの優先順位について

★エブリディタイマー/ワンスタイマーの予約設定時刻範囲が重なったときは、ワンスタイマーが優先されます。

(5) エブリディタイマー/ワンスタイマーについて

■タイマー予約の内容を確認するとき

- タイマー予約の動作と同じ方法で確認できます。
  ① メニュー/セットボタン（MENU/SET）を押して、“ TIMER ” を表示させます。
  ② サラウンド/セレクトつまみを回して、“ EVERYDAY ” または “ ONCE ” を表示させます。
  ③ メニュー/セットボタン（MENU/SET）を押すたびに、設定したファンクション、開始時刻、終了時刻、タイマースタンバイ設定の順に表示されます。
  ④ タイマースタンバイ設定表示で4秒後、エブリディタイマー、ワンスタイマー設定前の状態に戻ります。

■タイマー予約の内容を変更するとき

- 変更したい内容でタイマー予約の操作を最初からおこなってください。
  以前に予約された内容が消えて、新しく予約された内容になります。
- タイマー予約の途中で変更する場合は、ストップボタン（■）を押すと “ EVERYDAY ” または “ ONCE ” 表示まで戻りますので、再度入力操作をおこなってください。

■タイマー予約の内容を消去するとき

① メニュー/セットボタン（MENU/SET）を押して、“ TIMER ” を表示させます。
② サラウンド/セレクトつまみを回して、内容を消去したい “ EVERYDAY ” または “ ONCE ” を表示させます。
③“ EVERYDAY ” または “ ONCE ” 表示中にストップボタン（■）を約2秒以上押すと、そのタイマー予約の内容が消去されます。

■タイマー予約を止めるとき（タイマー動作をおこなわないとき）

- 『(3) エブリディタイマー/ワンスタイマーのON/OFFについて』（86ページ）に従って操作し、ワンスタイマーとエブリディタイマーの両方とも動作しないモード（Ioff / Eoff）に設定を変えてください。

■停電になったとき

- 停電になったときや電源コードをコンセントから抜いた後、再び電源が入ると時計表示にしたとき、時計表示が点滅します。もう一度現在時刻を合わせてください。
- ワンスタイマーの予約の内容は消去されます。もう一度タイマー予約をおこなってください。
- エブリディタイマー内容およびチューナーのプリセット内容が消えていた場合は、もう一度プリセットしてください。

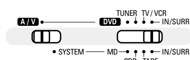
タイマーの使いかた（つづき）

（6）スリープタイマーの予約のしかた（リモコンのみ）

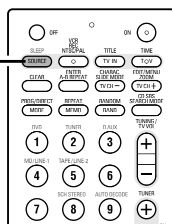
★付属のリモコンを使用して、電源をスタンバイ状態にする時間を最大120分まで設定できます。
（スリープタイマー）
★設定した時間（分）後に、自動的に電源をスタンバイ状態にすることができます。

【例】50分後に電源をスタンバイになるように設定するとき

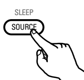
リモコンモード切り替えスイッチをA/V、またはSYSTEM、IN/SURR.にします。

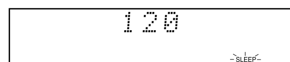


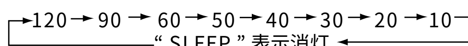
2,3



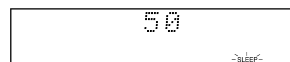
1	**お好みのファンクションを選び、再生します。**
2	**SLEEPボタンを押します。** ●“ 120 ” が表示され、“ SLEEP ” 表示が点滅します。 (リモコン) ※SLEEPボタンを押すたびに、表示が次のように切り替わります。 →120→90→60→50→40→30→20→10→“ SLEEP ” 表示消灯
3	**“ SLEEP ” 表示が点滅している間に、さらにSLEEPボタンを押し “ 50 ” を表示させます。** ●“ 50 ” が表示され、“ SLEEP ” 表示が点滅します。 (リモコン) ● 約5秒後、スリープタイマー設定前の状態に戻り、“ SLEEP ” 表示が点灯します。（これでスリープタイマーの設定が完了します。）
4	**50分後に電源がスタンバイになります。**



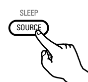




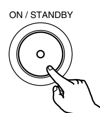




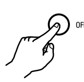
※**スリープタイマーを止めるとき**は、“ SLEEP ” 表示が消灯するまでスリープボタンをくり返し押してください。
また、本機またはリモコンの電源ボタンを押して、システム全体の電源をスタンバイにしたときもスリープタイマーを止めることができます。



（リモコン）



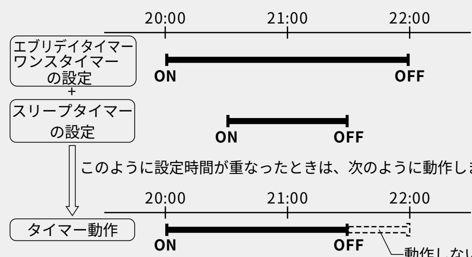
（本体）



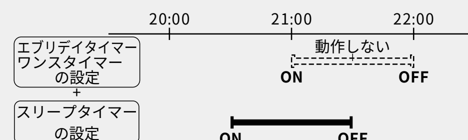
（リモコン）

ご注意

- スリープタイマー動作中にSLEEPボタンを押すと、設定時間が120に戻ります。もう一度設定してください。
- スリープタイマー、エブリディタイマー、ワンスタイマーの設定時刻範囲が重なったときは、スリープタイマーが優先されます。



- また、スリープタイマーの動作時間内にエブリディタイマー、ワンスタイマーの開始時刻を設定してもエブリディタイマー、ワンスタイマーは動作しません。

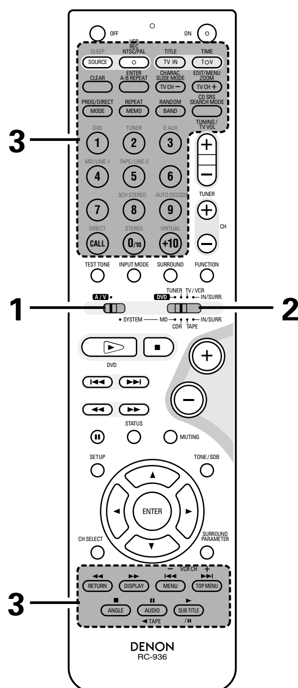


23 リモコンによる他機器の操作のしかた

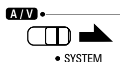
★ 付属のリモコン（RC-936）は本機の操作だけでなく、D-M31シリーズのシステム動作の操作やDENON製リモコン対応の機器を操作することができます。また、主要メーカーのテレビ、ビデオデッキのリモコンのコントロール信号を記憶しており操作することができます。

（1）DENON製オーディオ機器の操作のしかた

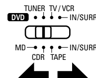
★ 操作する前に各機器の電源を入れてください。
★ お手持ちの機器の形式、年式によって操作できないボタンもあります。



1 **モードスイッチ1を『SYSTEM』の位置にします。（青色印刷）**



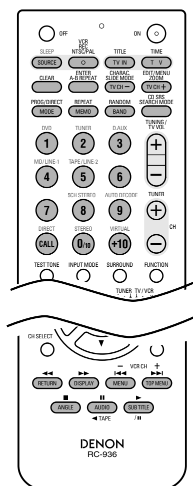
2 **モードスイッチ2を操作したい機器（MD、CDRまたはTAPE）の位置にします。（青色印刷）**



3 **オーディオ機器を操作します。**
● 詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。
※ 機種によっては操作できないものがあります。

3 つづき

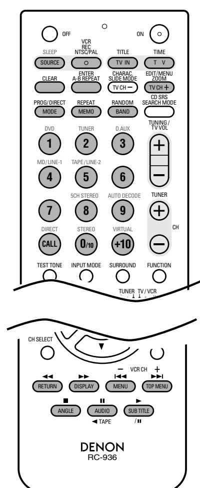
1.MDレコーダーのシステムボタン（モードスイッチ2を『MD』で操作）



TIME	:ディスク時間表示
TITLE	:ネーム表示
REC	:録音（DMD-M31ではマルチ録音機能）
SOURCE	:MDの電源ON/OFF
EDIT/MENU	:各種エディット切り替え
CHARAC	:ネーム入力時の文字種切り替え
ENTER	:各種エディットの確定
CD SRS	:CDシンクロ録音（DMD-M31のシステム機能）
CLEAR	:プログラムのクリアー
RANDOM	:ランダム再生のON/OFF
REPEAT	:リピート再生の設定
PROG/DIRECT	:プログラム、ダイレクト再生の切り替え
CALL	:プログラムのコール
1〜10,+10	:選曲テンキー
⏮,⏭	:オートサーチ（頭出し）
◀◀,▶▶	:マニュアルサーチ（早戻し、早送り）
▶（/II）	:再生（DMD-M31では再生/一時停止とオートパワーオン、オートファンクション機能）
II	:一時停止
■	:停止

3 つづき

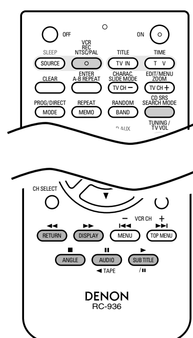
2.CDレコーダーのシステムボタン（モードスイッチ2を『CDR』で操作）



TIME	:ディスク時間表示
TITLE	:ネーム表示、ネーム入力時の文字種切り替え
REC	:録音
SOURCE	:CDレコーダーの電源ON/OFF
EDIT/MENU	:各種メニュー切り替え
ENTER	:各種メニューの確定
CLEAR	:プログラムのクリアー
RANDOM	:ランダム再生のON/OFF
REPEAT	:リピート再生の設定
PROG/DIRECT	:プログラム、ダイレクト再生の切り替え
CALL	:プログラムのコール
1～10,+10	:選曲テンキー
I◀◀,▶▶I	:オートサーチ（頭出し）
◀◀,▶▶	:マニュアルサーチ（早戻し、早送り）
▶（/II）	:再生（CDR-M30では再生/一時停止とオートパワーオン、オートファンクション機能）
II	:一時停止
■	:停止

3 つづき

3.テープデッキのシステムボタン（モードスイッチ2を『TAPE』で操作）

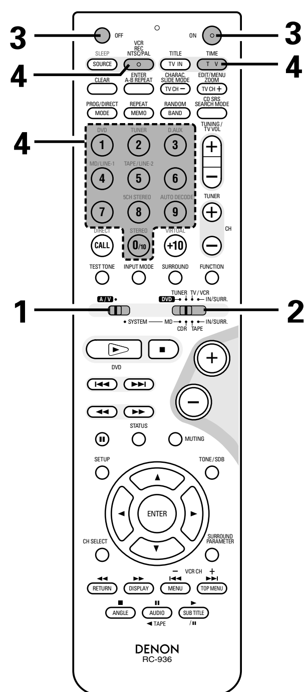


REC	:録音
CD SRS	:CDシンクロ録音（DRR-M31のシステム機能）
◀◀,▶▶	:早戻し、早送り
▶	:正方向再生
◀TAPE	:逆方向再生（◀,▶はDRR-M31ではオートパワーオン、オートファンクション機能）

リモコンによる他機器の操作のしかた（つづき）

(2) テレビ、ビデオデッキのプリセットメモリーについて

★ お手持ちの機器のメーカーをプリセットメモリーすることにより、付属のリモコンで各社の機器を操作することができます。なお、**機種によっては操作できないものや正常に動作しないボタンがあります。**



■ 工場出荷時には設定されていません。

メーカー別設定コード代表例

	テレビ	ビデオ
日立	031	023
三菱	039	014
NEC	038	006
パナソニック	141	107
パイオニア	128	038
三洋	021	033
シャープ	012	002
ソニー	150	121
東芝	008	059
ビクター	019	046

上記コードで操作できない場合は、該当するメーカーのリモコンコード表（92～95ページ）を参照してメモリーしてください。
機種により設定コードが異なる場合もあります。

1 モードスイッチ1を『A/V』の位置にします。

2 **モードスイッチ2を『TV/VCR』の位置にします。**

3 **電源ON/SOURCEボタンとOFFボタンを同時に押します。**
● 送信表示LED（インジケーター）が点滅します。

4 **テレビをプリセットする場合はTVボタンをビデオデッキをプリセットする場合はVCRボタンを押した後に、リモコンコード表（92～95ページ）を参照して、メモリーする機器のメーカーに対応する数字（3桁）を入力します。**

ご注意

- プリセットメモリー中でも押したボタンの信号は送信されますので、メモリー中は誤動作防止のためリモコン受光部を覆ってください。
- リモコンコード表中のメーカー製品であっても形式・年式によっては使用できないものがあります。
- メーカーによってはリモコンコードを数種類持っています。動作しない場合は設定を変えて確認してください。

【各メーカーのプリセットコードの組み合わせ】

TV

Admiral	045, 121
Adventura	122
Aiko	054
Akai	016, 027, 046
Alleron	062
A-Mark	007
Amtron	061
Anam	006, 007, 036
Anam National	061, 147
AOC	003, 007, 033, 038, 039, 047, 048, 049, 133
Archer	007
Audiovox	007, 061
Bauer	155
Belcor	047
Bell & Howell	045, 118
Bradford	061
Brockwood	003, 047
Candle	003, 030, 031, 032, 038, 047, 049, 050, 122
Capehart	003
Celebrity	046
Circuit City	003
Citizen	029, 030, 031, 032, 034, 038, 047, 049, 050, 054, 061, 095, 122, 123
Concerto	031, 047, 049
Colortyme	003, 047, 049, 135
Contec	013, 051, 052, 061
Cony	051, 052, 061
Craig	004, 061
Crown	029
Curtis Mathes	029, 034, 038, 044, 047, 049, 053, 095, 118
Daewoo	027, 029, 039, 048, 049, 054, 055, 106, 107, 137
Daytron	003, 049
Dimensia	044
Dixi	007, 015, 027
Electroband	046
Electrohome	029, 056, 057, 058, 147
Elta	027
Emerson	029, 051, 059, 060, 061, 062, 118, 123, 124, 139, 148
Envision	038
Etron	027
Fisher	014, 021, 063, 064, 065, 118
Formenti	155
Fortress	012
Fujitsu	004, 062
Funai	004, 062
Futuretech	004
GE	020, 036, 037, 040, 044, 058, 066, 088, 119, 120, 125, 147
Goldstar	015, 029, 031, 039, 048, 051, 056, 057, 067, 068, 069, 116, 165
Grundy	062
Hitachi	029, 031, 051, 052, 070, 111, 112, 113, 124, 134
Hitachi Pay TV	151
Infinity	017, 071
Janeil	122
JBL	017, 071
JC Penny	020, 034, 039, 040, 041, 044, 048, 050,058, 066, 069, 076, 088, 090, 095,125, 136, 159
JCB	046
JVC	019, 051, 052, 072, 073, 091, 117, 126
Kawasho	018, 046
Kenwood	038, 056, 057
Kloss	010, 032
Kloss Novabeam	005, 122, 127, 131
KTV	074, 123
Loewe	071
Logik	144
Luxman	031
LXI	008, 014, 017, 024, 040, 044, 063, 071, 075, 076, 077, 118, 125
Magnavox	005, 010, 017, 030, 033, 038, 050, 056, 071, 078, 079, 085, 089, 108, 109, 110, 127, 131, 132, 145

（次ページへ続きます。）

Marantz	015, 017, 071, 080
Matsui	027
Memorex	014, 027, 045, 083, 118, 144
Metz	160, 161, 162, 163, 164
MGA	001, 039, 048, 056, 057, 058, 065 081, 083
Midland	125
Minutz	066
Mitsubishi	001, 016, 039, 048, 056, 057, 058, 065, 081, 082, 083, 105
Montgomery Ward	011, 020, 144, 145, 146
Motorola	121, 147
MTC	031, 034, 039, 048, 095
NAD	008, 075, 076, 128
National	002, 036, 061, 147
National Quenties	002
NEC	031, 038, 039, 048, 057, 084, 086, 135, 147
Nikko	054
NTC	054
Optimus	128
Optonica	011, 012, 093, 121
Orion	004, 139
Panasonic	002, 009, 017, 036, 037, 071, 141, 143, 147
Philco	005, 010, 030, 050, 051, 056, 079, 085, 127, 131, 132, 145, 147
Philips	005, 015, 017, 050, 051, 056, 078, 087, 088, 089, 131, 132, 147
Pioneer	124, 128, 142
Portland	054
Price Club	095
Proscan	040, 044, 125
Proton	035, 051, 092, 129
Pulsar	042
Quasar	036, 037, 074, 141
Radio Shack	011, 044, 063, 093, 118
RCA	040, 044, 125, 130, 137, 151, 152
Realistic	014, 063, 093, 118
Saisho	027
Samsung	003, 015, 034, 053, 055, 057, 094, 095, 136,153
Sansui	139
Sanyo	013, 014, 021, 022, 063, 064, 081, 096
SBR	015
Schneider	015
Scott	062
Sears	008, 014, 021, 022, 023, 024, 025, 040, 052, 057, 062, 063, 064, 065, 073, 075, 076, 097, 098, 125, 159
Sharp	011, 012, 013, 026, 093, 099, 100, 104, 121
Siemens	013
Signature	045, 144
Simpson	050
Sony	043, 046, 138, 146, 150
Soundesign	030, 050, 062
Spectricon	007, 033
Squareview	004
Supre-Macy	032, 122
Supreme	046
Sylvania	005, 010, 017, 030, 078, 079, 085, 089, 101, 127, 131, 132, 145, 155
Symphonic	004, 148
Tandy	012, 121
Tatung	036, 124
Technics	037
Teknika	001, 030, 032, 034, 052, 054, 078, 083, 095, 144, 156, 157
Tera	035, 129
Toshiba	008, 014, 034, 063, 075, 076, 095, 097, 136, 158, 159
Universal	020, 066, 088
Victor	019, 073, 126
Video Concepts	016
Viking	032, 122
Wards	005, 045, 066, 078, 085, 088, 089, 093, 102, 103, 131, 132, 148
Zenith	042, 114, 115, 140, 144, 149
Zonda	007

（次ページへ続きます。）

VCR

Admiral	081
Aiko	095
Aiwa	009
Akai	026, 027, 070, 072, 082, 083, 084
Alba	055
Amstrad	009
ASA	042
Asha	087
Audio Dynamic	005, 085
Audiovox	088
Beaumark	087
Broksonic	086, 093
Calix	088
Candle	006, 087, 088, 089, 090
Canon	049, 057
Capehart	025, 055, 056, 071
Carver	015
CCE	095
Citizen	006, 007, 087, 088, 089, 090, 095
Craig	007, 087, 088, 091, 115
Curtis Mathes	006, 049, 073, 080, 087, 090, 092
Cybernex	087
Daewoo	025, 055, 059, 074, 089, 093, 095, 096
Daytron	025, 055
DBX	005, 085
Dumont	053
Dynatech	009
Electrohome	001, 088, 097
Electrophonic	088
Emerson	001, 009, 017, 027, 086, 088, 089, 092, 093, 097, 100, 101, 102, 103, 104, 117
Fisher	009, 028, 031, 053, 054, 091, 098, 099, 115
GE	007, 011, 049, 050, 051, 052, 073, 080, 087
Go Video	047, 048
Goldstar	006, 012, 062, 088, 129
Gradiente	094
Grundig	042
Harley Davidson	094
Harman Kardon	040, 062
Hi-Q	091
Hitachi	009, 013, 023, 026, 058, 108, 109, 110, 111
JC Penny	004, 005, 007, 023, 028, 049, 062, 085, 087, 088
Jensen	013, 026
JVC	004, 005, 006, 026, 029, 043, 044, 045, 046, 085
Kenwood	004, 005, 006, 026, 029, 033, 045, 085, 090
Kodak	088
Lloyd	009, 094
LXI	088
Magnavox	015, 016, 042, 049, 063, 106
Magnin	087
Marantz	004, 005, 006, 015, 042, 049, 085, 090
Marta	088
MEI	049
Memorex	009, 033, 049, 053, 060, 081, 087, 088, 091, 094, 115
Metz	123, 124, 125, 126, 127, 128
MGA	001, 017, 027, 041, 097
MGN Technology	087
Midland	011
Minolta	013, 023
Mitsubishi	001, 003, 008, 013, 014, 017, 027, 029, 039, 040, 041, 045, 097
Motorola	081
Montgomery Ward	001, 002, 007, 009, 049, 063, 081, 115, 117
MTC	009, 087, 094
Multitech	007, 009, 011, 087, 090, 094
NAD	038
NEC	004, 005, 006, 018, 026, 029, 045, 061, 062, 085
Nikko	088
Noblex	087
Optimus	081, 088
Optonica	021

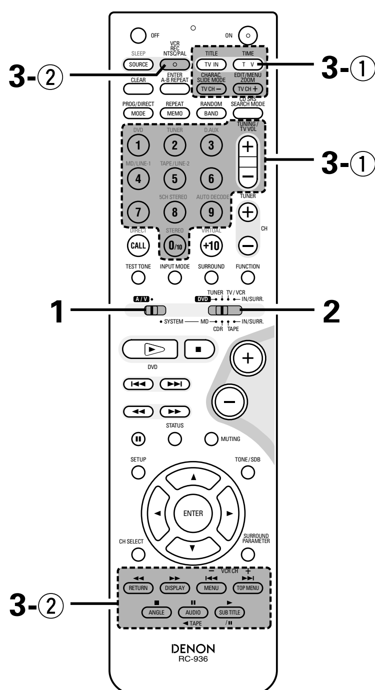
（次ページへ続きます。）

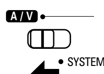
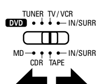
リモコンによる他機器の操作のしかた（つづき）

Panasonic	024, 049, 064, 066, 067, 068, 069, 107
Perdio	009
Pentax	006, 013, 023, 058, 090
Philco	015, 016, 049
Philips	015, 021, 042, 049, 105
Pilot	088
Pioneer	005, 013, 029, 036, 037, 038, 045, 085
Portland	025, 055, 090
Proscan	063, 080
Pulsar	060
Quartz	033
Quasar	034, 035, 049
Radio Shack	001, 002, 021, 081, 087, 088, 091, 094, 097, 098, 115
Radix	088
Randex	088
RCA	007, 013, 019, 023, 058, 063, 064, 065, 073, 080, 082, 087
Realistic	009, 021, 031, 033, 049, 053, 081, 087, 088, 091, 094, 097, 098
Ricoh	055
Salora	033, 041
Samsung	007, 011, 051, 059, 070, 083, 087, 089, 113
Sanky	081
Sansui	005, 026, 029, 045, 061, 085, 114
Sanyo	032, 033, 053, 087, 091, 115, 116
SBR	042
Scott	017, 020, 086, 089, 093, 117
Sears	013, 023, 028, 031, 033, 053, 054, 088, 091, 098, 099, 115
Sentra	055
Sharp	001, 002, 021, 097
Shogun	087
Sony	075, 076, 077, 078, 079, 121, 122
STS	023
Sylvania	009, 015, 016, 017, 041, 049, 094
Symphonic	009, 094
Tandy	009
Tashiko	009, 088
Tatung	004, 026, 030
Teac	004, 009, 026, 094
Technics	024, 049
Teknika	009, 010, 022, 049, 088, 094
TMK	087, 092
Toshiba	013, 017, 020, 041, 059, 089, 098, 099, 117
Totevision	007, 087, 088
Unirech	087
Vecrtor Research	005, 062, 085, 089, 090
Victor	005, 045, 046, 085
Video Concepts	005, 027, 085, 089, 090
Videosonic	007, 087
Wards	013, 021, 023, 087, 088, 089, 091, 094, 097, 118, 119, 120
XR-1000	094
Yamaha	004, 005, 006, 026, 062, 085
Zenith	060, 078, 079

リモコンによる他機器の操作のしかた（つづき）

(3) プリセットメモリーしたテレビビデオデッキ機器の操作のしかた



1	**モードスイッチ1を『A/V』の位置にします。** 
2	**モードスイッチ2を『TV/VCR』の位置にします。** 
3	**ビデオ機器を操作します。** ● 詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。 ※ 機種によっては操作できないものがあります。

ご注意

- テレビの『TV（POWER）』と『TV IN』のボタンはモードスイッチ1が『A/V』の場合、モードスイッチ2の位置にかかわらず操作できます。

3 つづき	**モニターテレビ（TV）、ビデオデッキ（VCR）のシステムボタン**

①テレビのシステムボタン

TV	：電源のON/OFF
0〜9	：チャンネルテンキー
TV IN	：テレビ入力の切り替え
TV VOL ＋、ー	：音量のアップ/ダウン
TV CH＋、ー	：チャンネルの切り替え

②ビデオデッキのシステムボタン

VCR	：電源のON/OFF
VCR CH＋、ー	：チャンネルの切り替え
◀◀、▶▶	：マニュアルサーチ（早戻し、早送り）
▶	：再生
❚❚	：一時停止
■	：停止

24 外部機器での録音について

★ 本機に接続した録音機器へのデジタル録音、アナログ録音について

（1）本機のデジタル音声出力端子から出力される信号について

- ビットストリーム信号は録音できません。またPCM信号であってもソフトでコピープロテクトされているものは、デジタル録音することができません。（ほとんどのDVDソフトはコピープロテクトされています。）

1 本機でディスクを再生した場合

	音声記録方式		セットアップDVD設定	参照ページ	出力されるデジタル音声データ
DVDビデオ	ドルビーデジタル		デジタル出力：ノーマル＊	113ページ	ドルビーデジタルのビットストリーム
			デジタル出力：PCM変換		2チャンネルPCMデータ（48kHz/16bit）
	DTS		デジタル出力：ノーマル＊		DTSのビットストリーム
			デジタル出力：PCM変換		2チャンネルPCMデータ（48kHz/16bit）
	リニアPCM	48kHz	LPCM変換モード：変換しない＊	113ページ	48kHz/16〜24bit PCM
			LPCM変換モード：変換する		48kHz/16bit PCM
		96kHz	LPCM変換モード：変換する		48kHz/16bit PCM
		CPオン	LPCM変換モード：変換しない＊		48kHz/16bit PCM（コピープロテクト有りの場合）
		CPオフ	LPCM変換モード：変換しない＊		96kHz PCM（コピープロテクト無しの場合）
ビデオCD	MPEG1				44.1kHz/16bit PCM
音楽CD	リニアPCM				44.1kHz/16bit PCM
MP3/WMA CD	MP3/WMA				32〜48kHz/16bit PCM

＊：工場出荷時設定

2 本機のデジタル入力端子D.AUXに接続された信号を選択した場合

- 入力された信号をそのまま出力します。

（2）LINE1、LINE2のアナログ録音出力について

1 DVDやデジタル専用入力D.AUXを選択した場合

- ドルビーデジタル、DTS、AACおよびPCMのデジタル信号はドルビーヘッドホン以外では自動的に2chステレオ音声に変換出力し、アナログ録音することができます。（ドルビーヘッドホンモードのとき3項参照。）

2 TUNERやLINE1、LINE2を選択した場合

- 本機の入力モードやサラウンドモードに関係なく選択したTUNERのアナログ音声やLINE1、LINE2のアナログ入力端子（IN）に接続しているアナログ音声をそのまま出力します。（セットアップ-『6ファンクション設定』-『LINE-2』を『D.AUX』に設定した場合のD.AUXも同様です。）

3 DVDやD.AUX、LINE1のデジタル入力をドルビーヘッドホンモードで再生中の録音出力

- DVDやデジタル入力を選択したドルビーヘッドホンモードでは、再生中のドルビーヘッドホンモードアナログ音声を出力し、アナログ録音することができます。（53、54ページ参照）

DVDやデジタル入力のアナログ録音中のご注意

- 録音中は本機の入力モードやサラウンドモード、サラウンドパラメーターを切り替えないでください。録音中の音声が途切れます。
  本機のサラウンドモードを『STEREO』または『DIRECT』にしておこなうことをおすすめします。
- ヘッドホン使用中は自動的にドルビーヘッドホンモードでの録音になります。録音中にヘッドホンの抜き差し、ヘッドホンモードの切り替えはおこなわないでください。
- AAC、ドルビーデジタル=二重音声は、再生中の音声で出力されます。録音中は、二重音声設定を変更しないでください。

25 詳細なセットアップのしかた

★ 工場出荷時にあらかじめ設定されている初期設定を変更することができます。
使用するスピーカーシステムやDVDの機能についてご使用の条件に合わせて設定してください。
設定内容は電源を切っても次に変更するまで保持されます。

初期設定一覧表

【セットアップの内容と初期設定（工場出荷時）】

セ　ッ　ト　ア　ッ　プ				初　期　設　定
詳細設定変更	システム設定変更	スピーカー設定	サラウンド再生の際、実際に使用するスピーカーの組み合わせの有無や、自動的に各スピーカーから出力される信号の成分や周波数特性が設定されます。	フロント ｜ センター ｜ サラウンド ｜ サブウーハー 小 ｜ なし ｜ なし ｜ あり SW周波数 = 120Hz
		ディレイタイム（距離）	リスニングポジションに応じて各スピーカー、スーパーウーハーから発声される音声のタイミングを最適にするためのパラメーターです。	フロント＆サブウーハー ｜ センター ｜ サラウンド 2.7m ｜ ー ｜ ー
		チャンネルレベル調整	リスニングポジションで各スピーカーから出力されるテストトーンを聞きながら、各スピーカーの再生レベルが同じになるように設定します。	フロント左 ｜ センター ｜ フロント右 ｜ サラウンド右 ｜ サラウンド左 ｜ サブウーハー 0dB ｜ ー ｜ 0dB ｜ ー ｜ ー ｜ 0dB
		二重音声設定	AACソースおよびドルビーデジタルソースの二重音声内容を設定します。	主音声
		DVDオートパワーOFF設定	DVDファンクションのとき、停止状態で30分以上操作がなかった場合、自動的に電源をスタンバイ状態にします。	オートパワーOFFしない
		ファンクション設定	LINE1とLINE2の入力ファンクション名を設定します。（システム動作用） ドルビーバーチャルスピーカー再生時のLINE1とLINE2のアナログ録音出力のON/OFFを設定します。	LINE1 ｜ LINE2 ｜ REC OUT MD ｜ TAPE ｜ 入
	DVD設定変更	ディスク言語設定	ディスク再生時の音声言語、字幕言語、ディスクメニュー言語を設定します。	音声言語 ｜ 字幕言語 ｜ メニュー言語 日本語 ｜ 日本語 ｜ 日本語
		OSD設定	セットアップ画面や操作画面表示のOSD言語や壁紙を設定します。	OSD言語 ｜ 壁紙 日本語 ｜ 青色
		映像設定	使用するテレビの画面サイズや映像方式およびDVD再生時のモードと黒レベルを設定します。	TVアスペクト（画面サイズ） ｜ TVタイプ（映像方式） ｜ ビデオモード ｜ 黒レベル 4：3　PS（パン＆スキャン） ｜ NTSC ｜ オート ｜ 暗
		音声設定	デジタル音声の信号形式やリニアPCMのサンプリング周波数/ビット数変換を設定します。	デジタル出力 ｜ LPCM変換モード ノーマル ｜ 変換しない
		視聴制限設定	視聴制限付きDVDの再生制限の設定と設定変更に必要なパスワードを設定します。	視聴制限レベル ｜ パスワード（4桁） 制限しない ｜ 0000（変更可能）
		特殊設定	DVDのクローズド・キャプションの表示を設定します。（表示させるには市販のデコーダーが必要です。）静止画（JPEG）での画面切り替わり時間を設定します。	クローズド・キャプション ｜ スライド間隔時間 表示しない ｜ 5SEC

詳細なセットアップのしかた（つづき）

パラメーターについて

大

100Hz以下の低音を十分再生できるスピーカーを使用するときに選択します。

小

100Hz以下の低音再生に十分な音量が得られないスピーカーを使用するときに選択します。
この設定をおこなった場合、サブウーハー周波数で設定した周波数以下の低音はサブウーハーに振り分けられます。

なし

スピーカーを設置していないときに選択します。

あり

サブウーハーを設置しているときに選択します。

※ サブウーハーの低域再生能力が十分な場合、フロント、センター、サラウンドの各スピーカーの設定を『小』にしても良好な音場再生を得ることができます。

※ フロントスピーカーを『小』に設定すると自動的にサブウーハーは『あり』に設定され、サブウーハーを『なし』に設定すると自動的にフロントスピーカーは『大』に設定されます。

サブウーハー（SW）周波数について

- スピーカー設定画面のSW周波数で、サブウーハーから再生する低域クロスオーバー周波数を設定します。
- 『80Hz』、『120Hz』、『150Hz』、『180Hz』が選択でき、それぞれの周波数以下の低域をサブウーハーから再生します。
（工場出荷時は『120Hz』に設定されています。）

低音域の振り分けについて

- ドルビーデジタル、ドルビープロロジックII、DTS、AACおよびバーチャルサラウンドモードでは、スピーカー設定を『小』にしたチャンネルの低音域信号の振り分けをおこないます。
『大』に設定したチャンネルの低音域はそのチャンネルから再生します。（サブウーハー周波数を『120Hz』に設定した場合、『小』に設定したチャンネルは120Hz以上の音を再生し、120Hz以下の低音域はサブウーハーから再生します。）
- 上記以外のサラウンドモードではスピーカー設定の『大』『小』によらず、サブウーハー周波数で設定した周波数以下の低音域をサブウーハーから再生します。
- 使用するスピーカーやサブウーハーの低域再生能力に応じて、サブウーハー周波数の設定をおこなってください。

サブウーハー（SW）モードについて

- サブウーハーモードの設定はフロントスピーカーを『大』、サブウーハーを『あり』に設定した場合のみ有効です。
- 『LFE＋メイン』モードを選択すると、『大』に指定されたチャンネルの低音域信号はそのチャンネルから再生するとともに、サブウーハーチャンネルからも同時に再生されます。
このモードではより均一な低音域が室内に広がりますが、部屋の大きさと形によっては、干渉のために実際の低音域音量が低下することもあります。
- 『LFE』モードを選択すると、『大』に指定されたチャンネルの低音域信号はそのチャンネルからのみ再生されます。
このモードでは室内低音域干渉が起こりにくくなります。

詳細なセットアップのしかた（つづき）

(1) 詳細なシステムセットアップのしかた（システム設定変更）

★ クイックシステム設定や工場出荷時の初期設定値を変更する場合、システム設定変更メニューによりおこないます。設定内容は電源を切っても次に変更するまで保持されます。

1 スピーカー設定（スピーカーの種類・有無の設定）

★ 実際に使用されるスピーカーの組み合わせに対して、自動的に各チャンネルの出力成分や特性を調節します。

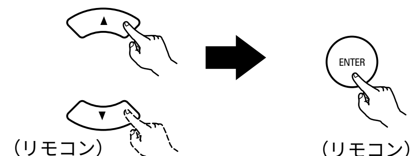
1 **SETUPボタンを押して、セットアップ画面を表示させます。**

SETUP

（リモコン）



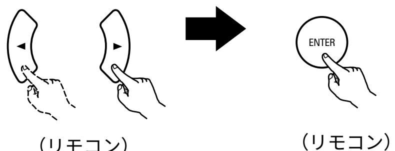
2 **カーソルボタン（▲,▼）で『＜詳細設定変更＞』の『システム設定変更』を選択し、ENTERボタンを押します。**



（リモコン）　（リモコン）

3 **システム設定変更メニュー画面上で、カーソルボタン（◀,▶）で『スピーカー設定』のタグアイコンを選択し、ENTERボタンを押します。**



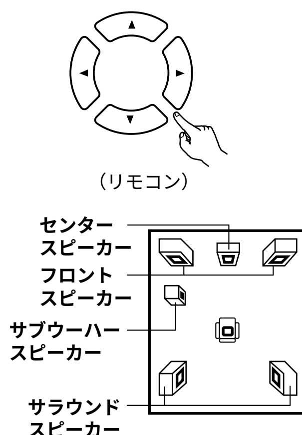


（リモコン）　（リモコン）

※システム設定変更メニュー画面のタグアイコンにカーソルがあるときは、カーソル▼でも設定画面に入ります。カーソル▲でタグアイコンに戻ることもできます。

● 操作*4*のスピーカー設定画面に入ります。

4 **カーソルボタン（▲,▼,◀,▶）で、各々のスピーカーの有無または大きさなどのパラメーターを設定します。**



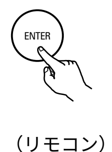
（リモコン）

センター
スピーカー
フロント
スピーカー
サブウーハー
スピーカー
サラウンド
スピーカー

● 設定する項目が黄色で表示され、設定以外の各項目の設定値は緑色で表示されます。



5 **ENTERボタンを押して、設定を確定します。**



● システム設定変更メニューの次の画面に進みます。

（リモコン）

ご注意

大/小の選択はスピーカーの外形で判断せずに、100Hzを基準とした低域・再生能力で判断してください。この判断がつかない場合は、スピーカーを破壊しない範囲で『小』に設定した場合と、『大』に設定した場合の音を比較した上で選択してください。

詳細なセットアップのしかた（つづき）

2 ディレイタイム（距離の設定）

★ リスニングポジションと各スピーカーとの距離を入力して、サラウンドのディレイタイムを設定します。
★ 工場出荷時は下記操作*3* の初期設定値に設定されています。

準備：リスニングポジションと各スピーカーとの距離（下図のL1～L3）を測定します。

FL Center FR
L2 L1 L3
SL SR
リスニングポジション

L1： センタースピーカーと
　　リスニングポジションとの距離
L2： フロントスピーカーと
　　リスニングポジションとの距離
L3： サラウンドスピーカーと
　　リスニングポジションとの距離

1 **システム設定変更メニュー画面以外からおこなう場合は、100ページ操作*1* をお読みください。**

2 **システム設定変更メニュー画面上で、カーソルボタン（◀,▶）で『ディレイタイム（距離）』を選択し、ENTERボタンを押します。**

ENTER
（リモコン）　（リモコン）

● ディレイタイムの設定画面に入ります。

ディレイタイム
各スピーカーまでの距離を設定
単位 m ▶ ft
初期設定値
フロント＆サブウーハー 2.7m
センター 2.4m
サラウンド 1.8m
選択: ▼▲◀▶ 終了：ENTERボタン

● 距離の単位はカーソルボタン（◀,▶）で“ m（メートル）”と“ ft（フィート）”が選択できます。変更しない場合はカーソルボタン（▼）で次へ進みます。

3 **『初期設定値』で『する』を選択すると、各スピーカーのディレイタイムは初期設定値になります。**

◎ **する**　：　初期設定値になります。
◎ **しない**：　現在の設定値のままです。

4 **カーソルボタン（▲,▼）で設定したいスピーカーを選び、カーソルボタン（◀,▶）でスピーカーとリスニングポジションとの距離を設定します。**

● カーソルボタン（◀,▶）を押すたびに数値が0.1m単位（フィートの場合は1ft単位）で変化しますので、測定した距離に最も近い値を選択してください。

ディレイタイム
各スピーカーまでの距離を設定
単位 m ft
初期設定値
フロント＆サブウーハー ◀ 2.7m ▶
センター 2.4m
サラウンド 1.8m
選択: ▼▲◀▶ 終了：ENTERボタン

※ 各スピーカーに設定した距離の差はどれも3.0m（10ft）以下にしてください。
不適切な距離を設定すると“ **注意：設定範囲外** ”と表示されますので、スピーカーの位置を変更して再設定してください。

5 **ENTERボタンを押して、設定を確定します。**

● システム設定変更メニューの次の画面に進みます。

ENTER
（リモコン）

3 チャンネルレベル調整

★ 各チャンネル間の再生レベルが等しくなるように調整します。
★ リスニングポジションで、各スピーカーより出力されるテストトーン（再生音）を聞きながら調整します。
★ 工場出荷時はすべて0dBに設定されています。
★ 調整はリモコンからのダイレクト操作でもおこなえます。（詳しくは43ページを参照してください。）

1 **システム設定変更メニュー画面以外からおこなう場合は、100ページ操作*1* をお読みください。**

2 **システム設定変更メニュー画面上で、カーソルボタン（◀,▶）で『チャンネルレベル調整』のタグアイコンを選択し、ENTERボタンを押します。**

ENTER

（リモコン）　（リモコン）

● チャンネルレベル調整画面に入ります。

チャンネルレベル調整		
テストトーン	自動 ◀	手動
レベルクリアー		
テストトーン出力		
フロント左	0db	
センター	0db	
フロント右	0db	
サラウンド右	0db	
サラウンド左	0db	
サブウーハー	0db	
選択: ▼▲◀▶	終了：ENTERボタン	

3 **カーソルボタン（◀,▶）で『テストトーン』モードを『自動』または『手動』のどちらかに選択します。**

● 選択された方を黄色表示します。

（リモコン）

◎ **自動：** 各スピーカーより自動的に出力されるテストトーンを聞きながらレベルを調整します。

◎ **手動：** テストトーンを出力させたいスピーカーを選んでレベル調整します。

※ 最初の設定は『手動』でおこなうと詳細な設定ができます。

4 **『レベルクリアー』で『する』を選択すると各スピーカーのレベル設定をすべて0dBにします。**

◎ **する　：** 各スピーカーのレベル設定をすべて0dBにします。

◎ **しない：** 各スピーカーのレベル設定は現在の設定値のままです。

5 **【『テストトーン』モードで チャンネルレベルを調整する】**

カーソルボタン（▲,▼）で『テストトーン出力』モードにし、カーソルボタン（◀）で『開始』を選択するとテストトーンを出力します。

※ テストトーンの音量は本体のMASTER VOLUMEつまみまたはリモコンのVOLUMEボタンで調節しやすい音量にしてからおこなってください。

6 **①『テストトーン』モードで『自動』を選択した場合**

チャンネルレベル調整		
テストトーン	自動	手動
レベルクリアー		
テストトーン出力	開始	
フロント左	◀ 0db ▶	
センター	0db	
フロント右	0db	
サラウンド右	0db	
サラウンド左	0db	
サブウーハー	0db	
選択: ▼▲◀▶	終了：ENTERボタン	

● 下記の順序で2周目までは4秒間隔で、3周目からは2秒間隔でテストトーンが各スピーカーより自動的に出力されます。

フロント左 → センター → フロント右 → サラウンド右 → サラウンド左 → サブウーハー →（フロント左へ戻る）

カーソルボタン（◀,▶）で各スピーカーのテストトーンが同じ音量に聞こえるようにチャンネルレベルを調整します。

● カーソルボタン（◀,▶）を押すたびに数値が1dB単位で変化します。
－12dB～＋12dBの範囲で調整してください。

（次ページへ続きます。）

詳細なセットアップのしかた（つづき）

6 つづき

②『テストトーン』モードで『手動』を選択した場合



カーソルボタン（▲,▼）でテストトーンを出力させたいスピーカーを選び、カーソルボタン（◀,▶）で各スピーカーのテストトーンが同じ音量に聞こえるようにチャンネルレベルを調整します。

- カーソルボタン（◀,▶）を押すたびに数値が1dB単位で変化します。
  −12dB〜＋12dBの範囲で調整してください。

7 **ENTERボタンを押して、設定を確定します。**

- システム設定変更メニューの次の画面に進みます。



（リモコン）

※ **調整後設定を取り消すときは**
チャンネルレベル調整画面を表示させ、カーソルボタン（▲,▼,◀,▶）で『レベルクリアー』にし、『する』を選択してください。各スピーカーのレベル設定はすべて0dBになります。

ご注意

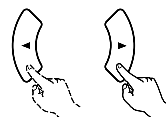
チャンネルレベルの設定でチャンネルレベルを調整した場合には、調整した値がすべての再生モードに対して設定されます。
チャンネルレベル設定後、チャンネルレベルを調整する場合は、43ページの操作でもおこなうことができます。

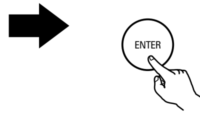
4 二重音声設定

★ AACソースおよびドルビーデジタルソースの音声出力内容を設定します。
★ 工場出荷時は『主音声』に設定されています。

1 **システム設定変更メニュー画面以外からおこなう場合は、100ページ操作*1*をお読みください。**

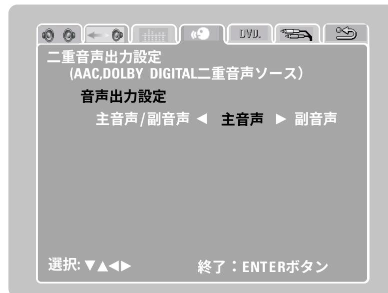
2 **システム設定変更メニュー画面上で、カーソルボタン（◀,▶）で『二重音声設定』を選択し、ENTERボタンを押します。**


（リモコン）



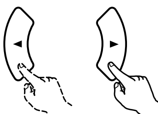
（リモコン）

- 二重音声出力設定画面になります。



3 **カーソルボタン（◀,▶）で音声出力モードを選択します。**

- カーソルボタン（◀,▶）を押すたびに下記のように切り替わります。

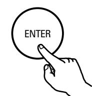

（リモコン）

主音声/副音声 ←→ 主音声 ←→ 副音声

◎ **主音声/副音声**
主音声は左チャンネルから副音声は右チャンネルから出力されます。
◎ **主音声**：主音声が出力されます。
◎ **副音声**：副音声が出力されます。

4 **ENTERボタンを押して、設定を確定します。**

- システム設定変更メニューの次の画面に進みます。



（リモコン）

ご注意

二重音声出力設定は、AACソースおよびドルビーデジタルソースで二重音声の情報がある場合のみ有効となります。
二重音声の情報がないAACソース、ドルビーデジタル、DTS、PCMおよびアナログソースに対しては切り替えても無効です。

5 DVDオートパワーOFF設定

★ 本機ではDVDファンクションのとき停止状態で30分間操作がなかった場合、自動的に電源をスタンバイにする機能があります。本機能の動作する/しないを設定します。
★ 工場出荷時は『動作しない』に設定されています。

1 **システム設定変更メニュー画面以外からおこなう場合は、100ページ操作*1* をお読みください。**

2 **システム設定変更メニュー画面上で、カーソルボタン（◀,▶）で『DVDオートパワーOFF設定』のタグアイコンを選択し、ENTERボタンを押します。**

（リモコン）　（リモコン）

● DVDオートパワーOFF設定画面に入ります。

DVDオートパワーOFF設定
(DVDファンクションで動作)
オートパワーOFF　する　◀　しない
選択: ▼▲◀▶　終了：ENTERボタン

3 **カーソルボタン（◀,▶）で『オートパワーOFF』モードを選択します。**

◎ **する**　：　DVDファンクション時、オートパワーOFF機能が動作します。
◎ **しない**：　オートパワーOFF機能は動作しません。

4 **ENTERボタンを押して、設定を確定します。**

● システム設定変更メニューの次の画面に進みます。

（リモコン）

6 ファンクション設定

★ LINE1とLINE2のファンクション名やアナログ録音出力（REC OUT）の入/切を設定します。
★ D-M31シリーズと組み合わせて使用する場合は、使用する機器に合わせて設定し、システム接続すると便利なシステム機能がはたらきます。
★ デジタル入力D.AUXをLINE2へ割り当てることもできます。

1 **システム設定変更メニュー画面以外からおこなう場合は、100ページ操作*1* をお読みください。**

2 **システム設定変更メニュー画面上で、カーソルボタン（◀,▶）で『ファンクション設定』のタグアイコンを選択し、ENTERボタンを押します。**

（リモコン）　（リモコン）

● 入力ファンクション設定画面に入ります。

ファンクッション設定
LINE-1　◀ MD ▶
LINE-2　TAPE
LINE-1/LINE-2 REC OUT
入　切
選択: ▼▲◀▶　終了：ENTERボタン

3 **カーソルボタン（▲,▼）で設定する項目を選び、カーソルボタン（◀,▶）で設定します。**

◎ **LINE1：ファンクション名選択**（初期設定MD）

AUX ←→ CD-R ←→ MD ←→ MD/CD-R

◎ **LINE2：ファンクション名選択**（初期設定TAPE）

TAPE ←→ AUX ←→ D.AUX

◎ **LINE1/LINE2 REC OUT**
：DVDやデジタル入力専用D.AUXファンクションでドルビーバーチャルスピーカーモード再生時の録音出力の入/切を設定します。
入：ステレオ音声で出力します。（出荷時設定）
切：出力しません。（録音できません）

4 **ENTERボタンを押して、設定を確定します。**

● システム設定変更メニュー画面に戻ります。

（リモコン）

詳細なセットアップのしかた（つづき）

入力ファンクション設定について

- LINE1、LINE2は次のように設定できます。
  LINE1： MD、CD-R、MD/CD-R、AUXが選択できます。（MD/CD-Rはシステム機器MDレコーダー、カセットデッキ、CDレコーダーの3つの機器を接続してシステム動作をするときのみに設定します。）
  LINE2： TAPE、MD、AUX、D.AUXが設定できます。（D.AUXはデジタル入力D.AUXをアナログ入力LINE2と組み合わせて使用したいときに設定します。）
- LINE1での設定が優先し、LINE1で設定したファンクションはLINE2の設定から除かれます。（例：LINE1が『MD』のときはLINE2の『MD』は除外されます。）

LINE1/LINE2アナログ録音出力設定について

- 通常は『入』に設定してください
- DVDやデジタル入力専用D.AUXファンクションで、高ビットレースソースのドルビーバーチャルスピーカー再生にノイズが発生する場合は、本設定を『切』にしてください。
- DVDやデジタル入力専用D.AUXファンクションのドルビーバーチャルスピーカーモードに限り有効です。（ドルビーバーチャルスピーカーモード以外のサラウンドモードや他の入力ファンクションでは、この設定に関係なくアナログ録音出力されます。）
- 『切』ではアナログ録音できませんので、録音をおこなう場合はドルビーバーチャルスピーカーモード以外（STEREOなど）でおこなってください。

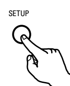
（2）システム設定変更後の操作

★ 以上でシステム設定変更のセットアップは終了です。スピーカー設定、ディレイタイム、チャンネルレベル調整は一度設定をおこなったら接続するAV機器やスピーカーを取り替えたり、スピーカーの配置を変えない限り再度設定をおこなう必要はありません。

★ 二重音声設定、DVDオートパワーOFF、ファンクション設定は必要に応じて設定変更してください。

1 **システム設定変更メニュー画面上で、SETUPボタンを押します。**

- 変更した設定値が確定され、オンスクリーン表示が消えます。



（リモコン）

※ 本ボタンを押すと、セットアップ中、どこからでもセットアップを終了することができます。

ご注意

システム設定変更でシステムセットアップをおこなった後に、クイックシステム設定でスピーカーシステムを選択した場合、スピーカー設定、ディレイタイムの設定はクイックシステム設定にプリセットされている状態に変更されます。

(3) DVD設定変更のしかた

★ 工場出荷時にあらかじめ設定されている初期設定を変更することができます。
設定内容は電源を切っても次に変更するまで保持されます。

1	**ディスク停止中にSETUPボタンを押して、セットアップ画面を表示させます。** ※再生中でも一部の項目については、設定を変更することができます。	SETUP （リモコン） セットアップ画面 DENON クイックシステム設定 〈詳細設定変更〉 システム設定変更 DVD設定変更 > 設定終了 選択：▼▲◀▶ 決定：ENTERボタン
2	**カーソルボタン（▲,▼）で『DVD設定変更』を選択し、ENTERボタンを押します。** ● DVD設定画面が表示されます。 **ディスク言語設定：** ディスクに準備されている各種言語が設定できます。設定した言語がディスクにないときは、ディスクで決められている言語が選択されます。 **OSD設定：** Aa 初期設定画面の言語やTV画面に表示される “ プレイ ” などの言語を設定できます。 **映像設定：** ご使用されるテレビの画面モードおよび映像出力モードを設定します。 **音声設定：** 本機の音声出力モードを設定します。 **視聴制限設定：** お子様などに見せたくない成人向けDVDの再生が制限できます。ただし、成人向けDVDでもディスクに視聴制限レベルが記録されていない場合は視聴制限はできません。また、すべてのDVDの再生を禁止することもできます。 **特殊設定：** etc. クローズド・キャプション（字幕）、および静止画再生の間隔時間の設定ができます。	ENTER （リモコン） （リモコン） Aa etc. ディスク言語設定 音声言語 日本語 字幕言語 日本語 メニュー言語 日本語 >終了（次のメニュー） 選択：▼▲◀▶ 決定：ENTERボタン

※ **DVD設定を終了するときは**
カーソルボタン（◀,▶）で『終了』を選択しENTERボタンを押すか、またはSETUPボタンを押します。
SETUPボタンを押すと、セットアップ中どこからでもセットアップを終了することができます。

詳細なセットアップのしかた（つづき）

1 『ディスク言語設定』を選んだとき

1
2

DVD設定画面以外からおこなう場合、106ページ操作*1*、*2*をお読みください。

3

DVD設定画面上で、カーソルボタン（◀,▶）で『ディスク言語設定』タグアイコンを選択し、ENTERボタンを押します。

● ディスク言語設定画面に入ります。

音声言語
スピーカーから出力される音声言語を設定できます。

字幕言語
ＴＶに表示される字幕言語を設定できます。

メニュー言語
トップメニュー（ディスクに記録されているメニュー）などの画面言語を設定できます。

※**DVD設定画面のタグアイコンにカーソルがあるときはカーソル▼でも設定画面に入ります。カーソル▲でタグアイコンに戻ることもできます。**

※**『ディスク言語設定』を終了するときは**
カーソルボタン（▲,▼）で『終了』を選択しENTERボタンを押します。（次のDVD設定画面に進みます。）

（リモコン）　（リモコン）

4

カーソルボタン（▲,▼）で設定する内容を選択し、ENTERボタンを押します。

■『音声言語』を選んだとき

● カーソルボタン（▲,▼）で設定する音声言語を選びます。

◎ **英語**
英語の音声で再生されます。

◎ **フランス語**
フランス語の音声で再生されます。

◎ **スペイン語**
スペイン語の音声で再生されます。

◎ **ドイツ語**
ドイツ語の音声で再生されます。

◎ **日本語 <工場出荷時>**
日本語の音声で再生されます。

◎ **その他**：番号ボタンで入力した言語の音声が再生されます。
109ページの言語番号一覧表を参照）

※**『音声言語設定』を終了するときは**
ENTERボタンを押します。

（リモコン）　（リモコン）

（次のページに続きます）

4

■『字幕言語』を選んだとき

● カーソルボタン（▲,▼）で設定する字幕言語を選びます。

◎ **切**：

字幕を表示させないときに選択します。ディスクによっては字幕表示を消すことができない場合があります。

◎ **英語**

英語の字幕が表示されます。

◎ **フランス語**

フランス語の字幕が表示されます。

◎ **スペイン語**

スペイン語の字幕が表示されます。

◎ **ドイツ語**

ドイツ語の字幕が表示されます。

◎ **日本語 ＜工場出荷時＞**

日本語の字幕が表示されます。

◎ **その他**

番号ボタンで入力した言語の字幕が再生されます。

（109ページの言語番号一覧表を参照）

※ **『字幕言語』を終了するときは**

ENTERボタンを押します。

■『メニュー言語』を選んだとき

● カーソルボタン（▲,▼）で設定するメニュー言語を選びます。

◎ **英語**

英語のメニュー画面が表示されます。

◎ **フランス語**

フランス語のメニュー画面が表示されます。

◎ **スペイン語**

スペイン語のメニュー画面が表示されます。

◎ **ドイツ語**

ドイツ語のメニュー画面が表示されます。

◎ **日本語 ＜工場出荷時＞**

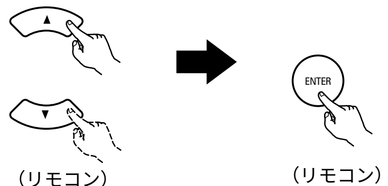
日本語のメニュー画面が表示されます。

◎ **その他**

番号ボタンで入力した言語のメニュー画面が再生されます。（109ページの言語番号一覧表を参照）

※ **『メニュー言語』を終了するときは**

ENTERボタンを押します。







【言語番号一覧表】

番号	言語名	番号	言語名	番号	言語名	番号	言語名
6565	アファル	7074	フィジー	7665	ラテン	8375	スロバキア
6566	アブハジア	7079	フェロー	7678	リンガラ	8376	スロベニア
6570	アフリカーンス	7082	フランス	7679	ラオ	8377	サモア
6577	アムハラ	7089	フリジア	7684	リトアニア	8378	ショナ
6582	アラビア	7165	アイルランド	7686	ラトビア（レット）	8379	ソマリ
6583	アッサム		（スコットランド）	7771	マダガスカル	8381	アルバニア
6588	アイマラ	7168	ゲール	7773	マオリ	8382	セルビア
6590	アゼルバイジャン	7176	ガリチア	7775	マケドニア	8385	スンダ
6665	バシキール	7178	グアラニー	7776	マラヤーラム	8386	スウェーデン
6669	ベロルシア	7185	グジャラト	7778	モンゴル	8387	スワヒリ
	（白ロシア）	7265	ハウサ	7779	モルダビア	8465	タミル
6671	ブルガリア	7273	ヒンディー	7782	マラッタ	8469	テルグ
6672	ビハール	7282	クロアチア	7783	マライ（マレー）	8471	タジク
6678	ベンガル	7285	ハンガリー	7784	マルタ	8472	タイ
	（バングラ）	7289	アルメニア	7789	ビルマ	8473	ティグリニア
6679	チベット	7365	インターリングア	7865	ナウル	8475	トルクメン
6682	ブルターニュ	7378	インドネシア	7869	ネパール	8476	タガログ
6765	カタロニア	7383	アイスランド	7876	オランダ	8479	トンガ
6779	コルシカ	7384	イタリア	7879	ノルウェー	8482	トルコ
6783	チェコ	7387	ヘブライ	7982	オーリヤ	8484	タタール
6789	ウェールズ	7465	日本語	8065	パンジャブ	8487	トウイ
6865	デンマーク	7473	イディッシュ	8076	ポーランド	8475	ウクライナ
6869	ドイツ	7487	ジャワ	8083	パシュト	8482	ウルドゥー
6890	ブータン	7565	グルジア	8084	ポルトガル	8590	ウズベク
6976	ギリシャ	7575	カザフ	8185	ケチュア	8673	ベトナム
6978	英語	7576	グリーンランド	8277	レトロマンス	8679	ヴォラピュック
6979	エスペラント	7577	カンボジア	8279	ルーマニア	8779	ウォロフ
6983	スペイン	7578	カンナダ	8285	ロシア	8872	コーサ
6984	エストニア	7579	韓国（朝鮮）語	8365	サンスクリット	8979	ヨルバ
6985	バスク	7583	カシミール	8368	シンド	9072	中国語
7065	ペルシャ	7585	クルド	8372	セルボクロアチア	9085	ズールー
7073	フィンランド	7589	キルギス	8373	シンハラ		

2 『OSD設定』を選んだとき

1 2 DVD設定画面以外からおこなう場合、106ページ操作*1*、*2* をお読みください。

（リモコン）　（リモコン）

ENTER

3 カーソルボタン（◄,►）で『OSD設定』タグアイコンを選択し、ENTERボタンを押します。

- OSDの設定画面に入ります。

OSD言語
セットアップ画面の言語やＴＶ画面に表示される " プレイ " などの言語を設定できます。

壁紙
停止中やCD再生中、ディスプレイに表示する画面を選べます。

※**『OSD設定』を終了するときは**
カーソルボタン（▲,▼）で『終了』を選択しENTERボタンを押します。（次のDVD設定画面に進みます。）

etc.
OSD設定
OSD言語　日本語
壁紙　青色
＞終了（次のメニュー）
選択：▼▲◄►　決定：ENTERボタン

4 カーソルボタン（▲,▼）で設定する内容を選択し、ENTERボタンを押します。

■『OSD言語』を選んだとき

- カーソルボタン（▲,▼）で設定するOSD言語を選びます。
  - ◎ **ENGLISH**
    OSDが英語で表示されます。
  - ◎ **日本語 ＜工場出荷時＞**
    OSDが日本語で表示されます。

※**『OSD言語』を終了するときは**
ENTERボタンを押します。

etc.
OSD設定
OSD言語　ENGLISH
日本語
選択：▼▲◄►　決定：ENTERボタン

■『壁紙』を選んだとき

- カーソルボタン（▲,▼）で設定する壁紙を選びます。
  - ◎ **青色 ＜工場出荷時＞**
    壁紙を青色にします。
  - ◎ **灰色**
    壁紙を灰色にします。
  - ◎ **黒色**
    壁紙を黒色にします。
  - ◎ **ピクチャー**
    壁紙をピクチャーにします。

※**『壁紙』を終了するときは**
ENTERボタンを押します。

etc.
OSD設定
壁紙　青色
灰色
黒色
ピクチャー
選択：▼▲◄►　決定：ENTERボタン

3 『映像設定』を選んだとき

1
2
DVD設定画面以外からおこなう場合、106ページ操作*1*、*2* をお読みください。

3 カーソルボタン（◄,►）で『映像設定』のタグアイコンを選択し、ENTERボタンを押します。

● 映像設定の画面に入ります。

TVアスペクト
ご使用されるテレビの画面サイズに応じて設定できます。

TVタイプ
ご使用されるテレビの映像方式（マルチ、NTSC、PAL）に応じて設定できます。

● **国内の映像方式はNTSCです。**

ビデオモード
DVDビデオディスクを再生するとき、その素材に最適な設定をビデオ・フィルム・オートの3つの中から選択できます。

黒レベル
映像の黒レベルの『明』『暗』が設定できます。

※ **『映像設定』を終了するときは**
カーソルボタン（▲,▼）で『終了』を選択しENTERボタンを押します。（次のDVD設定画面に進みます。）

（リモコン）　（リモコン）

映像設定
TVアスペクト　4：3 LB
TVタイプ　NTSC
ビデオモード　オート
黒レベル　暗
＞終了（次のメニュー）
選択：▼▲◄►　決定：ENTERボタン

4 カーソルボタン（▲,▼）で設定する内容を選択し、ENTERボタンを押します。

■『TVアスペクト』を選んだとき

● カーソルボタン（▲,▼）で設定するTVアスペクトを選びます。

◎ **4：3 PS <工場出荷時>**
従来のサイズのテレビに接続したときに選びます。ワイド画面で記録されているソフトでは、パン＆スキャン（左右の切れた画面）で再生します。ただしパン＆スキャン指定されていないソフトはレターボックスで再生します。

◎ **4：3 LB**
従来のサイズのテレビに接続したときに選びます。ワイド画面で記録されているソフトではレターボックス（上下に黒い帯のある画面）で再生します。

◎ **ワイド**
ワイドテレビに接続したときに選びます。ワイドソフトはフル画面で再生します。

※ **『TVアスペクト』を終了するときは**
ENTERボタンを押します。

（リモコン）　（リモコン）

映像設定
TVアスペクト　4：3 PS
4：3 LB
ワイド
選択：▼▲◄►　決定：ENTERボタン

（次のページに続きます）

4 つづき

■『TVタイプ』を選んだとき

● カーソルボタン（▲,▼）で設定するTVタイプを選びます。

◎ **NTSC <工場出荷時>**

通常は『NTSC』を選んでください。

（国内で使われているテレビはNTSC方式です。）

◎ **PAL**

ご使用のテレビがPAL方式のときに選びます。

◎ **マルチ**

ご使用のテレビがNTSC方式とPAL方式を兼用しているときに選びます。

※『**TVタイプ**』を終了するときは

ENTERボタンを押します。



■『ビデオモード』を選んだとき（ご注意参照）

● カーソルボタン（▲,▼）で設定するビデオモードを選びます。

◎ **オート<工場出荷時>**

ディスクから素材のタイプ（フィルムまたはビデオのフラグ）を判定して、モードを切り替えます。

◎ **フィルム**

フィルム素材、またはプログレッシブスキャン方式で記録されたビデオ素材のディスクの再生に適しています。

◎ **ビデオ**

ビデオ素材のディスクの再生に適しています。

※『**ビデオモード**』を終了するときは

ENTERボタンを押します。



■『黒レベル』を選択したとき

● カーソルボタン（▲,▼）で設定する黒レベルを選びます。

◎ **暗 <工場出荷時>**

出力信号の黒レベルを基準レベルにします。

◎ **明：** 黒レベルの基準レベルを上げます。テレビに映る映像が極端に暗いときはこの設定にします。

※『**黒レベル**』を終了するときは

ENTERボタンを押します。



『ビデオモード』を選択したときのご注意

- フィルム素材とビデオ素材が混在しているディスクなど、ディスクによっては正しく検出できない場合があります。このようなディスクではビデオモードの設定を変えてみてください。
- 特定のDVDビデオディスクを再生した際に、映像にスジ状のノイズが入ったり、不鮮明になったときは、ビデオモードの設定を変えてみてください。

4 『音声設定』を選んだとき

1
2
DVD設定画面以外からおこなう場合、106ページ操作*1*、*2*をお読みください。

3
カーソルボタン（◄,►）で『音声設定』のタグアイコンを選択し、ENTERボタンを押します。

● 音声設定の画面に入ります。

デジタル出力
デジタル出力の信号形式を選ぶときに使用します。

LPCM変換モード
リニアPCM音声で記録されたDVD再生時のデジタル音声出力の設定ができます。

※**『音声設定』を終了するときは**
カーソルボタン（▲,▼）で『終了』を選択しENTERボタンを押します。（次のDVD設定画面に進みます。）

カーソルボタン（▲,▼）で設定する内容を選択し、ENTERボタンを押します。

（リモコン）　（リモコン）

音声設定
デジタル出力　ノーマル
LPCM 変換モード　変換しない
＞終了（次のメニュー）
選択：▼▲◄►　決定：ENTERボタン

4
■『デジタル出力』を選んだとき

● カーソルボタン（▲,▼）で設定するデジタル出力を選びます。

◎ **ノーマル＜工場出荷時＞**
本機でドルビーデジタルまたはDTSサラウンド再生をするときに選びます。ドルビーデジタルまたはDTSで記録されたDVDを再生したとき、それぞれのビットストリーム信号を出力します。また、リニアPCMで記録されたディスクを再生したときはリニアPCMで出力します。

◎ **PCM変換**
本機のデジタル出力からデジタル録音機器にデジタル録音するときに選びます。ドルビーデジタルDTSで記録されたDVDを再生したときは、48kHz/16bitのPCM（2ch）に変換して出力します。また、リニアPCMで記録されたディスクを再生したときはリニアPCMで出力します。

※**『デジタル出力』を終了するときは**
ENTERボタンを押します。

（リモコン）　（リモコン）

音声設定
デジタル出力　ノーマル
PCM変換
選択：▼▲◄►　決定：ENTERボタン

（次のページに続きます）

詳細なセットアップのしかた（つづき）

4

■『LPCM変換モード』を選んだとき

- カーソルボタン（▲,▼）で設定するLPCM変換モードを選びます。

◎ **変換しない <工場出荷時>**

48kHz/16bitで記録されたリニアPCM音声と48kHz/20bit/24bit、96kHzのリニアPCM音声で記録された著作権保護のための処理がされていないDVDの場合にはそのままの音声記録方式で出力されます。著作権保護の処理がされているDVDの場合は著作権への配慮から48kHz/16bitで出力されます。

◎ **変換する**

48kHz/20bit/24bit、96kHzのリニアPCM音声で記録されたDVDの再生時はすべて48kHz/16bitに変換しデジタル出力します。（PCM音声のデジタル出力は著作権への配慮から48kHz/16bit以下となります。）

本機のデジタル出力からデジタル録音機器にデジタル録音するときに選びます。

※**『LPCM変換モード』を終了するときは**

ENTERボタンを押します。

（リモコン）

ENTER

（リモコン）

音声設定

LPCM 変換モード　　変換しない

変換する

選択：▼▲◀▶　　決定：ENTERボタン

ご注意

- 本機でドルビーデジタル/DTSサラウンドDVDの再生や96kHZリニアPCMDVDの再生をする場合は必ず、『デジタル出力』を『ノーマル』、『LPCM変換モード』を『変換しない』に設定してください。
- 本機で再生するドルビーデジタル/DTSのDVDをデジタルPCM機器へデジタル出力する場合のみ『デジタル出力』を『PCM変換』に設定してください。
  この設定では本機でドルビーデジタル/DTSのサラウンドモード再生はできません。（PCM 2ch信号で再生可能なサラウンドモードになります。）
- 本機で再生する48kHz/20bit/24bit、96kHzのリニアPCMのDVDをデジタル録音機器へデジタル録音する場合のみ『LPCM変換モード』を『変換する』に設定してください。
  この設定で、録音中は本機で48kHz/20bit/24bit、96kHzのリニアPCMをデコード再生することはできません。（48kHz/16bitリニアPCMでのデコード再生となります。）

5 『視聴制限設定』を選んだとき

1
2
DVD設定画面以外からおこなう場合、106ページ操作*1*、*2*をお読みください。

3
カーソルボタン（◀,▶）で『視聴制限設定』のタグアイコンを選択し、ENTERボタンを押します。
- 視聴制限設定の画面に入ります。

視聴制限レベル
お子さまなどに見せたくない成人向けDVDの再生が制限できます。但し、成人向けDVDでもディスクに視聴制限レベルが記録されていない場合は視聴制限できません。また、すべてのDVDの再生を禁止することもできます。

パスワード
パスワードの変更をするときに使用します。
パスワードの初期設定は“ 0000 ”です。

※**『視聴制限』を終了するときは**
カーソルボタン（▲,▼）で『終了』を選択しENTERボタンを押します。（次のDVD設定画面に進みます。）

（リモコン）　（リモコン）

（次のページに続きます）

4 カーソルボタン（▲,▼）で設定する内容を選択し、ENTERボタンを押します。

■『視聴制限レベル』を選んだとき

① カーソルボタン（▲,▼）で設定するレベルを選択し、ENTERボタンを押します。

◎ **レベル0**
すべてのDVDの再生を禁止したいときに選びます。
例えば、視聴制限が記録されていない成人向けDVDの再生を禁止したいときなど。

◎ **レベル1**
子供向けのDVDのみを再生したいときに選びます。
（成人向けと一般向けのDVDの再生を禁止します。）

◎ **レベル2〜レベル7**
一般向けと子供向けのDVDのみを再生したいときに選びます。（成人向けDVDの再生を禁止します。）

◎ **制限しない <工場出荷時>**
すべてのDVD（成人向け/一般向け/子供向け）を再生したいときに選びます。

② **番号ボタンでパスワード（4桁の数字）を入力し、ENTERボタンを押します。**
（番号ボタンはリモコンモードがDVDモードでなければ入力できません。）

- パスワードの初期設定は“ 0000 ”です。
- パスワードを変更する場合は、『パスワード変更』で新しいパスワードに変更できます。（下記参照）

※ 正しいパスワードを入力しないと視聴制限レベルは変更されません。

■『パスワード』で『変更』を選んでENTERボタンを押したとき
番号ボタンで前に設定したパスワード（4桁の数字）を入力し、次に新しいパスワードを入力して、再度新しいパスワードを入力後ENTERボタンを押します。
（番号ボタンはリモコンモードがDVDモードでなければ入力できません。）

- 本機のパスワードの初期設定は“ 0000 ”です。
- **パスワードは忘れないようにしてください。**
- 正しいパスワードを入力しない限り設定内容を変更できません。

6 『特殊設定』を選んだとき

ご注意

- クローズド・キャプション（字幕）信号入りのDVDには 、 、 のマークが表示されています。クローズド・キャプション（字幕）信号が入っていないDVDでは字幕は出ません。
- 字幕の文字には大文字、小文字、イタリック文字（斜体）などがありDVDによって異なります。本機では選べません。
- 字幕を表示させるには、市販のキャプションデコーダが必要です。

1
2
DVD設定画面以外からおこなう場合、106ページ操作*1*、*2* をお読みください。

3
カーソルボタン（◀,▶）で『特殊設定』のタグアイコンを選択し、ENTERボタンを押します。
- 特殊設定の画面に入ります。

キャプション
DVDに記録されているクローズド・キャプション（字幕）を画面に表示させるか、させないかの設定ができます。（字幕を表示させるにはキャプションデコーダー（市販）が必要です。）

スライド間隔時間
静止画（JPEG方式）再生において、次の静止画に切り替わる間隔時間が設定できます。

※**『特殊設定』を終了するときは**
カーソルボタン（▲,▼）で『終了』を選択しENTERボタンを押します。（DVD設定画面に戻ります。）

（リモコン）　（リモコン）

特殊設定
キャプション　表示しない
スライド間隔時間　5SEC
＞終了（次のメニュー）
選択：▼▲◀▶　決定：ENTERボタン

4
カーソルボタン（▲,▼）で設定する内容を選択し、ENTERボタンを押します。

■『キャプション』を選んだとき
- カーソルボタン（▲,▼）で設定するキャプション表示を選びます。
  - ◎ **表示しない ＜工場出荷時＞**
    キャプション（字幕）を画面に表示しないときに選びます。
  - ◎ **表示する**
    キャプション（字幕）入りDVDを再生し、そのキャプション（字幕）を画面に表示するときに選びます。

※**『キャプション』を終了するときは**
ENTERボタンを押します。

■『スライド間隔時間』を選んだとき
- カーソルボタン（▲,▼）で時間を設定します。
  - ◎ **5〜15秒**までの範囲で、1秒単位で設定できます。
    ＜工場出荷時：5秒＞

（リモコン）　（リモコン）

特殊設定
キャプション　表示しない
表示する
選択：▼▲◀▶　決定：ENTERボタン

特殊設定
スライド間隔時間　5SEC
選択：▼▲◀▶　決定：ENTERボタン

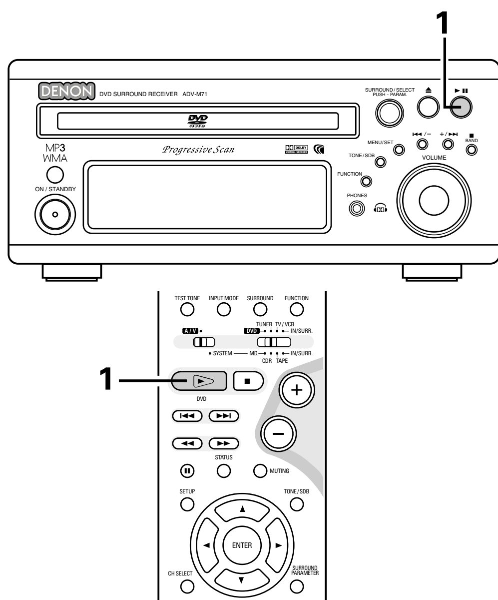
26 システム機能について

★本機をD-M31シリーズのMDレコーダー（DMD-M31）またはカセットデッキ（DRR-M31）とシステム接続すると、さらに使いやすさが向上します。（接続のしかたは、38～40ページの『D-M31シリーズシステム機器の接続のしかた』を参照してください。）

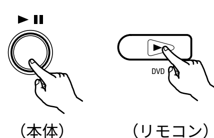
★接続した機器と入出力ファンクションの設定が合っていないとシステム機能は正常に働きません。必ずご購入の機器と入出力ファンクションを合わせてご使用ください。（104ページ参照）

（1）オートパワーオン機能

★電源がスタンバイ状態のとき、本体のプレイ/ポーズボタン（▶/❚❚）またはリモコンのDVDプレイボタン（▶）を押すだけで本機の電源が入り、本機にディスクが装着されていればディスクの再生をおこなうことができます。

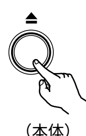


1 本機がスタンバイ状態のとき、本体のプレイ/ポーズボタンまたはリモコンのDVDプレイボタンを押すだけで、本機の電源が入ります。ディスクが装着されている場合は、ディスクの再生をはじめます。



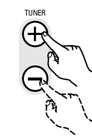
（本体）　（リモコン）

※ **本機がスタンバイ状態のとき、ディスクホルダーを開けた場合もオートパワーオン機能で本機の電源が入ります。**



（本体）

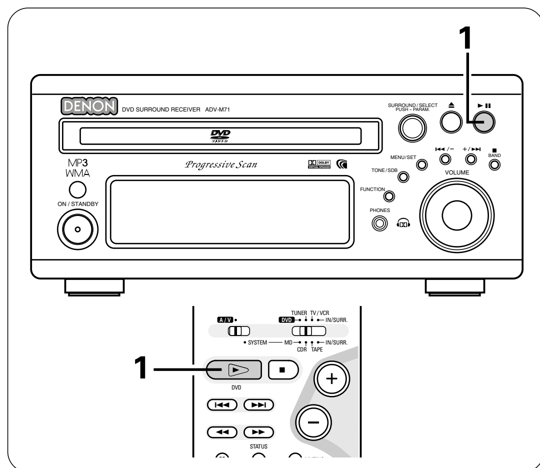
- **ラジオ放送を聞く場合**は、リモコンのチューナープリセット＋、－ボタンを押すだけで、本機の電源が入り、ラジオを受信します。
- D-M31シリーズのMDレコーダー（DMD-M31）またはカセットデッキ（DRR-M31）とシステム接続すると、同様にオートパワーオン機能が働きます。詳細は各機器の取扱説明書を参照してください。



（リモコン）

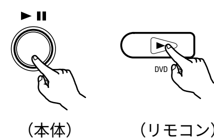
（2）オートファンクション機能

★ボタン1つの操作でファンクションを『DVD』に切り替えて、ディスクの再生をおこなうことができます。



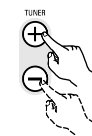
1 **本機以外の機器（カセットデッキ、MDレコーダー）の再生中に本体のプレイ/ポーズボタンまたはリモコンのDVDプレイボタンを押します。**

- 再生中の機器の再生が停止します。同時に本機のファンクションが『DVD』に切り替わり、ディスクが装着されていればディスクの再生をはじめます。



（本体）　（リモコン）

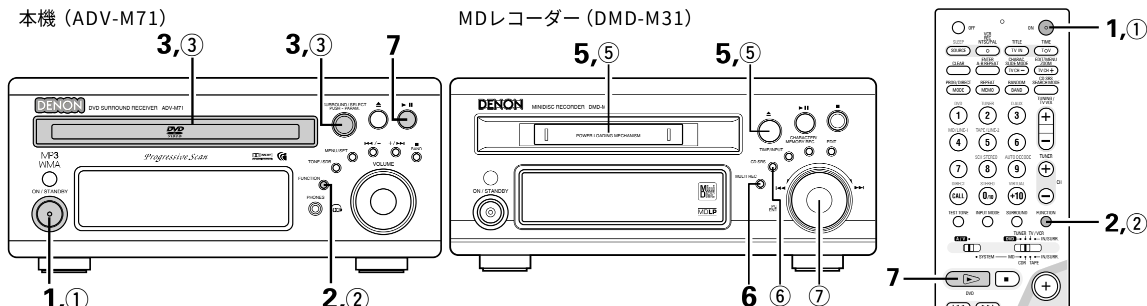
- **ラジオ放送を聞く場合**は、リモコンのチューナープリセット＋、－ボタンを押します。
- D-M31シリーズのMDレコーダー（DMD-M31）またはカセットデッキ（DRR-M31）とシステム接続すると、同様にオートファンクション機能が働きます。詳細は各機器の取扱説明書を参照してください。
- AUXやD.AUX入出力設定にて接続された機器に対しては、オートファンクション機能は働きません。



（リモコン）

（3）CD→MD録音機能（ADV-M71、DMD-M31、システムコード接続時）

★CDを簡単にミニディスクに録音することができます。あらかじめ録音入力の切り替え（アナログ、デジタル）と録音レベルの確認と調節をおこなってください。



1 同期録音機能

1	**本機の電源を入れます。** ● システムの電源が入ります。 （ADV-M71）（リモコン）
2	**ファンクションボタンを押して、ファンクションを『DVD』にします。** （ADV-M71）（リモコン）
3	**本機のディスクホルダーを開けてCDを載せ、ディスクホルダーを閉めます。** （ADV-M71）
4	**ディスプレイにCDの総曲数と総時間が表示されるのを確認します。** **【例】**総曲数：16曲、総時間：53分20秒のCDの場合 16Tr 53:20
5	**MDレコーダーのMD挿入口に、録音するMDを入れます。**
6	**MDレコーダーの録音ボタンを1回押して、録音一時停止状態にします。** MULTI REC （DMD-M31）
7	**本体のプレイ/ポーズボタンまたはリモコンのDVDプレイボタンを押します。** ● 自動的にCDの録音をはじめます。 （ADV-M71）（リモコン）

※ CDの再生が終わると、録音一時停止状態になります。

2 シンクロ録音機能（CDのみ）

①〜⑤	1の**1〜5と同じ操作をおこないます。**
⑥	**MDレコーダーのCDシンクロ録音ボタンを押して、シンクロ録音モードを選びます。** CD SRS （DMD-M31） ●ボタンを押すたびに、次のように切り替わります。 SRS1disc Rec?：1枚のCDをすべて録音します。 ↓ SRS Make Gr?：1枚のCDをすべて録音し自動的に1つのグループとして登録されます。 ↓ SRS1Tr Rec?：CDの最初の1曲のみを録音します。 ※ 本機の⏮ボタンまたは⏭ボタンで曲番を選択した後、MDレコーダーで“SRS 1Tr Rec?”を指定すると希望の1曲のみシンクロ録音します。
⑦	**MDレコーダーのエンターボタンを押します。** ●自動的にCDの録音がはじまります。 PUSH ENTER （DMD-M31）

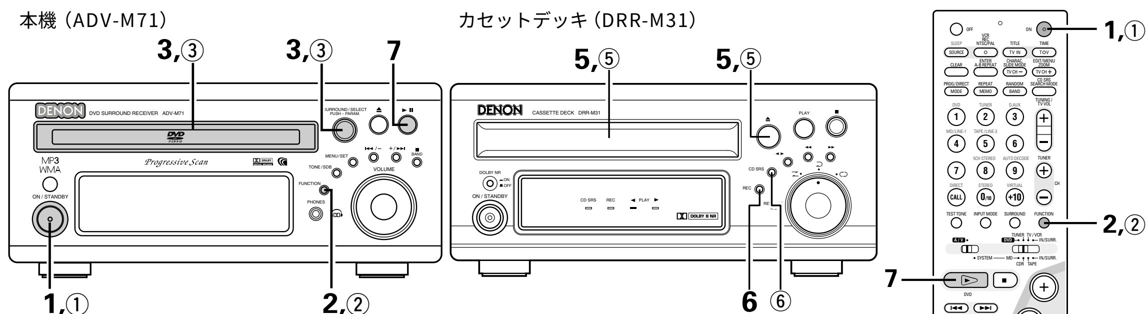
※ CDに収録されているすべての曲の再生が終わると、本機とMDレコーダーは自動的に停止します。
※ また、CDの再生が終わらないうちにMD一杯に録音されたときも、本機とMDレコーダーは自動的に停止します。
※ **シンクロ録音を止めるとき**は、本機またはMDレコーダーのストップボタン（■）を押してください。

ご注意

- 本機のファンクションがDVD以外のときは、動作しません。
- プログラム再生モードのとき、シンクロ録音機能は動作しません。また、ランダム再生モード、リピート再生モードのときは、それぞれのモードを解除して動作します。

（4）CD→TAPE録音機能（ADV-M71、DRR-M31、システムコード接続時）

★ CDを簡単にカセットテープに録音することができます。



1 同期録音機能

1	**本機の電源を入れます。** ● システムの電源が入ります。 ON / STANDBY　ON （ADV-M71）（リモコン）
2	**ファンクションボタンを押して、ファンクションを『DVD』にします。** FUNCTION　FUNCTION （ADV-M71）（リモコン）
3	**本機のディスクホルダーを開けてCDを載せ、ディスクホルダーを閉めます。** （ADV-M71）
4	**ディスプレイにCDの総曲数と総時間が表示されるのを確認します。** **【例】** 総曲数：16曲、総時間：53分20秒のCDの場合 16Tr 53:20
5	**カセットホルダーを開けて、録音するカセットテープを載せ、カセットホルダーを閉じます。** （DRR-M31）
6	**カセットデッキの録音ボタンを1回押して、録音一時停止状態にします。** REC （DRR-M31）
7	**本体のプレイ/ポーズボタンまたはリモコンのプレイボタンを押します。** ● 自動的にCDの録音をはじめます。 DVD （ADV-M71）（リモコン）

※ CDの再生が終わると、録音一時停止状態になります。

2 シンクロ録音機能（CDのみ）

①～⑤	**1の1～5と同じ操作をおこないます。**
⑥	**カセットデッキのCDシンクロ録音ボタンを押します。** ● 自動的にCDの録音をはじめます。 CD SRS （DRR-M31）

※ CDに収録されているすべての曲の再生が終わると、本機とカセットデッキは自動的に停止します。
※ また、CDの再生が終わらないうちにカセットテープ一杯に録音されたときも、本機とカセットデッキは自動的に停止します。
※ **シンクロ録音を止めるとき**は、本機またはカセットデッキのストップボタン（■）を押してください。

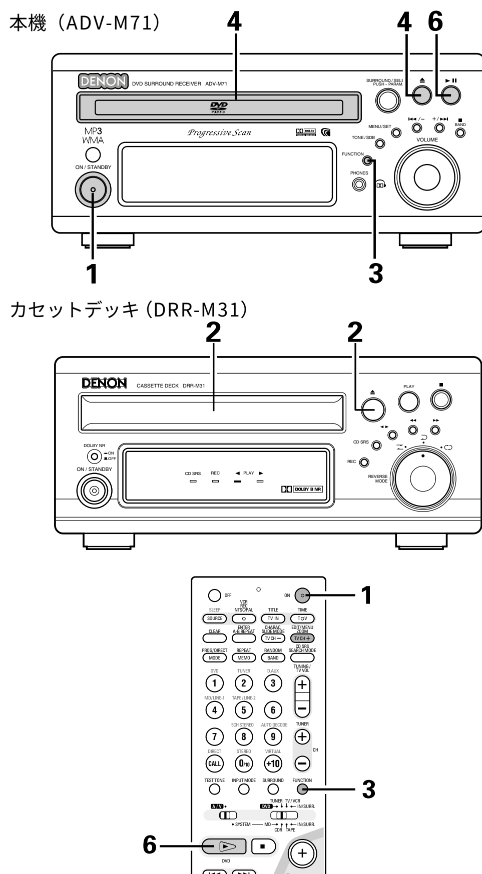
ご注意

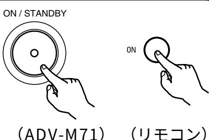
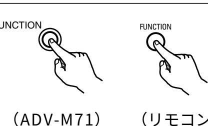
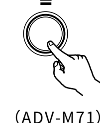
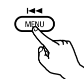
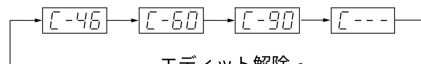
- 本機のファンクションがDVD以外のときは、動作しません。
- プログラム再生モードのとき、シンクロ録音機能は動作しません。また、ランダム再生モード、リピート再生モードのときは、それぞれのモードを解除して動作します。

(5) エディット編集機能（ADV-M71、DRR-M31、システムコード接続時）

★録音用カセットテープの長さ（テープ時間）に合わせて、CDの曲をA面とB面に分割して自動編集することができます。（CDのみ）
★CDの収録曲数が25曲まで編集録音できます。26曲以上収録されているCDではエディット操作はできません。

【例】収録曲数：16曲、収録時間：56分、録音用カセットテープ：C-60の場合



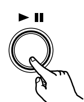
1	**本機の電源を入れます。** ● システムの電源が入ります。  （ADV-M71）（リモコン）
2	**カセットホルダーを開けて、録音するカセットテープを載せ、カセットホルダーを閉めます。** ※ A面を上に向けて入れます。  （DRR-M31）
3	**ファンクションボタンを押して、ファンクションを『DVD』にします。**  （ADV-M71）（リモコン）
4	**本機のディスクホルダーを開けてCDを載せ、ディスクホルダーを閉めます。** 16Tr 56:00  （ADV-M71）
5	**リモコンのMENUボタンを押して、録音するカセットテープの長さを合わせます。**  （リモコン） ● 例えば、60分のカセットテープを使用する場合は、エディットボタンを2回押してください。（カセットテープの長さはA面とB面を合わせた時間です。） TapeEdit C-60 ※ MENUボタンを続けて押すたびに、表示が次のように切り替わります。  C-46 → C-60 → C-90 → C--- → エディット解除 カセットテープの長さを設定後、約4秒経つと、A面に録音する曲番とカセットテープの残り時間が、表示されます。 （曲番1〜9をA面、A面の残り2分40秒の例） E 01-09A02:40 その後数秒おきにB面の曲番と残り時間、A面の曲番と残り時間が交互に表示されます。 （曲番10〜16をB面、B面の残り1分20秒の例） E 10-16B01:20 ※ 残り時間が " OVER " と表示された場合は、すべての曲を録音できませんので、カセットテープの長さを変更してください。 ※ 46、60、90分以外の設定をおこなう場合は、" C--- " が表示されているときにリモコンのテンキーと+10ボタンで、時間を入れてください。99分までの設定ができます。時間の入力のしかたはCDのダイレクト選曲と同じです。 **【例】**54分に設定する場合 " C--- " が表示されているときに、テンキーの +10、+10、+10、+10、+10、4 を押してください。

6

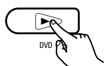
本機のプレイ/ポーズボタンまたはリモコンのDVDプレイボタンを押します。

- CDの再生およびカセットテープの録音が同時にはじまります。

01Tr 00:01

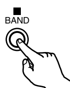


（ADV-M71）

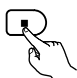


（リモコン）

※ **エディット編集機能を止めるとき**は、本機のストップボタンを押してください。



（ADV-M71）



（リモコン）

ご注意

- エディット編集機能は、26曲以上収録されているCDでは編集録音をすることができません。
- カセットデッキのカセットトレイに、使用するカセットテープのA面を上に向けて入れてから編集録音の操作をおこなってください。自動的にカセットテープの頭出しをしてから録音をはじめます。
- 録音されているカセットテープを編集録音に使用する場合、テープが設定時間より長いときはB面の未録音部分を残して停止しますので、一度消去してからご使用ください。
- エディット編集機能による録音の場合は、カセットデッキのリバースモードが ⇄ モードに設定されている場合A面を録音すると停止します。カセットデッキのリバースモードを ⊃ モードに切り替えてください。
- 使用するカセットテープテープがCDの収録時間より若干長くても、A面・B面それぞれの振り分け時間の関係で全曲録音できない場合があります。
- エディット編集機能動作中、►►Iボタン、I◄◄ボタン、►►ボタン、◄◄ボタンは操作できません。

MDレコーダー（DMD-M31）、カセットデッキ（DRR-M31）への同期録音機能について

- CD以外のディスク再生（DVD、ビデオCD、MP3、WMA）でも同期録音機能が動作します。
- ディスク再生時のデジタル、アナログ録音については『24 外部機器での録音について』（97ページ）を参照ください。
- 再生ディスクによっては正常に動作しない場合があります。このような場合はディスク再生をはじめてから録音を開始するマニュアル操作により、録音をおこなってください。
- シンクロ録音（CD SRS）やテープへのエディット編集録音は、CDのみの動作となります。

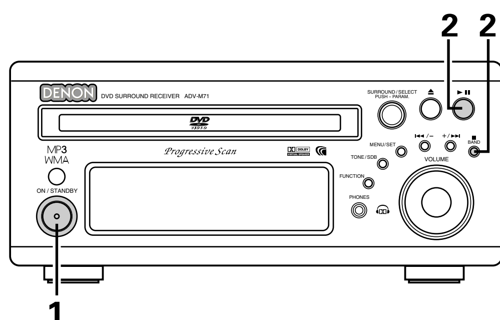
27 ラストファンクションメモリーについて

★ 本機には電源をOFFにする直前の各種ボタンの設定状態を記憶するラストファンクションメモリー機能を備えています。電源をONにすると、電源をOFFにする直前の入出力状態が呼び出されますので、再度設定し直す必要はありません。

★ また、本機にはバックアップメモリー機能を備えています。これにより電源がOFFになったとき、および電源コードを抜いた場合でも各種の設定状態を保持することができます。

28 マイコンの初期化について

★ 本体のディスプレイ表示が正常でない、または本体やリモコンのボタンで操作できない場合は、下記の操作でマイコンの初期化をおこなってください。



ご注意

- 操作***3*** の状態にならない場合は、もう一度操作***1*** からやり直してください。
- マイコンの初期化をおこなった場合は、各種ボタンやセットアップの設定内容がすべて工場出荷時の初期設定に戻ります。

1 **電源ボタンを押してスタンバイ状態にしてから、壁の電源コンセントから本機の電源コードを抜きます。**

ON / STANDBY　赤色

2 **30秒以上たってから再生ボタンと停止ボタンを同時に押しながら本機の電源コードをコンセントに差し込みます。**

▶ II　■ BAND

3 **数秒後、ディスプレイ表示が約1秒間隔で点滅するのを確認後、2つのボタンから指を離します。**

- マイコンが初期化されます。

29 故障かな？と思ったら

故障？と思っても、もう一度確かめてみましょう

■ 各接続は正しいですか
■ 取扱説明書に従って正しく操作していますか
■ スピーカーや接続した機器は正しく動作していますか

本機が正常に動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。なお、この表の各項にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、電源を切り、電源プラグを電源コンセントから抜きとり、お買い上げの販売店にご相談ください。もし、販売店でおわかりにならない場合は、当社のお客様相談窓口またはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

現　　象	原　　因	処　　置	関連ページ
電源を入れてもディスプレイが点灯せず、音も出ない。	● 電源コードの差し込みが不完全である。	● 電源コンセントへの電源プラグの差し込みを点検してください。	20
ディスプレイは点灯するが、音が出ない。	● スピーカーコードの接続が不完全である。	● しっかり接続してください。	20
	● 入力切り替えつまみの位置が不適当である。	● 正しい位置に切り替えてください。	44
	● 主音量調節つまみが絞ってある。	● 適当な位置まで回してください。	31
	● ミューティングがかかっている。	● ミューティングを解除してください。	58
	● デジタル信号が入力されていない。	● デジタル信号の入力ソースを正しく選択してください。	61
モニターが映らない。	● 本機の映像出力端子とモニターの入力端子の接続が不完全である。	● 接続が正しいか確認してください。	20
	● モニターTVの入力設定が違う。	● TVの入力切り替えを映像入力を接続した端子に設定してください。	ー
	● 本機の映像出力設定がプログレッシブ（PROGRESSIVE）のとき、ビデオ出力（VIDEO OUT）とSビデオ出力（S VIDEO OUT）端子からは出力されません。	● ビデオ出力やSビデオ出力を使用する場合は、映像出力設定をインターレース（INTERLACED）にしてください。	33
DVDからVCRにダビングできない。	● ほとんどの映画ソフトにはコピー防止信号が入っています。	● コピーはできません。	ー
スーパーウーハーが鳴らない。	● セットアップでスーパーウーハーの設定が『なし』になっている。	● セットアップで設定を『あり』にしてください。	24
	● スーパーウーハーの出力が接続されていない。	● 正しく接続してください。	20
リモコンを操作しても正常に動作しない。	● 乾電池が消耗している。	● 新しい乾電池と交換してください。	19
	● リモコンの距離が離れ過ぎている。	● 近づいて操作してください。	19
	● 本体とリモコンの間に障害物がある。	● 障害物を取り除いてください。	19
	● 操作したいボタン以外のボタンを押している。	● 操作したいボタンを押してください。	15
	● 乾電池の⊕、⊖が正しくセットされていない。	● 乾電池を正しくセットしてください。	19
	● リモコンのモード切り替えが正しく選択されていない。DVDモード、AVモード、オーディオモードが正しく選択されていない。	● 操作したい項目に従って、リモコンモード切り替えボタンを押してください。本機を操作するときはDVDモードで使用してください。	17

故障かな？と思ったら（つづき）

現　　象	原　　因	処　　置	関連ページ
再生ボタンを押しても、再生がはじまらない。または、すぐに停止する。	● 結露している。 ● DVD、ビデオCD、音楽CD以外のディスクを再生している。 ● ディスクが汚れている。	● 1、2時間放置してください。 ● DVD、ビデオCD、音楽CD以外のディスクは再生できません。 ● ディスクをきれいに拭いてください。	6 11 12
ビデオCDのメニュー再生ができない。	● プレイバックコントロール付きビデオCD以外は、メニュー再生できません。		－
早送り/早戻しをしたら画像が乱れる。	● 多少乱れが生じることがありますが、故障ではありません。		－
各ディスクボタンの操作ができない。	● ディスクによってはその操作を禁止している場合があります。		32
DVDの字幕がでない	● 字幕の入っていないDVDは字幕が表示されません。 ● セットアップで字幕が『字幕なし』になってる場合は、字幕を設定してください。		－ 107、108
DVDの音声（または字幕）言語が切り替えられない。	● 複数の言語が入っていないディスクは切り替えられません。 ● 音声（または字幕）切り替え操作では切り替えられず、DVDメニュー画面などで切り替えられるディスクもあります。		106 106
DVDのアングルを変えて見ることができない。	● 複数のアングルが記録されていないDVDは、アングルを切り替えられません。 また、複数のアングルは特定の場面のみ記録されているものがあります。		72
DVDのタイトルを選んでも再生がはじまらない。	●『視聴制限レベル』の設定を確認してください。		115、116
視聴制限で設定した暗証番号を忘れた。 DVD設定のすべての項目を工場出荷時設定に戻す。	● 以下の操作でDVD設定の内容を工場出荷時に戻してください。 DVDファンクション停止状態で、本体のファンクションボタンとメニュー/セットボタンを同時に2秒以上押してください。（本体ディスプレイに“ INITIALIZE ”が、テレビ画面に“ 初期化しました ”が表示されて消えたことを確認してください。） ※ セットアップのDVD設定内容はすべて工場出荷時の設定になります。必要に応じて、再度設定変更をおこなってください。 ※ この操作ではセットアップのクイックシステム設定、システム設定変更の内容は初期化されません。（すべての初期化をおこなうには、123ページのマイコンの初期化の操作をおこなってください。）		115、116
DVD設定で選んだ音声言語、字幕言語にならない。	● DVDにその言語の音声や字幕が入っていないときは選んでいる言語になりません。		106
4：3（16：9）の画像で映らない。	● お手持ちのテレビに合わせて、セットアップでDVD設定の『TV アスペクト』の項目を正しく設定してください。		111
希望の言語でDVDメニュー画面のメッセージが出ない。	● DVD設定の『ディスク言語設定』の『メニュー言語』を確認してください。		108、109
FM放送に“ ザー ”という雑音が入る。	●アンテナケーブルが正しく接続されていますか。	●アンテナケーブルを正しく接続してください。 ●屋外アンテナを接続してください。	22、23
AM放送に“ シー ”や“ ザー ”という雑音が入る。	●テレビなどから雑音が入っていませんか。または、放送局の干渉音が聞こえませんか。	●テレビを消してください。 ●AM用ループアンテナの位置や向きを変えてください。	22、23
AM放送に“ ブーン ”という雑音（ハム）が入る。	●電源コードを伝わってくる電波が電源周波数によって変調を受けていませんか。	●電源プラグの方向を逆に差し込んでみてください。	22、23

30 主な仕様

■オーディオ部	
●パワーアンプ部	
定格出力	フロント　：20W＋20W（負荷8Ω、20Hz～20kHz、T.H.D.0.08%）
実用最大出力	フロント　：35W＋35W　（負荷6Ω、1kHz）（EIAJ）
出力端子	スピーカーインピーダンス：6～16Ω
●アナログ部	
入力感度/入力インピーダンス	200mV/47kΩ
周波数特性	10Hz～50kHz：＋0、－3dB（2CH設定、ダイレクトモード時）
S/N比	98dB（ダイレクトモード時）
定格出力	0.6V（プリアウト）
●チューナー部	
受信周波数範囲	FM：76MHz～108MHz　AM：522kHz～1629kHz
受信感度	FM：1.5μV/75Ω　AM：20μV
FMステレオ分離度	35dB（1kHz）
●デジタル部	
デジタル入出力	フォーマット：デジタルオーディオインターフェース
■ビデオ部	
●標準映像端子	
出力レベル/インピーダンス	1Vp-p/75Ω
●S映像端子	
出力レベル/インピーダンス	Y（輝度）信号　：1Vp-p/75Ω C（色）信号　：0.286Vp-p/75Ω
●色差（コンポーネント）映像端子 出力レベル/インピーダンス	(D端子) Y（輝度）信号：　1Vp-p/75Ω CB/PB（青色）信号：　0.7Vp-p/75Ω CR/PR（赤色）信号：　0.7Vp-p/75Ω DVD　：D1/D2出力
■DVD部	
●信号形式	NTSC/PAL
●対応ディスク	(1)　DVDーVIDEOディスク 12cm片面1層、12cm片面2層、12cm両面2層（片面1層）、 8cm片面1層、8cm片面2層、8cm両面2層（片面1層） (2)　コンパクトディスク（CDーDA、VIDEO CD） 12cmディスク、8cmディスク
●アナログ音声出力	出力レベル　：1.1Vrms（LINE-1、LINE-2 OUT）
■時計/タイマー部	
時計方式	電源周波数同期方式
タイマー	エブリデイ/ワンスタイマー　：各1系統 スリープタイマー　：最大120分
■総合	
電源	AC100V　50/60Hz
消費電力	65W（電気用品安全法による）　（スタンバイ時：約0.6W）
最大外形寸法	210（幅）× 95（高さ）× 367（奥行き）mm（フット、つまみ、端子を含む）
質量	3.5kg
■リモコンユニット	RC-936
リモコン方式	赤外線パルス式
電源	DC3V　単3形乾電池2本使用

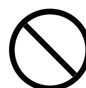
※（EIAJ）：（社）電子情報技術産業協会（略称JEITA）が制定した規格です。

主な仕様（つづき）

※ 仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

※ 本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。

※ 本機は国内仕様です。
必ずAC100Vのコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。
AC100V以外の電源には絶対に接続しないでください。



本製品は、著作権保護技術を採用しており、マクロビジョン社およびその他の著作権利者が保有する米国特許およびその他の知的財産権によって保護されています。この著作権保護技術の使用は、マクロビジョン社の許可が必要で、また、マクロビジョン社の特別な許可がない限り家庭用およびその他の一部の鑑賞用の使用に制限されています。分解したり、改造することも禁じられています。
This product incorporates copyright protection technology that is protected by method claims of certain U.S. patents and other intellectual property rights owned by Macrovision Corporation and other rights owners. Use of this copyright protection technology must be authorized by Macrovision Corporation, and is intended for home and other limited viewing uses only unless otherwise authorized by Macrovision Corporation. Reverse engineering or disassembly is prohibited.

総　目　次

総　目　次

MEMO:

MEMO:

株式会社デノン

本　　　社	**〒113-0034 東京都文京区湯島3-16-11**
お客様相談センター	**TEL：（03）3837-8919**
	受付時間　9：30〜12：00、12：45〜17：30 （弊社休日および祝日を除く、月〜金曜日）

故障・修理・サービス部品についてのお問い合わせ先（サービスセンター）については、次の URL でもご確認できます。

http://denon.jp/info/info02.html

後日のために記入しておいてください。	
購 入 店 名：	**電　話（　　-　　-　　）**
ご購入年月日：	**年　　月　　日**

Printed in China　　511 4046 104